

【MS】ピアノⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年						
授業内容	1年次に修得した演奏テクニックを発展させ、近現代の作品を中心に、テクニックと表現力が調和した高度な音楽作りを目指します。 音楽関連の知識を豊富にし、表現力豊かで魅力的な演奏ができるようにしていきます。						
授業方法	音楽的知識や技術・表現力修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。			○		
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	より高度な演奏技術の向上に努めることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間試験		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』全音楽譜出版社、または手持ちのもの 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(1) 休暇中の課題のレッスン (課題の確認) [準備・課題] 各曲のレッスンができるように準備しておく(2~3h)						
2	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(2) 譜読みの再確認 (課題の確認) [準備・課題] 各曲1曲ずつ正確に譜読みの再確認をする(2~3h)						
3	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(3) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
4	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(4) 強弱・速度・音楽用語 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する(2~3h)						
5	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(5) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(2~3h)						
6	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(6) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
7	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、中間試験に向けて仕上げる(2~3h)						
8	中間試験(調号3つまでのスケール・アルペジオ、練習曲) 試験曲を選曲(近現代の作品) ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 試験曲の譜読みに取り組む(2~3h)						
9	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
10	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(3) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
11	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(4) 音色 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する(2~3h)						
12	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を高める(2~3h)						
13	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)						
14	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
15	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(2~3h)						
時間外での学修	各々の課題について、細かく深く練習してください。 また、演奏会に積極的に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、練習時間以外にもできることはたくさんあります。幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨いてください。						
受講学生へのメッセージ	音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【MA】ピアノⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年						
授業内容	より高度な音楽作りを心掛け、個々の希望する曲などは可能な限り取り入れ、最大限の成長を目指します。幅広く音楽関連の素養を身に付け、音楽表現もより豊かにし、魅力的で感動的な演奏ができるようにしていきます。						
授業方法	音楽的知識や技術・表現力修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。			○		
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	より高度な演奏技術を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	音楽的感性を磨く努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間試験		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(1) 休暇中の課題のレッスン、譜読みの再確認 (課題の確認) [準備・課題] 各曲のレッスンができるように準備しておく 各曲1曲ずつ正確に譜読みの再確認をする(2~3h)						
2	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
3	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(3) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
4	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(4) 音楽性 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高める(2~3h)						
5	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(5) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)						
6	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(6) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
7	ハノン、練習曲、バッハ、選曲した曲(7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、中間試験に向けて仕上げる(2~3h)						
8	中間試験(調号4つ以上のスケール・アルペジオ、バッハ：インヴェンション・シンフォニア・平均律のどれか1曲) 試験曲を選曲(自由曲) ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 試験曲の譜読みに取り組む(2~3h)						
9	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
10	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(3) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
11	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(4) 音色 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する(2~3h)						
12	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を高める(2~3h)						
13	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)						
14	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
15	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(2~3h)						
時間外での学修	各々の課題について、細かく深く練習してください。また、演奏会に積極的に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、練習時間以外にもできることはたくさんあります。幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨いてください。						
受講学生へのメッセージ	音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【MS】電子オルガンⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年 上園： 音楽講師・30年						
授業内容	電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、1曲目は自身で選曲した任意の新規レパートリー演奏に取り組みます。2曲目は、個々の今後拡充したいジャンルにおいて、比較的難易度の高い候補曲を複数ピックアップし、その中から演奏曲を選曲して取り組みます。どちらにおいても、1年次よりも更に種々の表現にこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。			○		
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。			◎		
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ2曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	第1週授業の際に、1曲目で取り組む自由曲の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。また、2曲目で取り組みたいジャンルを踏まえて、候補曲をピックアップし、音源・楽譜などを準備してきてください。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	1曲目に取り組む自由曲を確認／2曲目の選曲候補やジャンルを決定 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]用意した自由曲を練習し、まず自身の力の範囲内で曲全体を仕上げてくる。(2～3h)						
2	1曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
3	1曲目：演奏追究(2) 曲の冒頭から2/3程度まで [準備・課題]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
4	1曲目：演奏追究(3) 曲全体 [準備・課題] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
5	1曲目：演奏追究(4) 仕上げ [準備・課題] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏を仕上げる。(2～3h)						
6	2曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/4程度まで [準備・課題]曲の冒頭から1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
7	2曲目：演奏追究(2) 前回と同範囲 [準備・課題]曲の冒頭から1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
8	2曲目：演奏追究(3) 曲の冒頭から2/4程度まで [準備・課題]曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
9	2曲目：演奏追究(4) 前回と同範囲 [準備・課題]曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
10	2曲目：演奏追究(5) 曲の冒頭から3/4程度まで [準備・課題]曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
11	2曲目：演奏追究(6) 前回と同範囲 [準備・課題]曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
12	2曲目：演奏追究(7) 曲全体 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
13	2曲目：演奏追究(8) 前回と同範囲 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏を仕上げる。前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる。(2～3h)						
14	1曲目：演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [準備・課題]1曲目のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
15	2曲目：演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [準備・課題]2曲目のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
時間外での学修	・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ1曲目の練習を継続しましょう。						
受講学生へのメッセージ	自編曲に取り組むことも可能です。 1年次以上に魅力的な演奏に仕上げていきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MA】電子オルガンⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年 上園： 音楽講師・30年						
授業内容	前期に引き続き、電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、1曲目は自身で選曲した任意の新規レパートリー演奏に取り組みます。2曲目は、個々の今後拡充したいジャンルにおいて、比較的難易度の高い候補曲を複数ピックアップし、その中から演奏曲を選曲して取り組みます。どちらにおいても、種々の表現にこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。			○		
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に編曲・演奏に取り入れて表現することができる。			◎		
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って編曲・演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	各曲を編曲・演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ2曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	第1週授業の際に、1曲目で取り組む自由曲の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。また、2曲目で取り組みたいジャンルを踏まえて、候補曲をピックアップし、音源・楽譜などを準備してきてください。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	1曲目に取り組む自由曲を確認/2曲目の選曲候補やジャンルを決定 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]用意した自由曲を練習し、まず自身の力の範囲内で曲全体を仕上げてくる。(2～3h)						
2	1曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]曲の1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
3	1曲目：演奏追究(2) 曲の冒頭から2/3程度まで [準備・課題]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
4	1曲目：演奏追究(3) 曲全体 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
5	1曲目：演奏追究(4) 仕上げ [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏を仕上げる。(2～3h)						
6	2曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/4程度まで [準備・課題]曲の1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
7	2曲目：演奏追究(2) 前回と同範囲 [準備・課題]曲の1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
8	2曲目：演奏追究(3) 曲の冒頭から2/4程度まで [準備・課題]曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
9	2曲目：演奏追究(4) 前回と同範囲 [準備・課題]曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
10	2曲目：演奏追究(5) 曲の冒頭から3/4程度まで [準備・課題]曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
11	2曲目：演奏追究(6) 前回と同範囲 [準備・課題]曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
12	2曲目：演奏追究(7) 曲全体 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
13	2曲目：演奏追究(8) 前回と同範囲 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。また、前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる。(2～3h)						
14	1曲目：演奏の仕上げ確認と最終アドバイス [準備・課題]1曲目アドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
15	2曲目：演奏の仕上げ確認と最終アドバイス [準備・課題]2曲目のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
時間外での学修	・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ1曲目の練習を継続しましょう。						
受講学生へのメッセージ	自編曲に取り組むことも可能です。 卒業に向けて、より高度な演奏に、積極的に取り組んでいきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MS】副科ピアノⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	1年次に修得した基礎テクニックや音楽表現を更に発展させていきます。各々の目標に合わせて取り組みながら、演奏力・音楽力を高めていきます。						
授業方法	音楽的知識や技術・表現力修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	演奏技術を向上することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1 またはソナタアルバム1』指定なし 前年度購入済						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ(1) 休暇中の課題のレッスン (課題の確認) [準備・課題] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく(1~2h)						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ(2) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 譜読みが正確にできているか確認する(1~2h)						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ(3) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(1~2h)						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ(4) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする(1~2h)						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ(5) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける(1~2h)						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ(6) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける(1~2h)						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ(7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで仕上げる(1~2h)						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 各曲を正確に譜読みをする(1~2h)						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(1~2h)						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(3) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする(1~2h)						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(4) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける(1~2h)						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける(1~2h)						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(1~2h)						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、よく弾き込む(1~2h)						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(1~2h)						
時間外での学修	毎日練習することはもちろんですが、様々な音楽を聴き、音楽的知識を身に付けて、ピアノ演奏に活かすことができるようにしてください。						
受講学生へのメッセージ	1年次に修得した演奏技術を更にレベルアップし、豊かなピアノ演奏ができるように取り組みましょう。オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MA】副科ピアノⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	ピアノの演奏法を追求し、各々の目標に向けて取り組みながら、更に演奏技術や表現力を高めていきます。						
授業方法	音楽的知識や技術・表現力修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	演奏技術を向上することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1 またはソナタアルバム1』指定なし 前年度購入済						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(1) 休暇中の課題のレッスン (課題の確認) [準備・課題] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく(1~2h)						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(2) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 譜読みが正確にできているか確認する(1~2h)						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(3) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(1~2h)						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(4) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする(1~2h)						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(5) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける(1~2h)						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(6) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける(1~2h)						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで仕上げる(1~2h)						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 各曲を正確に譜読みをする(1~2h)						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(1~2h)						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(3) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする(1~2h)						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(4) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける(1~2h)						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける(1~2h)						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(1~2h)						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、よく弾き込む(1~2h)						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲(8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(1~2h)						
時間外での学修	毎日練習することはもちろんですが、様々な音楽を聴き、音楽的知識を身に付けて、ピアノ演奏に活かすことができるようにしてください。						
受講学生へのメッセージ	演奏技術を更にレベルアップし、豊かなピアノ演奏ができるよう取り組みましょう。オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MS】副科電子オルガンⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽講師・30年						
授業内容	引き続き電子オルガンの演奏法を学びます。市販のデータを分析し、入力技術を学び、演奏法を研究し習得します。スコアリードに挑戦します。						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。			○		
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジの意図が読み取れる。			○		
	技能	データをいかした演奏力の向上。 表情豊かな演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	春休みの課題発表 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
2	次の曲決め [準備・課題]練習にとりかかる(1~2h)						
3	レジスト分析、操作や、タッチに注意して演奏 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
4	レジスト分析 [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
5	レジスト分析 [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
6	スコアリードについて [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
7	スコアリード実習 レパートリーを増やす [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
8	スコアリード実習 レパートリーを増やす [準備・課題]学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
9	スコアリード実習 レパートリーを増やす [準備・課題]学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
10	スコアリード実習 レパートリーを増やす タッチなど奏法にも注意 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
11	スコアリード実習 レパートリーを増やす タッチなど奏法にも注意 [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
12	スコアリード実習 レパートリーを増やす [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
13	試験に向けての取り組み [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
14	弾き込み 暗譜仕上げ [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
15	弾き込み 仕上げ [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、毎日練習しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MA】副科電子オルガンⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽講師・30年						
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、小アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し習得します。						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解する。			○		
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。表情豊かな演奏ができる。			○		
	技能	データをいかした演奏力の向上。			◎		
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習し、課題に取り組む。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	授業態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の宿題を発表する [準備・課題] 次の課題に取り組む(1~2h)						
2	前期の復習 [準備・課題] 次の曲の練習にとりかかる(1~2h)						
3	電子オルガンの操作、奏法など ステージアの機能について [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
4	レジストについて [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
5	レジスト分析 [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
6	レバートリーを増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
7	レバートリー増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
8	レバートリー増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
9	小アレンジに挑戦 [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
10	小アレンジ実習 [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
11	小アレンジ実習 [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
12	オルガン奏法について [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
13	試験に向けての取り組み [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
14	弾き込み 暗譜 [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
15	弾き込み 仕上げ [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。						
受講学生へのメッセージ	毎日の練習を怠らない様、空き時間を利用して、電子オルガンに向いましょう。 [オフィスアワー] 当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MA】 P・O r アンサンブルⅡ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・相原 里美						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・25年						
授業内容	1年次に引き続き、アンサンブルの魅力や難しさ、協調性などを学びます。アンサンブル演奏を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術、表現力を共に高めていきます。						
授業方法	演習を中心として、アンサンブル演奏の知識・技術修得に向けて、1組ずつ演奏・指導をしながら授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。			△		
	思考・判断・表現	楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	パートナーと十分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表		-	5	5	-	10
	受講態度		10	-	-	20	30
	合計(点)		10	35	35	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ピアノコンチェルト(1) 譜読みの確認 (課題の確認) [準備・課題] レッスンまでに各自正確に譜読みしておく (1~2h)						
2	ピアノコンチェルト(2) 合わせ (課題の確認) [準備・課題] ゆっくりなテンポで合わせて弾けるようにしておく (1~2h)						
3	ピアノコンチェルト(3) テクニックの向上 (課題の確認) [準備・課題] スムーズに弾けるようにする (1~2h)						
4	ピアノコンチェルト(4) バランスの確認 (課題の確認) [準備・課題] 自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える (1~2h)						
5	ピアノコンチェルト(5) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける (1~2h)						
6	ピアノコンチェルト(6) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] 表現力豊かな演奏ができるように弾き込む (1~2h)						
7	ピアノコンチェルト(7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる (1~2h)						
8	中間発表 試験曲決め(自由編成。ただしピアノ、電子オルガン両方とも演奏すること) [準備・課題] 中間発表に向けて弾き込む (1~2h)						
9	試験曲(1) 譜読みの確認 (課題の確認) [準備・課題] 各自正確な譜読みをする (1~2h)						
10	試験曲(2) 合わせ (課題の確認) [準備・課題] レッスンまでにパートナーと合わせをする (1~2h)						
11	試験曲(3) テクニックの向上 (課題の確認) [準備・課題] テクニック練習をし、自然に流れるような演奏を目指す (1~2h)						
12	試験曲(4) バランス (課題の確認) [準備・課題] 各パートの把握・理解をしてバランスづくりをする (1~2h)						
13	試験曲(5) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい曲想を付ける (1~2h)						
14	試験曲(6) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] 弾き込んで表現力を磨く (1~2h)						
15	試験曲(7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる (1~2h)						
時間外での学修	アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要ですので、責任を持って個々の練習を行いましょう。 そして授業までにパートナーとの合わせ練習を行い、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立し、より質の高い音楽が求められるように準備してください。						
受講学生へのメッセージ	授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【MA】ピアノ指導法		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	音楽教育法の一つであるリトミックを体験し、身体を使った音楽表現を通して自分自身の音楽感覚を磨きます。その後、リトミックで体得したことを子どものピアノ指導にどのように活かしていくか研究します。						
授業方法	演習を中心として、リトミックでは実際に身体を動かし、指導研究では実践・発表なども含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	指導者としての幅広い知識を身に付け、理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	リトミック体験を通して豊かな想像力、表現力を養い、指導研究に活かすことができる。			◎		
	技能	指導者としてのスキルを身に付けることができる。			△		
	関心・意欲・態度	他者とコミュニケーションを図りながら、積極的に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	-	-	-	20
	実践・発表		-	30	10	-	40
	レポート		-	20	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		20	50	10	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	その都度提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	リトミック (1) リトミックを知ろう、基礎リズム [準備・課題] 身体を動かすことに慣れる (1h)						
2	リトミック (2) 拍と拍子 (課題の確認) [準備・課題] 強拍・弱拍を考えるなどして拍子感を養う (1h)						
3	リトミック (3) リズムパターン (課題の確認) [準備・課題] リズム感を養う (1h)						
4	リトミック (4) 複リズム・補足リズム・リズム即興 (課題の確認) [準備・課題] 様々なリズムを考える (1h)						
5	リトミック (5) ダイナミック・テンポ・スペース① (課題の確認) [準備・課題] 身体を使って強弱を表現できるようにする (1h)						
6	リトミック (6) ダイナミック・テンポ・スペース② (課題の確認) [準備・課題] テンポ感を養う (1h)						
7	リトミック (7) ダイナミック・テンポ・スペース③ (課題の確認) [準備・課題] より自由に身体で表現できるようにする (1h)						
8	リトミック (8) フレーズ (課題の確認) [準備・課題] フレーズ感を養う (1h)						
9	リトミック (9) 創造的な動き (課題の確認) [準備・課題] 音楽を聴いて想像力・創造力を働かせ、身体で表現することに繋げる (1h)						
10	リトミック (10) ピアノによるイメージ即興・まとめ (課題の確認) [準備・課題] 自由な発想で自由にピアノで表現できるようにする (1h)						
11	テキストを使って (1) 音・リズム・拍子感など (課題の確認) [準備・課題] 提示された曲を弾けるようにしておく (1h)						
12	テキストを使って (2) 強弱・テンポ・フレーズなど (課題の確認) [準備・課題] 提示された曲を弾けるようにしておく (1h)						
13	テキストを使って (3) イメージ・表現など (課題の確認) [準備・課題] 提示された曲を弾けるようにしておく (1h)						
14	テキストを使って (4) 指導案作成① (課題の確認) [準備・課題] 提示された曲を弾けるようにしておく (1h)						
15	テキストを使って (5) 指導案作成② (課題の確認) [準備・課題] 提示された曲を弾けるようにしておく (1h)						
時間外での学修	リトミックは豊かな人間性を育成することを目的とした音楽教育です。自分自身が日頃から日常の小さなことにも感じる心を持ち、豊かな想像力、表現力を養うように心掛けましょう。						
受講学生へのメッセージ	リトミックでは身体を動かしますので、運動のできる服装・履物で出席してください。オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MA】ピアノ特講		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	菅田 文子・田中 康司					
資格・制限等	P・Orコース必修					
実務家教員	(菅田) 音楽療法関連施設職員・5年 (田中) 調律師・30年					
授業内容	授業前半はジャズピアノについて、ジャズの歴史とプレイスタイルを合わせて学びます。各自1台の電子ピアノに向かい、スタイルに応じた演奏や編曲を学びます。(担当：菅田)後半はピアノの歴史、構造としくみ、ピアノに関わる色々な知識を身に付け、自身の演奏、卒業後の職業などに役立てます。(担当：田中)					
授業方法	演習形式 ピアノの構造としくみは講義を中心として、DVD鑑賞、ピアノの分解、調律の体験などを通じてピアノへの理解を深めます。また学外授業としてサラマンカホールの見学をします。					
到達目標	知識・理解	ジャズの歴史とスタイルについて理解する。 ピアノの歴史、構造としくみ、ピアノに関わる色々な知識を理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	ジャズのスタンダード曲で用いられるコード進行、コードネームについて理解し演奏することができる。 ピアノの特性を理論立てて伝えることができる。ピアノの特性を自身の演奏に活かし表現することができる。			△	
	技能	ジャズピアノの即興パートを演奏できる。			○	
	関心・意欲・態度	ピアノへの理解を通じて、他の楽器や様々な音楽への興味を持ち、音楽の専門家として幅広い知識と教養を身に付けることができる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	(菅田) 実技試験	-	-	20	-	20
	(菅田) レポート	10	-	-	20	30
	(田中) 筆記試験	30	-	-	-	30
	(田中) 発表・レポート	-	10	-	-	10
	(田中) 受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	40	10	20	30	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 実習を終了して所定のレポートを提出することが単位の要件となります。					
テキスト						
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 (菅田)	ジャズの歴史とスタイル①ニューオーリンズジャズ、ブルース ジャズの歴史を学び、オールドスタイルのジャズピアノの奏法を学ぶ。ブルーノートについて理解する [準備・課題]学んだ内容を復習し、既成曲をニューオーリンズスタイルで演奏できるよう練習する (1H)					
2 (菅田)	ジャズの歴史とスタイル②スイングジャズ ジャズの歴史を学び、ビックバンドのピアノスタイルを学ぶ。コード進行、シンコペーションについて理解する [準備・課題]学んだ内容を復習し、ビックバンドのスタイルを理解する (1H)					
3 (菅田)	ジャズの歴史とスタイル③ビバップ ジャズの歴史を学び、ビバップのピアノスタイルを学ぶ。コードネームについて理解する [準備・課題]学んだ内容を復習し、ビバップのスタイルを理解する (1H)					
4 (菅田)	ジャズの歴史とスタイル④クールジャズ ジャズの歴史を学び、クールジャズのピアノスタイルを学ぶ。モードについて理解する [準備・課題]学んだ内容を復習し、クールジャズのスタイルを理解する (1H)					
5 (菅田)	ジャズの歴史とスタイル⑤フュージョン ジャズの歴史を学び、フュージョンについて学ぶ。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、フュージョンスタイルを理解する (1H)					
6 (菅田)	ジャズの歴史とスタイル⑥現在のジャズ ジャズの歴史を学び、現代のジャズの様々なスタイルについて概要を学ぶ。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、実技試験課題曲の譜読みをする (2H)					
7 (菅田)	試験前の振り返り 実技試験に向けて準備を行う。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、実技試験課題曲のアドリブパートを完成させる (2H)					
8 (菅田)	実技試験 [準備・課題]実技試験の際に得られたコメントを復習する (2H)					
9 (田中)	ピアノの構造としくみ (1) ・鍵盤楽器の歴史 (ピアノの前身楽器と、ピアノの発明・発展を学ぶ) ・ピアノにか関わる数字アラカルト ・電子楽器とアコースティック楽器の構造的違いを知る ・[準備・課題]の発表確認 [準備・課題] 国内外のピアノメーカーを国別に調べる (1h)					
10 (田中)	ピアノの構造としくみ (2) ・グランドピアノとアップライトピアノの違いを知る①全体構造 ・[準備・課題]の発表確認 [準備・課題]1つのピアノメーカーを選び、機種ごとの大きさ (間口・奥行・高さ) と重さを調べる (1h)					
11 (田中)	ピアノの構造としくみ (3) ・グランドピアノとアップライトピアノの違いを知る②打弦機構 (アクション) ・グランドピアノとアップライトピアノの違いを知る③ペダル ・[準備・課題]の発表確認 [準備・課題]古い時代のペダルを調べる (例：モーツァルトが活躍した時代のペダルの機能は今と同じか) (1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
12 (田中)	<p>ピアノの構造としくみ (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調律師の仕事を知る ①調律について知る (実演を見て体験もする) ・調律師の仕事を知る ②整調・整音、修理 ・ユーザーが出来るピアノのお手入れ (外装) 鍵盤) (金属部分) <p>・[準備・課題]の発表確認 [準備・課題] 平均律とはどんな調律方法か調べる、平均律以外にどんな調律方法があるか調べる (1h)</p>
13 (田中)	<p>ピアノの構造としくみ (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノに使われている材料と製造過程を学び、ピアノに適した環境を考える。 <p>・[準備・課題]の発表確認 [準備・課題] 実施回10の準備と課題で選んだピアノメーカーの機種ごとの特長を調べる (1h)</p>
14 (田中)	<p>ピアノの構造としくみ (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サラマンカホールの見学 ・コンサートグランド・パイプオルガン・チェンバロの試弾、ホール全体の見学をして音響、残響なども学ぶ <p>[準備・課題] サラマンカホールに関して、案内パンフレットやホームページなどを読んで予習する (1h)</p>
15 (田中)	<p>ピアノの構造としくみ (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際音楽コンクールに関する知識を身につける ・ショパンコンクール出場者及びピアノメーカー・ピアノ技術者の第一線現場について学ぶ ・ピアノ選定を学ぶ <p>・[準備・課題]の発表確認 [準備・課題] 国内外の音楽コンクールを調べる (1h)</p>
時間外での学修	<p>課題曲、ソロパートの作成など自分で課題を見つけて備えてください。 ピアノの構造としくみは、自分自身の演奏や卒業後の仕事に生かせる知識を身につけます。ピアノまた他の楽器に関しても疑問に思ったことは積極的に調べ知るように心掛けましょう。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>(菅田) オフィスアワーは研究室 (B403 : B号館4階) で毎週木曜日の13 : 00~14 : 30です。 (田中) 動きやすい服装・履物で出席してください。グランドピアノの鍵盤蓋や天屋根の分解などを体験してもらいます。オフィスアワーは教室で授業前後の休み時間です。</p>

【MS】 楽曲研究		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	柴田 恭男						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員							
授業内容	曲を分析し、研究することは、演奏、解釈に欠かせません。それは作曲家の意図を探り、隠されたメッセージを読み取ることであります。また作曲や編曲への大きな手引きにもなります。この授業では、短い曲から長大な曲まで、段階を経て、いろいろな角度からのアプローチをしていきます。きっと新たな発見があることでしょう。						
授業方法	講義を中心に進めますが、随時発表の機会を設け、自発的な授業展開をしていきます。						
到達目標	知識・理解	楽曲の形式、和声構造について、基本的な知識を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	楽曲から作曲者の意図を読み取ることができる。			○		
	技能	分析した楽曲を模範として類似したものを創作できる。			○		
	関心・意欲・態度	楽曲を分析・研究することに興味・関心を持ち、学んだことを演奏や創作に積極的に生かす努力をしながら学修に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験・レポート		45	10	10	-	65
	発表		5	5	5	5	20
	学修成果の自己評価		5	-	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		55	15	15	15	100	
評価の特記事項	試験は、定期テスト及びレポート提出で行います。受講態度は学修への取り組みや発表、提出の状況などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	授業内で指示します。また必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	楽曲研究の基礎1（音楽理論の確認） [準備・課題]音程・音階・和音の復習(2~4h)						
2	楽曲研究の基礎2（楽曲分析に必要な知識、和声音と非和声音、及び借用和音について） [準備・課題]調性判定・和音記号・コードネームの確認(2~4h)						
3	一部形式について（身近な曲を教材に） [準備・課題]一部形式の旋律の創作(2~4h)						
4	二部形式について（フォスターの作品を中心に） [準備・課題]二部形式の旋律の創作(2~4h)						
5	三部形式、複合三部形式、ロンド形式について（ソナチネアルバム、バイエルなどから） [準備・課題]基礎形式のまとめ(2~4h)						
6	器楽的小楽曲の分析（ブルグミュラーの作品から） [準備・課題]形式、和声などを分析し、授業で発表する(2~4h)						
7	変奏と変奏曲（さまざまな変化のパターンについて） [準備・課題]モーツァルトの作品の分析(2~4h)						
8	ベートーヴェンの変奏曲の分析と研究 [準備・課題]32の変奏曲の分析(2~4h)						
9	ソナタ形式について（その成立と変遷） [準備・課題]ソナタ形式についてまとめる(2~4h)						
10	ベートーヴェンのピアノソナタの分析と研究 [準備・課題]第1番の分析(2~4h)						
11	多声音楽と対位法技法について [準備・課題]二声対位法の課題の実施(2~4h)						
12	バッハのインヴェンションの分析と研究（多様性に注目して） [準備・課題]第1番の分析(2~4h)						
13	バッハのフーガの分析と研究（フーガ形式について） [準備・課題]小フーガ短調の分析(2~4h)						
14	ロマン派、印象派作品の分析と研究（作曲家の個性と特徴） [準備・課題]各作曲家お気に入りの和声を見つける(2~4h)						
15	室内楽、オーケストラ作品の分析と研究（スコアリーディングを兼ねて） [準備・課題]楽器を分類しまとめる(2~4h)						
時間外での学修	[準備・課題]としてしめた内容を（ ）の標準学修時間をめどとして取り組んで下さい。						
受講学生へのメッセージ	授業で取り上げた曲以外の曲も、積極的に分析してみてください。 オフィスアワー：質問等は授業前後の休み時間にB404教室で受け付けます。						

【MA】プレイヤー演習Ⅱ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・25年						
授業内容	ブライダルプレイヤーとしての心得を学び、電子オルガンにてチャペル式の流れを式次第にそって演習します。また、人前での演奏に必要なマナーも含めその場に適した演奏ができるようにしていきます。						
授業方法	個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。						
到達目標	知識・理解	ブライダルプレイヤーの心得を知り、チャペル式の流れを理解できる。			○		
	思考・判断・表現	その場の雰囲気を読み、新郎・新婦の動作に合わせたメリハリのある演奏ができる。			○		
	技能	真心を込めた丁寧な演奏はもちろんのこと、状況に対応した演奏（ボリューム、速度、アレンジ）ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	授業に意欲を持って参加し、学んだ内容を必ず復習する。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明（今後の授業の進め方）・予備知識（ブライダルプレイヤーのお仕事について） [準備・課題]ブライダルプレイヤーとしての仕事内容を理解する（1～2h）						
2	式次第にそって演習（チャペル式） 〈1〉流れ（音楽を入れるタイミング等） [準備・課題]どの場面で音楽を入れるかを理解し、流れを復習する（1～2h）						
3	式次第にそって演習（チャペル式） 〈2〉参列者入場曲 [準備・課題]見落としのないよう正確な譜読みをする（1～2h）						
4	式次第にそって演習（チャペル式） 〈3〉入場曲 [準備・課題]確実に止まらないように弾けるようにしておく（1～2h）						
5	式次第にそって演習（チャペル式） 〈4〉讃美歌312番 [準備・課題]一定のテンポで弾けるようにしておく（1～2h）						
6	式次第にそって演習（チャペル式） 〈5〉讃美歌430番 [準備・課題]テンポを維持し、止まらないよう弾けるようにしておく（1～2h）						
7	式次第にそって演習（チャペル式） 〈6〉指輪交換等でのBGM [準備・課題]即興で繋げられるようにする（1～2h）						
8	式次第にそって演習（チャペル式） 〈7〉新郎・新婦退場曲 [準備・課題]止まらないように弾けるようにしておく（1～2h）						
9	式次第にそって演習（チャペル式） 〈8〉参列者退場曲 [準備・課題]テンポを維持し、演奏を中断しないよう弾き続ける（1～2h）						
10	式次第にそって演習（チャペル式） 〈9〉曲想 [準備・課題]楽曲にふさわしい曲想をつける（1～2h）						
11	式次第にそって演習（チャペル式） 〈10〉演出方法（タイミング、ボリュームのメリハリのつけ方） [準備・課題]臨機応変に音量のバランスをコントロールできるようにする（1～2h）						
12	まとめ（ハプニング対処法、服装等） [準備・課題]ブライダルプレイヤーとしての自覚を持ち、どんな時でも冷静な判断ができるようにする（1～2h）						
13	試験に向けての取り組み(1) 式次第にそって演習（参列者入場～参列者退場まで） [準備・課題]全体の流れやバランスの確認をする（1～2h）						
14	試験に向けての取り組み(2) 弾き込み [準備・課題]流れを理解しながら丁寧な演奏ができるようにする（1～2h）						
15	試験に向けての取り組み(3) 仕上げ [準備・課題]臨機応変な対応ができるようにする（1～2h）						
時間外での学修	どんなリクエスト曲がきても困らないように、色んなジャンルの曲をとにかく知り、弾いてみましょう。						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して必ず学んだ内容を復習しましょう。 質問等あれば遠慮なく聞いてください。 オフィスアワーは火曜日レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【MS】演奏グレード対策(ピアノA)Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	ヤマハピアノ演奏グレード 即興演奏；A新曲課題 Bモチーフ即興 4級程度の課題実習 5級で学習した内容の確認と4級に向けての準備						
授業方法	1年次で学習した基礎から応用へ 4級内容に準じてコード付けの基礎であるスケールカデンツの確認						
到達目標	知識・理解	音楽の基礎である和声、メロディ、楽曲構成などを深く理解できる。			○		
	思考・判断・表現	音楽的知識・理解を基に、自己の内面より豊かに即興表現できる。			○		
	技能	自分流の変奏法を確立する。			◎		
	関心・意欲・態度	どの調性にも対応できるよう、日常的に練習する。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		25	25	30	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		25	25	30	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『ピアノ演奏グレード5～3級新即興演奏課題集6』松田 宣正 ヤマハミュージックメディア(1,836円) ISBN:4636135466						
参考書・教材	その他はコピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	1年次で学習した5級程度の基礎力の確認 [準備・課題]1年次で学んだ内容の復習(1～2h)						
2	コード付けについて(固有和音・スケール・カデンツ) [準備・課題]コード付けの復習と課題をこなす(1～2h)						
3	コード付けについて(借用和音・ベース進行) [準備・課題]借用和音とベース進行の復習、関連課題をこなす(1～2h)						
4	小テストにて、個々の把握状態を確認 [準備・課題]固有和音、借用和音をしっかりと理解し定着させる(1～2h)						
5	即興A課題変奏について、変奏曲集よりモーツァルト作曲「きらきら星変奏曲」演奏とアナリーゼ [準備・課題]きらきら星変奏曲を弾きながら、分析内容を復習する(1～2h)						
6	変奏曲集よりモーツァルト作曲「きらきら星変奏曲」演奏とアナリーゼ [準備・課題]きらきら星変奏曲を弾きながら、分析を深める(1～2h)						
7	変奏曲集よりモーツァルト「きらきら星変奏曲」演奏とアナリーゼ [準備・課題]きらきら星変奏曲の分析をまとめる(1～2h)						
8	課題曲集より変奏・タイプ・パターンを個々に選び応用する [準備・課題]習った内容を活かして、課題曲集から自分で分析してみる(1～2h)						
9	課題曲集より変奏・タイプ・パターンを個々に選び応用する [準備・課題]習った内容を活かして、即興演奏に繋げる(1～2h)						
10	個人チェック [準備・課題]今までに学んだ内容の定着を図る(1～2h)						
11	即興Bモチーフ即興について、4級程度の内容の説明 [準備・課題]モチーフ即興を熟す(1～2h)						
12	課題による演習 [準備・課題]学んだ内容の復習し演習する(1～2h)						
13	課題による演習 [準備・課題]学んだ内容を活かして演習する(1～2h)						
14	課題による演習 [準備・課題]即興演奏の課題を熟す(1～2h)						
15	即興A 新曲課題変奏個人チェック 即興Bモチーフ実習 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習をし、演習課題に活かす(1～2h)						
時間外での学修	モーツァルトやベートーベン等、古典の変奏曲を多く弾きこんで課題変奏のヒントを見つけて欲しい。						
受講学生へのメッセージ	変奏曲の中より、自分のタイプに合うものを見つける事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MA】演奏グレード対策(ピアノA)IV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	ヤマハピアノ演奏グレード 即興A B 4級程度の課題実習 変奏、コード付け、モチーフ演奏						
授業方法	前期に学んだコード付けの基礎を確認し、より良い変奏、表現力を身に着けるようにトレーニングする。						
到達目標	知識・理解	和声・メロディ・楽曲構成などをより深く理解できる。			○		
	思考・判断・表現	即興演奏を通して、楽しく自己表現ができる。			○		
	技能	自分流の変奏法を確立する。			◎		
	関心・意欲・態度	どんな調性にも対応できるよう、日常的に練習する。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		25	25	30	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		25	25	30	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『ピアノ演奏グレード5～3級新即興演奏課題集6』松田 宣正 ヤマハミュージックメディア(1,836円) ISBN:4636135466						
参考書・教材	その他はコピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	即興Aコード付けの演習 [準備・課題]一年次で学んだ内容の復習と演習(1~2h)						
2	スケール、カデンツ、コードパターン#b4つまでの各調でトレーニング [準備・課題]#b4つまでの調のスケール、カデンツ、コードパターンを定着させる(1~2h)						
3	スケール、カデンツ、コードパターン#b4つまでの各調でトレーニング [準備・課題]#b4つまでの調のスケール、カデンツ、コードパターンを定着させつつ演習課題を熟す(1~2h)						
4	スケール、カデンツ、コードパターン#b4つまでの各調でトレーニング [準備・課題]#b4つまでの調のスケール、カデンツ、コードパターンを定着させつつ演習課題を熟す(1~2h)						
5	スケール、カデンツ、コードパターン#b4つまでの各調でトレーニング [準備・課題]学んだ内容の復習と#b4つまでの調のスケール、カデンツ、コードパターンを定着させつつ演習課題を熟す(1~2h)						
6	個人チェック [準備・課題]今まで学んだ内容の定着を図る(1~2h)						
7	モチーフ即興、個々のパターンのチェック [準備・課題]学んだ内容の復習し、それを演習に活かす(1~2h)						
8	個々のパターンチェック [準備・課題]学んだ内容の復習し、それを演習に活かす(1~2h)						
9	実習にて個人チェック [準備・課題]学んだ内容の復習と演習課題を熟す(1~2h)						
10	実習にて個人チェック [準備・課題]学んだ内容の定着を図る(1~2h)						
11	即興A・B、4級の過去問にて模擬テスト [準備・課題]学んだ内容の復習と即興演奏の課題を熟す(1~2h)						
12	即興A・B、4級の過去問にて模擬テスト [準備・課題]より良い即興演奏を目指して演習に取り組む(1~2h)						
13	即興A・B、4級の過去問にて模擬テスト [準備・課題]より良い即興演奏を目指して演習に取り組む(1~2h)						
14	試験を前提とした実習 [準備・課題]より良い即興演奏を目指して演習に取り組む(1~2h)						
15	試験を前提とした実習 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習と即興課題をこなす(1~2h)						
時間外での学修	ピアノ演奏力の向上、表現力・テクニックが即興演奏に活かされるようにしよう。						
受講学生へのメッセージ	日頃から授業を真面目に受けてトレーニングすれば、4級なんてすぐ合格できますよ！ オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40~12:55です。						

【MS】演奏グレード対策(ピアノB)Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ演奏グレードの課題である伴奏付けを学修します。修得した知識と技術を活かし、さらに発展していきます。						
授業方法	演習を中心として、伴奏付けの知識の理解を深めながら、一人ずつ演奏・指導して授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	種々の和音を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	メロディから適切な和音・和音連結・伴奏形を判断し、音楽的に演奏することができる。			◎		
	技能	調性感や和声感をもって演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	30	-	70
	受講態度		20	-	-	10	30
	合計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『キーボードトレーニング集C』カワイ出版(1,944円)ISBN:978-4-7609-7481-8						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	カデンツについて・伴奏スタイルについて T-D-Tの4小節トレーニング(1) [準備・課題] 学修した内容を復習し、T-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
2	T-D-Tの4小節トレーニング(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、T-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
3	T-S-D-Tの4小節トレーニング(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、T-S-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
4	T-S-D-Tの4小節トレーニング(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、T-S-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
5	Iの第2転回形を含む4小節トレーニング(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、Iの第2転回形を含む課題が演奏できるようにする(1h)						
6	Iの第2転回形を含む4小節トレーニング(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、Iの第2転回形を含む課題が演奏できるようにする(1h)						
7	T-S-Tを含む4小節トレーニング(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、T-S-Tを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
8	T-S-Tを含む4小節トレーニング(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、T-S-Tを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
9	8小節トレーニング(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにする(1h)						
10	8小節トレーニング(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにする(1h)						
11	8小節トレーニング(3) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにする(1h)						
12	ドッペルドミナントを含むパターン(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
13	ドッペルドミナントを含むパターン(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
14	ドッペルドミナントを含むパターン(3) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
15	まとめ・受験対策 (課題の確認) [準備・課題] 前期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする(1h)						
時間外での学修	毎回課題を提示しますので、授業で演奏できるよう準備をしておいて下さい。						
受講学生へのメッセージ	自己練習を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MA】演奏グレード対策(ピアノB)IV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ演奏グレードの課題である伴奏付けを学修します。修得した知識と技術を活かし、さらに発展していきます。						
授業方法	演習を中心として、伴奏付けの知識の理解を深めながら、一人ずつ演奏・指導して授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	種々の和音・調性を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	メロディから適切な和音・和音連結・伴奏形を判断し、音楽的に演奏することができる			◎		
	技能	調性感や和声感をもって演奏することができる			◎		
	関心・意欲・態度	積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	30	-	70
	受講態度		20	-	-	10	30
	合計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『キーボードトレーニング集C』カワイ出版(1,944円)ISBN:978-4-7609-7481-8						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	総合課題(1) [準備・課題] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
2	総合課題(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
3	総合課題(3) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
4	総合課題(4) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
5	よく使われるコードパターン(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにする(1h)						
6	よく使われるコードパターン(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにする(1h)						
7	よく使われるコードパターン(3) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにする(1h)						
8	伴奏付け課題(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
9	伴奏付け課題(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
10	伴奏付け課題(3) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
11	伴奏付け課題(4) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
12	伴奏付け課題(5) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
13	伴奏付け課題(6) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
14	伴奏付け課題(7) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
15	まとめ・受験対策 (課題の確認) [準備・課題] 後期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする(1h)						
時間外での学修	毎回課題を提示しますので、授業で演奏できるよう準備をしておいて下さい。						
受講学生へのメッセージ	自己練習を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MS】演奏グレード対策(電子オルガン)Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	エレクトーングレード試験官・25年、音楽講師・30年						
授業内容	引き続き、ヤマハの演奏グレードの項目である、即興演奏A、即興演奏B、初見演奏について学びます。色々なジャンルの演奏スタイルを理解し、変奏の方法、伴奏形など、まとめ方を実習しながら勉強していきます。初見演奏のポイントを、理解し練習します。						
授業方法	グループレッスンですが、個別指導も行います。						
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの音楽を体験し、理解する。			○		
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。			○		
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。			◎		
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項							
テキスト	授業で提示します。資料を配布します。						
参考書・教材	必要に応じて紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の課題の確認 [準備、課題]スケールとカデンツなど、今までに学んだ内容を復習する(3~6h)						
2	オルターネーティングベースについて確認 [準備、課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(5~7h)						
3	課題実習、コードパターンで練習 [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
4	カウンターメロディについて [準備、課題]学んだ内容を復習し、実習する(5~7h)						
5	課題実習 [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
6	2ビート実習 [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
7	ラテンのリズム実習 [準備、課題]学んだ内容を復習し、実習する(5~7h)						
8	ワルツ実習 [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
9	メロディ変奏(フェイク)について [準備、課題]学んだ内容を復習し、実習する(5~7h)						
10	ブロック奏について [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
11	全体のまとめ方、構成 [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
12	即興A課題実習 試験に向けて [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
13	即興A課題実習 試験に向けて [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
14	初見課題実習 [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
15	予見について 試験に向けて [準備、課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
時間外での学修	学習した事を毎日トレーニングしましょう。 積極的に課題に取り組みましょう。 問題をたくさんやりましょう。						
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。いつでも良いので、聞いてください。 オフィスアワーは、講義後に教室で行います。						

【MA】演奏グレード対策(電子オルガン)Ⅳ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	エレクトーングレード試験官・25年、音楽講師・30年						
授業内容	今までに学んだ事の確認と発展(即興演奏A) 即興演奏B(モチーフ即興) 初見演奏について学びます。色々なジャンルの演奏スタイルを理解し、変奏の方法、伴奏形など、まとめ方を実習しながら勉強していきます。初見演奏のポイントを、理解し練習します。5級受験に向けて、実習します。						
授業方法	グループレッスンですが、個別指導も行います。						
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの音楽を体験し、理解する。			○		
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。			○		
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。			◎		
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項							
テキスト	授業で提示します。資料を配布します。						
参考書・教材	必要に応じて紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	夏休みの課題発表 前期に学んだ項目の確認 [準備・課題]学んだ内容を復習する(3~6h)						
2	モチーフ即興について [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
3	ゼクエツについて [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
4	形式について [準備・課題]学んだ内容を復習し、実習する(5~7h)						
5	中間部の作り方について(コード進行) [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
6	モチーフ即興実習 [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
7	クライマックスをどこにおくか [準備・課題]学んだ内容を復習し、実習する(5~7h)						
8	全体のまとめ方について [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
9	モチーフの発展について [準備・課題]学んだ内容を復習し、実習する(5~7h)						
10	即興B 課題実習 [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
11	即興B 課題実習 [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
12	即興A 課題実習 即興B 課題実習 試験に向けて [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
13	即興A 課題実習 即興B 課題実習 試験に向けて [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
14	初見演奏 課題実習 [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
15	予見について 試験に向けて [準備・課題]学んだ内容を理解し、実習する(5~7h)						
時間外での学修	学習した事を毎日トレーニングしましょう。 積極的に課題に取り組みましょう。問題をたくさんやりましょう。 スケールとカデンツは、確実に弾けるようにしましょう。						
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。いつでも良いので聞いてください。 オフィスアワーは、講義後に教室で行います。						

【MS】指導グレード対策AⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	指導グレード 筆記・実技試験に向けての内容理解 課題問題のアナリゼ、トレーニング						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 課題の実習と過去問題集の分析、キーボードハーモニー、コードトレーニング、オーケストレーション (移調楽器)を確認する。管弦楽法						
到達目標	知識・理解	指導グレード4級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる。			◎		
	思考・判断・表現	指導グレード4級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる			○		
	技能	テーマをソルフェージュし、楽譜を見たら頭で即、音が鳴るようにする。			○		
	関心・意欲・態度	実技試験における楽曲の解釈と“演奏表現力”を高める。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	10	-	40
	実技試験		20	10	10	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『指導グレード5・4・3級実技試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,296円) ISBN:9784864617420 『指導グレード5・4・3級筆記試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,404円) ISBN:9784864617437 1年次「指導グレード対策AⅠ・Ⅱ」履修者は購入済						
参考書・教材	その他の資料はコピーにて渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コード進行、コードパターンの確認 [準備・課題]学んだコード進行の復習(1～2h)						
2	借用和音、キーボードハーモニー# b 4つまで [準備・課題]借用和音を含んだコードを# b 4つに、移調奏する(1～2h)						
3	既成曲のコード付け、移調 [準備・課題]既成曲の移調練習をする(1～2h)						
4	既成曲のコード付け、移調 [準備・課題]既成曲の移調練習をする(1～2h)						
5	伴奏付け課題 [準備・課題]伴奏付けの課題をこなす(1～2h)						
6	伴奏付け応用課題、演習 [準備・課題]伴奏付けの課題を練習、及び移調奏して定着させる(1～2h)						
7	新曲視唱から弾き歌いへ [準備・課題]新曲視唱、弾き歌いの課題を熟す(1～2h)						
8	新曲視唱から弾き歌いへ [準備・課題]新曲視唱、弾き歌いの課題を熟す(1～2h)						
9	オーケストレーション、1年生の復習より課題へ導入 [準備・課題]今まで学んできた内容の復習(1～2h)						
10	移調楽器の理解と確認 [準備・課題]移調楽器に対する理解を深める(1～2h)						
11	聴音と移調奏の演習 [準備・課題]移調奏の課題を熟す(1～2h)						
12	聴音と移調奏の演習 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
13	伴奏付け、移調奏、キーボードハーモニーのまとめ [準備・課題]今まで学んできた内容の復習(1～2h)						
14	前期のまとめとして鍵盤実技の個人チェック [準備・課題]今まで学んできた内容の総復習(1～2h)						
15	筆記試験 16回目：実技試験 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習と、練習課題を熟す(1～2h)						
時間外での学修	より良い演奏表現力を求めて、日頃から楽曲の分析と理解を深めて欲しい。						
受講学生へのメッセージ	毎回授業で与えられた課題の復習ドリルを欠かさずにやる事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MA】指導グレード対策AⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	指導グレード、筆記・実技試験に向けての実習 筆記試験問題（コード進行法・伴奏付け・カウンター・楽典）						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 管弦楽法の理解とオーケストレーション、スコアリーディングを通して楽曲の分析をする。 実技、過去問題集による実習						
到達目標	知識・理解	筆記試験4級の内容に準じてオーケストレーションの理解			◎		
	思考・判断・表現	スコアリーディングよりソロ、アンサンブル編曲の力を増す事			○		
	技能	どんな調性にも対応できるようにする			○		
	関心・意欲・態度	より高い演奏、表現力、芸術性を高め、楽曲の深い理解を増す事			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	10	-	40
	実技試験		20	10	10	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『指導グレード5・4・3級実技試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,296円) ISBN:9784864617420 『指導グレード5・4・3級筆記試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,404円) ISBN:9784864617437 1年次「指導グレード対策AⅠ・Ⅱ」履修者は購入済						
参考書・教材	その他資料はコピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディング [準備・課題](オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディングに対する理解を深める。(1～2h))						
2	オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディング [準備・課題]オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディングに習熟する(1～2h)						
3	筆記試験 過去問題集による実習、演習 コード進行法 [準備・課題]コード進行法を復習する。過去問題集による実習、演習をする(1～2h)						
4	筆記試験 過去問題集による実習、演習 伴奏付け [準備・課題]伴奏付けに習熟する。過去問題集による実習、演習をする(1～2h)						
5	筆記試験 過去問題集による実習、演習 カウンター [準備・課題]カウンターを復習する。過去問題集による実習、演習をする(1～2h)						
6	筆記試験のまとめ [準備・課題]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
7	ソルフエージュ、伴奏付け 演習 [準備・課題]ソルフエージュ、伴奏付けに習熟する。(1～2h)						
8	弾き歌い、移調奏 演習 [準備・課題]弾き歌い、移調奏に習熟する。(1～2h)						
9	実技試験のまとめ [準備・課題]今まで学んだ内容を復習する(1～2h)						
10	個人チェック 何が本人にとって欠けているか [準備・課題]自分の欠けているところを知り、補う演習をする(1～2h)						
11	個人チェック [準備・課題]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
12	指導グレードにおける筆記問題 個人チェック [準備・課題]学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
13	指導グレードにおける筆記問題 個人チェック [準備・課題]今まで学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
14	4級模擬試験 筆記・実技 [準備・課題]学んだ内容の復習(1～2h)						
15	筆記試験 16回目：実技試験 [準備・課題]今まで学んだ内容の総復習(1～2h)						
時間外での学修	日頃よりクラシックの名曲などを聴き、スコアリーディングをして楽曲のアナリーゼの習慣をつけてほしい。						
受講学生へのメッセージ	毎回の課題の復習、ドリルをする事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MS】指導グレード対策BⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ指導グレードの内容である、スコアリーディング、ピアノ譜作成などの知識を修得し、初見奏を学修します。						
授業方法	演習を中心に、オーケストラや室内楽のスコアに関する知識、和声進行についての正しい知識の理解を深め、問題を解きながら授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	スコアに用いられている記号、ジャンル、楽器などについての知識を理解し修得することができる。			◎		
	思考・判断・表現	和音記号、コードネームを正しく認識し、メロディ、和音記号、コードネームから適切な和音、和音連結、内声部、伴奏形を導き出すことができる。			◎		
	技能	初見奏にて、音楽を楽譜からの確にとらえる能力、また音楽的に表現する能力を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	実技試験		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社(1,620円) ISBN:4-276-10142-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円) ISBN:4-7609-7621-3 前年度購入						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	スコアリーディング(1) オーケストラの編成/ピアノ譜作成(1) ラインと音域・和音の転回・ベースの転回位置/初見奏 [準備・課題] 学修した内容を復習し、オーケストラの編成、ラインと音域、転回形について理解する(1h)						
2	スコアリーディング(2) 移調楽器/ピアノ譜作成(2) コードの連結とポジション/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、移調楽器、コードの連結とポジションについて理解する(1h)						
3	スコアリーディング(3) 木管楽器①/ピアノ譜作成(3) 連続5度・連続8度/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、木管楽器、連続5度・連続8度について理解する(1h)						
4	スコアリーディング(4) 木管楽器②/ピアノ譜作成(4) 解決/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、木管楽器、解決について理解する(1h)						
5	スコアリーディング(5) 金管楽器①/ピアノ譜作成(5) 分散和音の伴奏形①/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、金管楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
6	スコアリーディング(6) 金管楽器②/ピアノ譜作成(6) 4和音の配置と連結/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、金管楽器、4和音の配置と連結について理解する(1h)						
7	スコアリーディング(7) 打楽器/ピアノ譜作成(7) 分散和音の伴奏形②/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、打楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
8	スコアリーディング(8) 弦楽器①/ピアノ譜作成(8) 分散和音の伴奏形③/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、弦楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
9	スコアリーディング(9) 弦楽器②/ピアノ譜作成(9) コードの機能とカデンツ・ドミナントモーションと限定進行/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、弦楽器、コードの機能とカデンツ、ドミナントモーション、限定進行について理解する(1h)						
10	スコアリーディング(10) その他の楽器/ピアノ譜作成(10) ドミナントモーションの連結①・右手のメロディ+コード/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、その他の楽器、ドミナントモーションの連結、右手のメロディ+コードについて理解する(1h)						
11	スコアリーディング(11) 舞台配置とスコアの関係①/ピアノ譜作成(11) ドミナントモーションの連結②・3度、6度の重音/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、舞台配置とスコアの関係、ドミナントモーションの連結について理解する(1h)						
12	スコアリーディング(12) 舞台配置とスコアの関係②/ピアノ譜作成(12) カウンターライン/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、舞台配置とスコアの関係、カウンターラインについて理解する(1h)						
13	スコアリーディング(13) 実際のスコアを読む①/ピアノ譜作成(13) 連続8度とピアノのオクターヴ奏法・単音、密集配置の伴奏形/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、実際のスコア、連続8度とピアノのオクターヴ奏法、単音・密集配置の伴奏形について理解する(1h)						
14	スコアリーディング(14) 実際のスコアを読む②/ピアノ譜作成(14) 密集伴奏形/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、実際のスコア、密集伴奏形について理解する(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	スコアリーディング (15) 実際のスコアを読む③／ピアノ譜作成 (15) 実例を見ながら／初見奏 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、実際のスコア、ピアノ譜について理解する (1h)
時間外での学修	初見奏は自主的にトレーニングしましょう。
受講学生へのメッセージ	分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。

【MA】指導グレード対策BIV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ指導グレードの内容である、楽曲分析、ピアノ譜作成などの知識を修得し、初見奏を学修します。						
授業方法	演習を中心に、ピアノ曲における楽曲分析の知識、和声進行についての正しい知識の理解を深め、問題を解きながら授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	調性および関係調、カデンツ、非和声音、モチーフの使われ方、フレーズの盛り上げ方、和声の変化の仕方などの知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	和音記号、コードネームを正しく認識し、メロディ、和音記号、コードネームから適切な和音、和音連結、内声部、伴奏形を導き出すことができる。			◎		
	技能	初見奏にて、音楽を楽譜からの確にとらえる能力、また音楽的に表現する能力を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	実技試験		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『和声と楽式のアナリーゼ』音楽之友社(2,160円)ISBN:4-276-10213-8 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円)ISBN:4-7609-7621-3 前年度購入						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	楽曲分析(1) 旋律と和声・和音・和音の組み立て・和音の分析・分散和音・非和声音/ピアノ譜作成(1) 課題に取り組む/初見奏 [準備・課題] 学修した内容を復習し、旋律と和音について理解する(1h)						
2	楽曲分析(2) カデンツの第1型・カデンツの第3型・2部形式の曲・3部形式の曲・2部形式と3部形式との違い・コード/ピアノ譜作成(2) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、カデンツ、形式について理解する(1h)						
3	楽曲分析(3) カデンツの第2型・低音位・DとしてのI 2転-V・SとしてのII/ピアノ譜作成(3) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、カデンツ、和音の機能について理解する(1h)						
4	楽曲分析(4) 主音の保続音・非和声音のつづき・近親調・同主調・転調/ピアノ譜作成(4) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、保続音、非和声音、関係調について理解する(1h)						
5	楽曲分析(5) 複合3部形式/ピアノ譜作成(5) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、複合3部形式について理解する(1h)						
6	楽曲分析(6) TとしてのVI・各種のD和音・各種のS和音/ピアノ譜作成(6) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、和音の機能について理解する(1h)						
7	楽曲分析(7) 終止・非和声音のおごない・ロンド形式/ピアノ譜作成(7) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、終止、非和声音、ロンド形式について理解する(1h)						
8	楽曲分析(8) ソナタ形式・ソナタ形式分析の要領/ピアノ譜作成(8) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ソナタ形式について理解する(1h)						
9	楽曲分析(9) 借用和音・Sとしてのドッペルドミナント/ピアノ譜作成(9) 課題に取り組む/初見奏 [準備・課題] 学修した内容を復習し、借用和音、ドッペルドミナントについて理解する(1h)						
10	楽曲分析(10) ドッペルドミナントの下方変位/ピアノ譜作成(10) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの下方変位について理解する(1h)						
11	楽曲分析(11) ナポリのII・ドリアのIV・Vの和音の上方変位/ピアノ譜作成(11) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ナポリのII、ドリアのVI、Vの和音の上方変位について理解する(1h)						
12	楽曲分析(12) 各音度の5度関連・偶成和音・主音上のV・属音の保続音/ピアノ譜作成(12) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、各音度の5度関連、偶成和音、主音上のV、属音の保続音について理解する(1h)						
13	楽曲分析(13) 変奏曲/ピアノ譜作成(13) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、変奏曲について理解する(1h)						
14	楽曲分析(14) ソナタ形式のまとめ・楽曲としてのソナタ・各種演奏形態におけるソナタ/ピアノ譜作成(14) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ソナタ形式について理解する(1h)						
15	楽曲分析(15) ロンド形式のまとめ/ピアノ譜作成(15) 課題に取り組む/初見奏(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ロンド形式について理解する(1h)						
時間外での学修	初見奏は自主的にトレーニングしましょう。						

受講学生への メッセージ	分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。
-----------------	--

【MS】和声学Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。			◎		
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。			○		
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。			○		
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。						
テキスト	『和声理論と実習Ⅰ』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 「和声学Ⅰ・Ⅱ」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	属7の和音 [課題]課題25, 26, 27を解いてみましょう。(1h)						
2	属7の和音 [課題]課題28(1~4)を解いてみましょう。(1h)						
3	属7の和音 [課題]課題28(5~8)を解いてみましょう。(1h)						
4	属7の和音 [課題]課題28(9~12)を解いてみましょう。(1h)						
5	属7の和音 [課題]課題30(1~3)を解いてみましょう。(1h)						
6	属7の和音 [課題]課題30(4~6)を解いてみましょう。(1h)						
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(1h)						
8	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題]課題31, 32, 33を解いてみましょう。(1h)						
9	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題]課題34(1~3)を解いてみましょう。(1h)						
10	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題]課題34(4~6)を解いてみましょう。(1h)						
11	補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題]課題(1~3)を解いてみましょう。(1h)						
12	補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題]課題(4~6)を解いてみましょう。(1h)						
13	指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題]課題(1~3)を解いてみましょう。(1h)						
14	指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題]課題(4~6)を解いてみましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MA】和声学Ⅳ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。			◎		
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。			○		
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。			○		
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験	50	20	20	-	90	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合計(点)	50	20	20	10	100	
評価の特記事項	欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。						
テキスト	『和声理論と実習Ⅰ』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 「和声学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	属9の和音(長調) [課題]課題35,36,37,38,39を解いてみましょう。(1h)						
2	属9の和音(長調) [課題]課題40(1~6)を解いてみましょう。(1h)						
3	属9の和音(長調) [課題]課題40(7~12)を解いてみましょう。(1h)						
4	属9の和音(短調) [課題]課題41,42を解いてみましょう。(1h)						
5	属9の和音(短調) [課題]課題43(1~4)を解いてみましょう。(1h)						
6	属9の和音(短調) [課題]課題43(5~8)を解いてみましょう。(1h)						
7	属9の和音(短調) [課題]課題43(9~12)を解いてみましょう。(1h)						
8	D諸和音の総括 [課題]課題44(1~3)を解いてみましょう。(1h)						
9	D諸和音の総括 [課題]課題44(4~6)を解いてみましょう。(1h)						
10	D諸和音の総括 [課題]課題44(7~8)を解いてみましょう。(1h)						
11	補充課題の実習 [課題]属9の和音(長調)課題を解いてみましょう。(1h)						
12	補充課題の実習 [課題]属9の和音(短調)課題を解いてみましょう。(1h)						
13	補充課題の実習 [課題]D諸和音の総括(長調)課題を解いてみましょう。(1h)						
14	補充課題の実習 [課題]D諸和音の総括(短調)課題を解いてみましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MS】音楽総合特講Ⅱ		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	鈴木 孝育・矢田貝 真一						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	音楽の学びを深めていくために基礎的な教養の涵養を図るとともに、音楽に関して学んだ成果を公務として直接生かしていける職業（音楽活動によって職務を果たす自衛隊音楽隊・警察音楽隊・消防音楽隊などの公務員）に求められる基本的な教養についての理解を図ります。また音楽隊の隊員もしくは人事担当者、公務員対策の外部講師をゲスト・スピーカーとして招き、活動や求められる資質等の基本について理解を図ります。音楽隊以外の公務員希望者にとっても、きわめて有意義な学修内容です。						
授業方法	高校までの国語・社会・数学の基本的な内容について復習を行い、教養として必要な事項の定着と深化を図ります。そのための教材として、実際の採用試験の問題等を活用しながら、学修を進めていきます。						
到達目標	知識・理解	音楽を学ぶ基盤となる国語、社会、数学についての基本的な知識と社会人に教養として求められる知識を身につける。			◎		
	思考・判断・表現	復習した基本的な知識を、音楽活動に必要な思考力や判断力、表現力を培うために深化させようと努力できる。			○		
	技能	音楽を学ぶために必要な教養の一つとして、知的操作や技法の基礎を身につける。			△		
	関心・意欲・態度	音楽を学ぶために必要となる豊かな教養を一層高められるよう、積極的に継続した学びの態度を身につけることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		40	10	-	-	50
	学修記録表		10	10	5	-	25
	学修成果の自己評価		-	-	5	10	15
	受講態度（学修・提出等の状況）		-	-	-	10	10
合計(点)		50	20	10	20	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、授業回数の3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『短大生・専門学校生の就職筆記試験対策 一般常識チェック&マスター 改訂版』 山野晴雄 他著 実教出版(857円) ISBN:978-4-407-32160-9						
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	公務員講座①公務員試験について（警察音楽隊、自衛隊音楽隊、消防音楽隊の受験内容） [準備・課題]公務員試験の受験内容について理解する。自衛隊音楽隊について調べる。（3～5h）						
2	公務員講座②自衛隊音楽隊講話：隊の活動状況、自衛隊における音楽隊の役割 [準備・課題]自衛隊音楽隊・自衛官採用について理解する。愛知県警察音楽隊・専務音楽隊について調べる。（3～5h）						
3	公務員講座③愛知県警察音楽隊講話：隊の活動状況、警察における専務音楽隊の役割 [準備・課題]愛知県警察音楽隊、愛知県警察の採用について理解する。岐阜県警察音楽隊・兼務音楽隊について調べる。（3～5h）						
4	公務員講座④岐阜県警察音楽隊講話：隊の活動状況、警察における兼務音楽隊の役割 [準備・課題]岐阜県警察音楽隊、岐阜県警察の採用について理解する。公務員試験の過去指定作文の課題に取り組む。（3～5h）						
5	公務員講座⑤公務員試験における作文と面接 グループによる確認と添削 [準備・課題]公務員作文演習および面接の練習を行う。（3～5h）						
6	学修ガイダンス（教養について、学修の進め方や教材について、基礎確認テスト、他） [課題・準備]基礎確認テストの復習を確実に進行。（3～5h）						
7	世界史・思想文化史と難読漢字の定着と発展 [課題・準備]世界史・思想文化史と難読漢字の復習と次時内容の予習を確実に進行。（3～5h）						
8	方程式・同音異義語の定着と発展 [課題・準備]方程式・同音異義語の復習と次時内容の予習を確実に進行。（3～5h）						
9	政治と憲法・同訓異義語の定着と発展 [課題・準備]政治と憲法・同訓異義語の復習と次時内容の予習を確実に進行。（3～5h）						
10	文章題1・同義語と対義語の定着と発展 [課題・準備]文章題1・同義語と対義語の復習と次時内容の予習を確実に進行。（3～5h）						
11	経済と福祉・ことわざと故事成語の定着と発展 [課題・準備]経済と福祉・ことわざと故事成語の復習と次時内容の予習を確実に進行。（3～5h）						
12	文章題2・四字熟語1の定着と発展 [課題・準備]文章題2・四字熟語1の復習と次時内容の予習を確実に進行。（3～5h）						
13	社会生活・四字熟語2の定着と発展 [課題・準備]社会生活・四字熟語2の復習と次時内容の予習を確実に進行。（3～5h）						
14	図形・慣用表現と敬語表現の定着と発展 [課題・準備]図形・慣用表現と敬語表現の復習とこれまで学んだ内容の全体について復習を行う。（4～6h）						
15	まとめ（第6回～14回までの学修の確認と定着） [課題・準備]学んだ内容の総合的な復習を行う。（2～6h）						
時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に自主学習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。						
受講学生へのメッセージ	音楽を活用する公務員への就職をめざして、採用試験を想定した学修や音楽隊の活動内容を学びます。音楽隊以外の公務員をめざす学生にとっても活用可能な内容です。積極的に学ぼうとする意識をもって受講してください。*授業の順序や内容は、進度等の都合で変更されることがあります。オフィスアワー：質問等があれば、授業終了後、担当教員に申し出てください。						

【MA】ソルフェージュⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	1年で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。						
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和声感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。	◎				
	思考・判断・表現	得られた知識を、実際の音楽の現場に対応できるものにする。	○				
	技能	音楽の専門家としての知識・理解の上に、音楽を通してコミュニケーションの能力がある。	△				
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	○				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表(グループ発表を含む)		10	5	10	10	35
	筆記試験		40	10	-	-	50
	自己評価		-	5	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エス 『女子音楽 カンターレ』音楽之友社 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス 1年次ソルフェージュを更に展開させ、多声音階の重唱の認識をする。 コールユーブンゲン No. 51 〔準備・課題〕1年次での課題を再確認する。(1~2h)						
2	複雑なメロディー、リズムを理解する。 コールユーブンゲン No. 52 〔準備・課題〕1年次での課題を再確認する。(1~2h)						
3	複付点音符を理解する コールユーブンゲン No. 53 〔準備・課題〕付点音符と複付点音符の区別をする。(1~2h)						
4	異名同音を理解する コールユーブンゲン No. 54 〔準備・課題〕異名同音の歌唱、音程練習をする。(1~2h)						
5	確認小テスト コールユーブンゲン No. 55 〔準備・課題〕シンコペーションのリズム打ち、歌唱をする。(1~2h)						
6	切分音によるリズムを理解する コールユーブンゲン No. 56 〔準備・課題〕複合拍子のリズムに慣れ、歌唱・視唱が出来る。(1~2h)						
7	タイによるリズム。メロディーの確認 コールユーブンゲン No. 57 〔準備・課題〕既習全長音階の課題を理解する。(1~2h)						
8	転調の理解と演習 コールユーブンゲン No. 60 〔準備・課題〕あらゆる調での転調練習をする。(1~2h)						
9	臨時記号の理解と演習 コールユーブンゲン No. 61 〔準備・課題〕臨時記号の有無による練習をする。(1~2h)						
10	確認小テスト コールユーブンゲン No. 62 〔準備・課題〕複合拍子における拍子の取り方と臨時記号を把握する。(1~2h)						
11	複雑な臨時記号の理解と演習 〔準備・課題〕複雑難解な長音階の和声学的な理解をする。(1~2h)						
12	複雑な長音階の展開 コールユーブンゲン No. 63 〔準備・課題〕臨時記号を正しく歌唱する。(1~2h)						
13	転調を含む長音階の理解と演習 コールユーブンゲン No. 64 〔準備・課題〕タイによるリズムの推移を歌唱、リズム打ちをする。(1~2h)						
14	難解な音階と複雑なリズムの理解 コールユーブンゲン No. 65, 66 〔準備・課題〕臨時記号と休符の組み合わせによる歌唱をする。(1~2h)						
15	複雑難解な長音階の正確な歌唱をする 確認小テスト 〔準備・課題〕今までに学修した張温の課題を復習する。 コールユーブンゲンNo. 66までを歌唱できるようにする。(1~2h)						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気づけて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて 月曜日10:30~10:40						

【MA】ソルフェージュⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	二年前期で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。						
授業方法	実技、実践を中心として、基礎的な音楽知識の習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和声感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。	◎				
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。	○				
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。	△				
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	○				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表(グループ発表含む)		10	5	10	10	35
	筆記試験		40	10	-	-	50
	自己評価		-	5	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エス 『女子音楽 カンターレ』音楽之友社 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	複雑な変種音階の演習 〔準備・課題〕変ニ長調の「歌唱をする。(1~2h)」			コールユーブンゲン	No. 67		
2	複雑な変種音階の展開 〔準備・課題〕変イ長調の歌唱をする。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 68		
3	変種音階の転調を理解する 〔準備・課題〕各音階の歌唱が出来る。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 69		
4	音楽的な課題での転調を理解する。 〔準備・課題〕複雑な課題における転調を歌唱することができる。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 70		
5	既習課題の確認テスト 〔準備・課題〕複雑なリズムの展開を理解する。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 71		
6	長調と短調における正しい音の取り方を比較 〔準備・課題〕既習の長調・短調の基本和音の練習をする。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 72		
7	複雑な短調の転調練習 〔準備・課題〕各調の音階の三和音を確実に理解する。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 80		
8	複雑な短調の展開 〔準備・課題〕複合拍子における転調がスムーズにできる。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 81		
9	複雑な短調の展開 〔準備・課題〕複雑なリズムを伴う転調がスムーズにできる。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 82		
10	既習課題の確認テスト 〔準備・課題〕前回までに学修したことを確認する。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 83		
11	長調と短調の相交った課題の演習 〔準備・課題〕全長調と短調の理解が出来る。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 84		
12	長調と短調の相交った課題の演習 〔準備・課題〕全長調と短調の理解が出来る。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 85		
13	半音階の演習 〔準備・課題〕全調の属七和音を書き、暗記する。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 86		
14	全音階、半音階の全ての総復習 〔準備・課題〕全調の和音並びに複雑なリズム、音程を理解する。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 87a		
15	全音階、半音階の全ての総復習 確認小テスト 〔準備・課題〕全調の和音並びに複雑なリズム、音程を理解する。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 87b		
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないように体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて 月曜日12:10~12:20						

【MS】鍵盤楽器Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	1年生で習得したことをより深く追求し、表現力豊かな音楽作りを目指します。そして、演奏することを通して自己の内面や感性を磨き、それぞれの目標とする専門分野に役立てていけるようにしていきます。						
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。レッスンの時間までの空き時間は、練習室で自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノ演奏に必要な基礎的な奏法を理解しより深めつつ、そのために大切な知識を身につけることができる。			○		
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を自ら考え培うことができる。			◎		
	技能	自身の演奏技術を磨き、各専門分野に結び付け役立てていくことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	演奏する楽しさを常に持ち続け、自己資質の向上を目指していくことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		25	-	-	15	40
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、受講生全員の合同で行います。受講態度は、学修への取り組み状況を含みます。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス [準備・課題] 次回からの練習曲を個々に選曲し譜読みする(1h)						
2	練習曲・指使い [準備・課題] レッソンの復習をし、指のポジションや指使いを確認する(1h)						
3	練習曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h)						
4	練習曲・音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h)						
5	練習曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲想を付ける(1h)						
6	練習曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れをつかむ(1h)						
7	練習曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、曲をまとめる(1h)						
8	試験曲・譜読み [準備・課題] 試験曲を選曲し、譜読みをする(1h)						
9	試験曲・指使い [準備・課題] レッソンの復習をし、指使いの工夫やポジションの再確認をする(1h)						
10	試験曲・フレージング・バランス [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽の流れやバランスを工夫する(1h)						
11	試験曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしいテンポや響きを作り出す(1h)						
12	試験曲・暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜をする(1h)						
13	試験曲・弾き込む [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れを捉えて弾き込む(1h)						
14	試験曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、反復練習を十分に行い曲をまとめる(1h)						
15	試験曲・休暇中の課題曲決め [準備・課題] レッソンの復習をし、仕上げる。休暇中の課題を決める(1h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の練習の積み重ねが大切です。						
受講学生へのメッセージ	個々の進度に合わせて課題を進めていきますので、レッスンで学んだことを忘れずに復習するように心がけてください。 オフィスアワーはレッスン時間の前後休み時間です。						

【MA】鍵盤楽器Ⅳ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	1年生で習得したことをより深く追求し、表現力豊かな音楽作りを目指します。そして、演奏することを通して自己の内面や感性を磨き、それぞれの目標とする専門分野に役立てていくことができるようにしていきます。						
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。 レッスン時間までの空き時間は、練習室で自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノ演奏に必要な基礎的な奏法を理解しより深めつつ、そのために大切な知識を身につけることができる。			○		
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を自ら考え培うことができる。			◎		
	技能	自身の演奏技術を磨き、各専門分野に結び付け役立てていくことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	演奏する楽しさを常に持ち続け自己資質の向上を目指していくことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		25	-	-	15	40
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、受講生全員の合同で行います。受講態度は、学修への取り組み状況を含みます。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を用意します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の課題曲見直し [準備・課題] 休暇中の課題曲の発表・次回からの練習曲決め(1h)						
2	練習曲・譜読み [準備・課題] レッソンの復習をし、新しい練習曲の譜読みをする(1h)						
3	練習曲・フィンガートレーニング [準備・課題] レッソンの復習をし、指使いを考え練習を行う(1h)						
4	練習曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h)						
5	練習曲・音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h)						
6	練習曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしい音色やハーモニーを作る(1h)						
7	練習曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れをつかむ(1h)						
8	練習曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、仕上げる・試験曲を決める(1h)						
9	試験曲・譜読み [準備・課題] 試験曲の譜読みを丁寧に行う。指使いの工夫やポジションの再確認をする(1h)						
10	試験曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h)						
11	試験曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしい音色を作る(1h)						
12	試験曲・音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、豊かなハーモニーを作る(1h)						
13	試験曲・暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜をする(1h)						
14	試験曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜を確実にし反復練習をする(1h)						
15	試験曲・まとめ [準備・課題] 試験に向けて、自信を持って演奏できるようにする(1h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の積み重ねが大切です。						
受講学生へのメッセージ	個々の進度に合わせて課題を進めていきますので、レッスンで学んだことを忘れずに復習するように心がけてください。 オフィスアワーはレッスン時間の前後休み時間です。						

【MS】ポピュラーミュージック I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	持田 雅美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	ポピュラーミュージックの発展に多大な影響を与えたアーティストの楽曲をCDやDVDで鑑賞し、実際に歌ったり、演奏したり、アンサンブルする事で自分の演奏の糧にします。音楽の自由さ、楽しさをみつけ、音楽での自己表現を目指します。						
授業方法	歌・コーラス・演奏など、実技中心に行います。						
到達目標	知識・理解	課題曲の構成や、歌詞の意味などを理解する。			○		
	思考・判断・表現	音楽で自分を表現する事ができる。			○		
	技能	音楽でコミュニケーションをとる事ができる。			○		
	関心・意欲・態度	人を楽しませる、元気付ける演奏を目指す。感受性豊かに、音楽と向き合う事ができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	-	-	15	30
	アンサンブル力		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		15	20	20	45	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	必要な資料・譜面は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(自己紹介・授業ガイダンス) [準備・課題]授業内にプロフィールを完成させられなかった人は、持ち帰り作成(～1h)						
2	ポピュラーミュージックの歴史と発展(ポピュラーミュージックの歴史、ポピュラーミュージックについて考え、コミュニケーションを取る、リズムトレーニング) [準備・課題]「有名な楽曲とその理由を考えてくる(～1h)						
3	ポピュラーミュージックの歴史と発展2(楽の特性やジャンル、リズムセッション、コール&レスポンス) [準備・課題]人に紹介したい楽曲を選出し、発表の準備をする(～1h)						
4	ポピュラーミュージックのレコメンド(音楽鑑賞、好きな楽曲の良さを伝える、音楽の知識を深める) [準備・課題]鑑賞した楽曲の中から気になる曲を選出し、どこに興味を引っかけたのか自己分析(～1h)						
5	ポピュラーミュージックのレコメンド2(音楽鑑賞、好きな楽曲の良さを伝える、音楽の知識を深める) [準備・課題]鑑賞した楽曲の中から気になる曲を選出し、どこに興味を引っかけたのか自己分析(～1h)						
6	音楽の3要素と構成(リズム・メロディー・ハーモニーの体感、曲の構成、歌詞) [準備・課題]リズムの練習(～1h)						
7	音楽の3要素と構成2(リズム・メロディー・ハーモニーの体感、曲の構成、歌詞) [準備・課題]リズムの練習(～1h)						
8	コーラス練習(リズム・メロディー・ハーモニーの体感) [準備・課題]必要に応じて自主練習(～1h)						
9	コーラス練習2(リズム・メロディー・ハーモニーの体感) [準備・課題]必要に応じて自主練習(～1h)						
10	音楽鑑賞(ライブ映像やライブ音源の鑑賞) [準備・課題]気になるアーティストの楽曲を聴いてみる(～1h)						
11	即興のセッションとポピュラーミュージックの実践(音楽鑑賞、ブルース進行とアドリブ、世界的に有名な楽曲に触れ、演奏する) [準備・課題]授業内で扱った楽曲を聴いてくる(～1h)						
12	ポピュラーミュージックの実践2(世界的に有名な楽曲に触れ、背景や仕組みを理解し、演奏する) [準備・課題]授業内で扱った楽曲を聴いてくる(～1h)						
13	前期試験曲決め・譜面書き ※五線譜持参 [準備・課題]楽譜の作成(～1h)						
14	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [準備・課題]授業内で譜面が書けなかった人は、持ち帰り作成。試験曲練習(～2h)						
15	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [準備・課題]試験曲練習(～2h)						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を知り、様々なジャンルの音楽に興味を持つ。聴く。 ・社会や芸術などに関心を向ける。 ・音楽を通じ、他者とコミュニケーションをとる。 						
受講学生へのメッセージ	<p>全員参加型の授業です。自己解放を目指し、表現すること、飛び出すことを恐れず、みんなで音楽をつくりましょう。</p> <p>オフィスアワーは授業終了後教室で行います。</p>						

【MS】ポピュラーミュージックⅡ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	持田 雅美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	ポピュラーミュージックの発展に多大な影響を与えたアーティストの楽曲をCDやDVDで鑑賞し、実際に歌ったり、演奏したり、アンサンブルする事で自分の演奏の糧にします。音楽の自由さ、楽しさをみつけ、音楽での自己表現を目指します。						
授業方法	歌・コーラス・演奏など、実技中心に行います						
到達目標	知識・理解	課題曲の構成や歌詞の意味などを理解する。			○		
	思考・判断・表現	音楽で自分を表現する事ができる。			○		
	技能	音楽でコミュニケーションを取る事ができる。			○		
	関心・意欲・態度	人を楽しませる、元気付ける演奏を目指す。感受性豊かに、音楽と向き合うことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	-	-	15	30
	アンサンブル力		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		15	20	20	45	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	必要な資料・譜面は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	MC練習 テーマを決め、人前で話す練習 [準備・課題] 前期の内容復習 (~1h)						
2	DVD鑑賞・ジャンル別楽曲鑑賞・音楽史 [準備・課題] 気になったジャンルの音楽を聴いてみる (~0.5h)						
3	DVD鑑賞・ジャンル別楽曲鑑賞・音楽史 [準備・課題] 気になったジャンルの音楽を聴いてみる (~0.5h)						
4	DVD鑑賞・ジャンル別楽曲鑑賞・音楽史 [準備・課題] 音楽史の復習 (~1h)						
5	コーラス・アンサンブル練習1 アンサンブル力を付ける [準備・課題]各自コーラスパート復習 (~1h)						
6	コーラス・アンサンブル練習2 アンサンブル力を付ける [準備・課題]各自コーラスパート復習 (~1h)						
7	コーラス・アンサンブル練習3 アンサンブル力を付ける [準備・復習]各自コーラスパート復習 (~1h)						
8	リズムトレーニングと自己解放 音楽にノッてみよう ※動きやすい格好で参加 [準備・課題]メトロノームでリズムトレーニング (~1h)						
9	リズムトレーニングと自己解放 音楽にノッてみよう2 発表 ※動きやすい格好で参加 [準備・課題]メトロノームでリズムトレーニング (~1h)						
10	立ち方・歩き方など、ステージングと舞台用語、マイクワーク [準備・課題]マイクワークやステージング等を意識してTVやライブをみてる (~1h)						
11	クリスマスソング鑑賞・練習 [準備・課題]クリスマスソングを自主的に聴いてみる (0.5~2h)						
12	クリスマスソング練習 [準備・課題]各自クリスマスソング練習 (0.5~2h)						
13	後期試験曲決め・実習と譜面書き ※五線譜持参 [準備・課題]試験の課題曲の色々なver.を聴いて研究 (~1h)						
14	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [準備・課題]授業内で譜面が書けなかった人は、持ち帰り、作成。試験曲練習 (~2h)						
15	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [準備・課題]試験曲練習 (~2h)						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を知り、様々なジャンルの音楽に興味を持つ。聴く。 ・社会や芸術などに関心を向ける。 ・音楽を通じ、他者とコミュニケーションをとる。 						
受講学生へのメッセージ	<p>全員参加型の授業です。 自己解放を目指し、表現すること、飛び出す事を恐れず、みんなで音楽をつくりましょう。 オフィスアワーは、授業終了後教室で行います。</p>						

【MF】和太鼓 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	藤井 久美子						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	高等学校音楽非常勤講師(25年)						
授業内容	まず和太鼓を打つことで、日本の伝統音楽の響きに慣れ豊かなリズム感や拍子感を養い、楽しい遊びや豊かな身体表現ができるようになり、和楽器のアンサンブルを楽しみ即興演奏や即興伴奏ができるまでの音楽的能力を養いたい。						
授業方法	ペアを組みお互い向かい合っって一つの太鼓を打ち合い指導教員の打ち方を見ながら打法等を身につける。						
到達目標	知識・理解	和太鼓の歴史や太鼓の種類、打法についての必要な知識を身につけることができる。			△		
	思考・判断・表現	その曲に適した打法や躍動感のある表現能力を身につけることができる。			○		
	技能	和太鼓をしっかりと打ち込み、正しいリズム感や拍子感を身につけることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	意欲的に練習して、仲間とアンサンブルを楽しむことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	5	50	-	60
	ステージ発表		-	5	10	5	20
	創作(作曲)		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		5	15	65	15	100	
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、ステージ発表等から総合的に評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な楽譜は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	日本太鼓の歴史と鼓動・種類・知識 ムチャクチャ乱打、握りが決めて パチに慣れよう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
2	日本太鼓の打法・太鼓の楽譜に慣れよう 唱歌演奏 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
3	基礎練習 基本リズムに慣れよう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
4	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
5	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
6	和楽器のアンサンブル練習 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
7	和楽器のアンサンブル練習 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
8	和楽器による即興演奏への導入 和楽器のアンサンブルと即興演奏・和太鼓作曲 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
9	オリジナル曲(I)練習 セット打ち 唱歌演奏 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
10	オリジナル曲(I)練習 リズム練習 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
11	オリジナル曲(I)練習 構え・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
12	オリジナル曲(I)練習 パチさばき・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
13	オリジナル曲(I)練習 音の表現・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
14	オリジナル曲(I)練習 身体表現・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
15	オリジナル曲(I)まとめ 発表会 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
時間外での学修	毎日のストレッチと授業で行ったオリジナル曲の見直し練習。						
受講学生へのメッセージ	誰でも叩けば音が出る和太鼓。でも打ち方は千差万別。自分がイメージした音を自由に出せる楽器です。とにかく力を抜いてリラックスして自分の音を追及してみてください。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MF】和太鼓Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	藤井 久美子						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	高等学校音楽非常勤講師(25年)						
授業内容	まず和太鼓を打つことで、日本の伝統音楽の響きに慣れ豊かなリズム感や拍子感を養い、楽しい遊びや豊かな身体表現ができるようになり、和楽器のアンサンブルを楽しみ即興演奏や即興伴奏ができるまでの音楽的能力を養いたい。						
授業方法	ペアを組みお互い向かい合っって一つの太鼓を打ち合い指導教員の打ち方を見ながら打法等を身につける。						
到達目標	知識・理解	和太鼓の歴史や太鼓の種類、打法についての必要な知識を身につけることができる。			△		
	思考・判断・表現	その曲に適した打法や躍動感のある表現能力を身につけることができる。			○		
	技能	和太鼓をしっかりと打ち込み、正しいリズム感や拍子感を身につけることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	意欲的に練習して、仲間とアンサンブルを楽しむことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	5	50	-	60
	ステージ発表		-	5	10	5	20
	創作(作曲)		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		5	15	65	15	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、ステージ発表等から総合的に評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な楽譜は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	日本太鼓の歴史と鼓動・種類・知識 ムチャクチャ乱打、握りが決めて パチに慣れよう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
2	日本太鼓の打法・太鼓の楽譜に慣れよう 唱歌演奏 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
3	基礎練習 基本リズムに慣れよう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
4	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
5	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
6	和楽器のアンサンブル練習 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
7	和楽器のアンサンブル練習 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
8	和楽器による即興演奏への導入 和楽器のアンサンブルと即興演奏・和太鼓作曲 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
9	オリジナル曲(I)練習 セット打ち 唱歌演奏 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
10	オリジナル曲(I)練習 リズム練習 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
11	オリジナル曲(I)練習 構え・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
12	オリジナル曲(I)練習 パチさばき・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
13	オリジナル曲(I)練習 音の表現・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
14	オリジナル曲(I)練習 身体表現・打ち込み [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
15	オリジナル曲(I)まとめ 発表会 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
時間外での学修	毎日のストレッチと授業で行ったオリジナル曲の見直し練習。						
受講学生へのメッセージ	誰でも叩けば音が出る和太鼓。でも打ち方は千差万別。自分がイメージした音を自由に出せる楽器です。とにかく力を抜いてリラックスして自分の音を追及してみてください。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MS】作譜		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者(含 高等学校教員)としてコンピュータ浄書履歴・25年						
授業内容	ピアノ、吹奏楽における楽譜は現在では殆どが楽譜製作ソフトによって作成されています。この授業では、自ら作編曲した楽譜、または録音から起した楽譜を第3者が見てもわかりやすい楽譜を作成できるように学習します。 DTMソフトのシステムを理解し、ピアノ譜、吹奏楽等のスコアといった基本的な楽譜の製作をコンピュータによって行います。 学習する主なソフトはFinalre 2014を使用します。						
授業方法	DTMソフトのシステムの概要を理解した上で、コンピュータによる楽譜の打ち込みを学習していきます。						
到達目標	知識・理解	DTMソフトのシステムを理解し、基本的な操作ができ演奏者が使用できるスコア、パート譜の製作ができる。			◎		
	思考・判断・表現	見た目の美しい楽譜のレイアウトを構築できる。			◎		
	技能	各ジャンルの譜表の様式を理解し作譜ができる。			△		
	関心・意欲・態度	手書き譜の浄書など演奏者がより使用しやすい美しい楽譜の作成ができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験(技能試験)		20	20	10	-	50
	課題提出		20	20	-	-	40
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容等 [準備・課題] DTMについて調べる(1h)						
2	基礎知識1 DTMソフトの概要 [準備・課題] DTMソフトについて調べる(1h)						
3	基礎知識2 各種ソフト 小テスト [準備・課題] フィナーレについて調べる(1h)						
4	使用機械の説明 周辺機器の基本的な操作方法 [準備・課題] フィナーレを使用するPC環境について調べる(1h)						
5	フィナーレの概要 [準備・課題] フィナーレの操作方法について調べる(1h)						
6	基本的な入力方法 貼り付け [準備・課題] 本時学習内容(基本的な音符入力)の復習(3h)						
7	基本的な入力方法 貼り付け 課題制作1 ピアノ譜の作成 [準備・課題] 本時学習内容(基本的な音符入力)の復習(3h)						
8	基本的な入力方法 課題制作2 ピアノ譜の作成 仕上げ [準備・課題] 本時学習内容(アーテュレーション入力)の復習(3h)						
9	ステップ入力 ショートカットなど [準備・課題] 本時学習内容(ステップ入力に伴うキーボードショートカット)の確認復習(3h)						
10	ステップ入力 課題制作1 総譜の作成 [準備・課題] 本時学習内容(スコアセット作成・レイヤー入力)の復習(3h)						
11	ステップ入力 課題制作2 総譜の作成 [準備・課題] 本時学習内容(発想標語・ディナーミック入力)の復習(3h)						
12	ステップ入力 課題制作3 総譜の作成 仕上げ [準備・課題] 本時学習内容(特殊記譜: 符頭変更・連符変更・トレモロ・楽譜レイアウト変更など)の復習(3h)						
13	応用編 その他の入力方法 リアルタイム入力 歌詞入力 等 [準備・課題] 試験内容の予習(3h)						
14	試験対策1 [準備・課題] 試験内容の予習(3h)						
15	試験対策2 [準備・課題] 試験内容の予習(3h)						
時間外での学修	授業内で課題が完成できない場合は各々で時間を作って仕上げてください。						
受講学生へのメッセージ	短期間に修得するためには、経験が重要になります。そのためかなりの作業量となりますので、本当に覚えないという気持ちがある人のみ受講してください。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MF】生涯スポーツ I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 千穂						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション県協会理事・6年 岐阜県公立小学校教諭・6年						
授業内容	メディアの発展に伴い、社会環境や生活環境も目まぐるしく変化してきました。その中においても、健康に対する意識や関心がより一層高まり、生涯にわたって気軽に運動や活動ができるレクリエーションの役割が大きくなってきています。そこで、レクリエーションの知的理解と多方面からアプローチできる力を身につけていきます。						
授業方法	内容に合わせて、教室を使った講義形式と、体育館を利用したレクリエーション実技を行います。講義・実技共に、指導者としての役割を学ぶために「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。また、生涯スポーツやレクリエーション活動の事業現場へ出かけ実技を行います。						
到達目標	知識・理解	生活環境の変化を学び、レクリエーション活動の重要性を理解する。			◎		
	思考・判断・表現	体力・年齢の変化に応じたレクリエーション技能を習得し支援することができる。			○		
	技能	環境の変化に気づき、目的に応じたレクリエーション活動が提供できる。			○		
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動を通じ、様々な場面で誰とでも笑顔でふれあうコミュニケーションを意識できる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記小テスト		20	-	-	-	20
	実技試験		10	-	10	-	20
	発表(個人1回・グループ1回)		-	10	-	10	20
	レポート(2回)		-	10	-	-	10
	自己評価(毎回)		-	-	5	10	15
	受講態度		-	-	5	10	15
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項							
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり/レクリエーション支援の理論と方法』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 『楽しいアイスブレイキングゲーム集』(公財)日本レクリエーション協会(900円)ISBN:978-4-931180-72-7 2年次に「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	モデル・プログラム①モデル・プログラムを通じ、「レクリエーション概論」を振り返る。 [準備・課題]地域でされているスポーツには何があるか調べる。(1.0h)						
2	楽しさと元気づくりの理論 [準備・課題]自分の家族構成をまとめ平日と休日のライフスタイルをまとめる。(0.5h)						
3	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 [準備・課題]身の回りにおけるコミュニケーションの方法についてまとめる。(0.5h)						
4	信頼関係づくりの方法とホスピタリティー [準備・課題]各地域に伝わる伝統行事または地域の行事について調べる。(1.0h)						
5	良好な集団作りの理論 [準備・課題]子どもがアクティブに学べる活動はどんなものがあるか調べる。(1.0h)						
6	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング [準備・課題]各ライフステージにおける課題は何か(1.0h)						
7	プログラムの立案①全国一斉あそびの日のコーナー実践にむけて具体的に計画 [準備・課題]全国一斉あそびの日は、全国でどのようなことがなされているか(1.0h)						
8	安全管理の方法 [準備・課題]一次救命処置とはなにかまとめる。(0.5h)						
9	レクリエーション活動の習得①6月9日(日)全国一斉あそびの日 in大垣①市民活動の実際 [準備・課題]当日の動きについて確認(0.5h)						
10	レクリエーション支援の実施①6月9日(日)全国一斉あそびの日 in大垣②市民活動の支援と運営 [準備・課題]当日準備確認(0.5h)						
11	レクリエーション支援の実施②全国一斉あそびの日 in大垣を終えて振り返り [準備・課題]全国一斉あそびの日報告書提出(1.0h)						
12	自主的主体的に楽しむ力を高める理論 [準備・課題]各自の趣味についてまとめる(0.5h)						
13	自主的主体的に楽しむ力を育む展開方法 [準備・課題]軽スポーツ種目について調べ提出する。(0.5h)						
14	本講義内容の理解度(筆記小テスト)各自調べてきた軽スポーツについて発表。 アイスブレイキング・ゲームの指導を通じた指導者の心得を知り、次時の実技試験にむけて準備する。 [準備・課題]軽スポーツ種目について調べたものの発表準備。本時までの内容を見直す(1.0h)						
15	「楽しいアイスブレイキング」指導を1人1種目行う。(実技試験) [準備・課題]実技試験にむけて心得を踏まえた指導練習(1.0h)						
時間外での学修	(特非)岐阜県レクリエーション協会(特非)大垣市レクリエーション協会など地域レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する。(事前に参加手続きを各自で行なう)参加報告を作成提出すること。						
受講学生へのメッセージ	服装はTPOに合わせる事が大切です。学習内容に合わせたふさわしい服装を心がけてください。現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。授業内容が会場・物品の都合で前後することもあります。オフィスアワーは、授業後10分間とします。						

【MF】生涯スポーツⅡ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 千穂						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション県協会理事・6年 岐阜県公立小学校教諭・6年						
授業内容	人づくり・町づくりのキーワードは、コミュニケーションです。親子も高齢者もコミュニケーションを高め、体力維持・増進の目的で生涯スポーツを楽しむ人々が増加しています。幅広い年齢層で楽しむことのできるスポーツやレクリエーションが生まれ、親しまれています。そこで、コミュニケーションを深めるためのゲームやニューススポーツを中心に福祉レクリエーションの要素を取り入れながら実践します。また、さまざまなアクティビティに関する知的理解と指導法の習得について学びます。						
授業方法	体育館にてニューススポーツやゲーム・ソング・ダンス・クラフトの実技・指導演習を行う。						
到達目標	知識・理解	年齢や体力・技能を考慮した活動を理解する。			○		
	思考・判断・表現	発達の特性を生かした指導計画を作成できる。			○		
	技能	ゲームの特性を理解し、楽しいの伝達ができる。			○		
	関心・意欲・態度	積極的に関わり合いを持ち、社会に貢献する姿となることできる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	-	5	10	20
	自己評価(毎回)		10	-	10	-	20
	受講態度		-	10	-	20	30
	レポート(2回)		-	10	-	-	10
	発表(グループ発表含む)		5	-	5	10	20
合計(点)		20	20	20	40	100	
評価の特記事項							
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 『楽しいアイスブレーキングゲーム集』(公財)日本レクリエーション協会(972円)ISBN:978-4-931180-72-7 C2076 2年次に「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	資格取得にむけたガイダンスとコミュニケーションゲーム [準備・課題]レクリエーション資格を活用できる場面を想定してみる。(0.5h)						
2	レクリエーション活動の習得②トランプ [準備・課題]トランプのゲームについて調べる(0.5h)						
3	レクリエーションプログラムの立案②家庭教育総合推進事業における「トランプ」の各コーナーでの役割を把握し、「楽しい」の伝え方や関わり方について実践にむけて企画立案する。 [準備・課題]担当となったトランプのゲームを見直す(0.5h)						
4	レクリエーション支援の実施③10月12日(土)[大垣市青年の家]大垣市家庭教育総合推進事業「トランプ大会」①対象者に合わせ、言葉かけや活動をすすめる。 [準備・課題]対象者に合わせた準備・言葉かけを考える。(1.0h)						
5	レクリエーション支援の実施④10月12日(土)[大垣市青年の家]大垣市家庭教育総合推進事業「トランプ大会」②目的にそって、他の団体と共に良い事業となるよう心掛けた行動を行う。 [準備・課題]対象者に合わせた進め方を考える。(1.0h)						
6	レクリエーション活動の習得③(ダンス・ソング) [準備・課題]「トランプ大会」報告書提出(1.0h)						
7	プログラムの立案③レクリエーション・フェスティバルにむけて [準備・課題]軽スポーツについて振り返る(1.0h)						
8	レクリエーション活動の習得⑤11月2日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル①市民による活動の実際 [準備・課題]担当コーナーの準備確認(1.0h)						
9	レクリエーション活動の習得⑥11月2日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル②軽スポーツ・レクリエーションなど多目標体験 [準備・課題]事前配布チラシにある種目について調べる。(1.0h)						
10	レクリエーション活動支援の実施⑤11月2日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル③軽スポーツ・レクリエーションなど多目標体験 [準備・課題]事前配布チラシにある種目について調べる。(1.0h)						
11	モデル・プログラムの習得②(チャレンジ・ザ・ゲーム種目理解) [準備・課題]チャレンジ・ザ・ゲームについて振り返りをする。(1.0h)						
12	プログラムの立案④(クリスマス会一準備) [準備・課題]クリスマス会の担当内容を決める。(1.0h)						
13	レクリエーション支援の実施⑥(クリスマス会一発表) [準備・課題]クリスマス会の担当が円滑に進むように練習(1.0h)						
14	科目終了判定(チャレンジ・ザ・ゲームの指導と実践)実技試験Aグループ [準備・課題]チャレンジ・ザ・ゲームについて振り返りをする。(1.0h)						
15	科目終了判定(チャレンジ・ザ・ゲームの指導と実践)実技試験Bグループ [準備・課題]チャレンジ・ザ・ゲームについて振り返りをする。(1.0h)						
時間外での学修	(特非)岐阜県レクリエーション協会(特非)大垣市レクリエーション協会など地域レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する。 (事前に参加手続きを各自で行なう)参加報告作成提出すること。						

受講学生への メッセージ	スポーツ要素を多く含む激しい動きもあります。活動しやすい服装（体育館シューズ・スカート不可）で積極的に参加し、現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。体育館の利用状況や種目道具の使用状況で授業内容の入れ替えがあります。オフィスアワーは、授業後10分間とします。
-----------------	--

【MS】保育臨床相談		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院臨床心理士6年・学生相談室臨床心理士7年						
授業内容	保育や教育、療育などを行う際に、主となる活動を支えるための臨床相談という仕事があります。この授業では、臨床相談の対象となる相手を理解し、適切な援助を行うための基本的な心がまえや知識、実際に役立つ技法について学びます。特にカウンセリング的アプローチのひとつであるピアヘルピングについては、臨床現場だけでなく日常生活でも実際に使える技法を身につけます。また、自分自身の心の状態の理解やケアの視点についても取り上げます。						
授業方法	基本的には講義形式ですが、ピアヘルピングのエクササイズやグループワークなどもあります。他の人と協力しながら課題に取り組みます。						
到達目標	知識・理解	臨床現場で出会う対象を専門職として援助するために必要な知識を身につけることができる。			◎		
	思考・判断・表現	援助する対象の姿を、その心理状態や理解の度合を考慮して総合的に判断し、関わりに活かそうとする。			◎		
	技能	援助する対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うことができる。			○		
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自己理解や他者理解に努め、周囲の人々との連携に努めようとする。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート(中間・期末)		25	10	-	5	40
	授業時間内課題		-	10	10	10	30
	授業時間外課題		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	5	5	10
	合計(点)		35	30	15	20	100
評価の特記事項	レポート課題(中間・最終)はルーブリック(評価基準)とともに提示します。授業時間内課題とは、授業中に記入して提出していただくミニツツペーパーとワークシートのことです。受講態度は授業全体への取り組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合は、単位取得の資格がありません。						
テキスト	「ピアヘルパーハンドブック(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社、1500円 ISBN978-4-8100-1343-6)」に基づいて一部の授業を行うので、できるだけ購入して下さい。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 必要な教材は授業時に配付します。参考書なども適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	臨床の意味と教育相談の位置づけを理解する：対象の理解 個別性と普遍性 ピアヘルピングについて [準備・課題] 「臨床」とは何か、理解できた内容をまとめる(2~4h)						
2	自己理解とセルフコントロール：自己の特性の把握 ストレスの測定と対処行動 [準備・課題] 自分にとって有効なストレス対処方法を調べる(2~4h)						
3	自己理解と他者理解について学ぶ：セルフイメージ 他者から見た自分 ノンバーバル(非言語)情報 ノンバーバルコミュニケーション [準備・課題] 身近なノンバーバルコミュニケーションの例を挙げる(2~4h)						
4	構成的グループエンカウンターを体験する①：エクササイズ シェアリング [準備・課題] 構成的グループエンカウンター体験の感想をまとめておく(3~5h)						
5	構成的グループエンカウンターを振り返る①：エクササイズの解説と目的 全体でのシェアリング [準備・課題] 構成的グループエンカウンター体験について600字程度のレポートを書く(3~5h)						
6	カウンセリングについて概観しピアヘルピングとの違いを知る：カウンセリングの歴史と種類 カウンセリングの方法と事例 ピアヘルピングとは [準備・課題] 構成的グループエンカウンター体験について600字程度のレポートを書く(3~5h)						
7	各自書いてきたレポートの内容をもとにグループワークを行う。 ピアヘルピングの言語的技法を学ぶ①：受容 繰り返し 明確化 [準備・課題] 他の人とレポート交流をして新たに得たことをまとめる(2~4h)						
8	ピアヘルピングの言語的技法を学ぶ②：支持 質問 ピアヘルピングの非言語的技法 [準備・課題] ピアヘルピングの言語的技法についてまとめておく(2~4h)						
9	ピアヘルピングにおける諸問題の解決方法を学ぶ：対話上の諸問題の解決方法 問題への対処方法 [準備・課題] ピアヘルピングにおける諸問題の解決方法をまとめておく(2~4h)						
10	身近な関わりからピアヘルピングの実際を知る：アニメの中に描かれるピアヘルピング 日常生活で行うピアヘルピング [準備・課題] 日常生活の中で行われているピアヘルピングの例を挙げる(2~4h)						
11	ピアヘルピングのまとめと演習を行う：言語的技法や非言語的技法の振り返り 問題形式の演習 [準備・課題] ピアヘルピングの練習問題に取り組む(3~5h)						
12	言葉を介さず問題を把握し援助する方法を知る①：遊戯療法 遊びの持つ意味 [準備・課題] 援助対象者を遊びの中で援助する方法を考える(2~4h)						
13	言葉を介さず問題を把握し援助する方法を知る②：コラージュ療法 箱庭療法 [準備・課題] 各療法を援助対象者との関わりに活用する方法を考える(2~4h)						
14	構成的グループエンカウンターを体験する②：エクササイズ シェアリング [準備・課題] 前回の構成的グループエンカウンター体験との違いをまとめる(2~4h)						
15	構成的グループエンカウンターを振り返る②：エクササイズの解説と目的 全体でのシェアリング 全体のまとめ [準備・課題] 最終課題について、期限までにレポートを作成する(8~10h)						

時間外での学修	課題：毎回課せられる授業時間外課題やレポート課題にしっかり取り組んでください。次回の授業で用いることもあります。 日常生活：授業で学修した知識や技法を、身の回りの人とのコミュニケーションに早速活かしてみてください。
受講学生へのメッセージ	この授業で学ぶピアヘルピングについての学修を活かすために、ピアヘルパー資格試験の受験にぜひ挑戦してみてください。将来きっと、公私ともにあなたを支える学びの証になります。オフィスアワーは毎週火曜日の10時～12時、それ以外の時間でも、A306(A号館3階)に気軽に来てください。

【MS】社会福祉		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	堀江 法夫						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	少子高齢化の社会にあって社会福祉は全ての人にとって大切なテーマです。限られたマンパワーや財源という社会資源の中で高齢者や子どもたちの命がまもられていくにはどうしたらいいのか。社会福祉のこれまでと現在の課題を学んでいきます。						
授業方法	講義を中心として基礎的知識を学び、その上で出来る限りみなで考えを深めていきます。						
到達目標	知識・理解	社会福祉の歴史と実践について基本的な知識と理解を深める。			◎		
	思考・判断・表現	社会が激変していく中で生活のしづらさを思考、判断、表現できる。			○		
	技能	福祉の実践の場でアプローチしていく専門的な技能を深める。			○		
	関心・意欲・態度	共通の福祉課題に積極的に関心を持ち取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験(1回)		30	10	20	-	60
	発表・レポート(1回)		-	5	5	10	20
	自己評価(毎回)		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		30	15	25	30	100	
評価の特記事項							
テキスト							
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	社会福祉を学ぶにあたって：これまでの社会の変遷と現代の生活課題について考えよう。 〔課題・準備〕社会福祉は私たちの生活の中でどのような関係があるのかを考えておこう。(3h)						
2	社会福祉の考え方と役割：保育を含む社会福祉の視点と目的を考えよう。 〔課題・準備〕社会福祉の考えはどのようにして生まれてきたのかを考えておこう。(3h)						
3	社会福祉の歴史：欧米と日本の福祉についてこれまでのあゆみを理解しておこう。 〔課題・準備〕特に資本主義社会の発展との関係で考えておこう。(3~6h)						
4	社会保障とは何か：社会保険や生活保護について理解しておこう。 〔課題・準備〕社会保険の種類と生活保護の考えを調べておこう。(3h)						
5	社会福祉のしくみ：高齢者福祉と障害者福祉のしくみと法制度について理解しておこう。 〔課題・準備〕介護保険法と障害者総合福祉法について調べておこう。(3h)						
6	社会福祉の実施機関と行財政：福祉事務所と社会福祉法人について理解しておこう。 〔課題・準備〕児童相談所、福祉事務所、社会福祉協議会、社会福祉法人について調べておこう。(3h)						
7	社会福祉施設：社会福祉施設の種類や運営の基準について理解しておこう。 〔課題・準備〕社会福祉施設の種類や利用方法について調べておこう。(3h)						
8	子どもの福祉：子どもの人権と児童家庭福祉について考えよう。 〔課題・準備〕子供の福祉と向き合うにはどのような視点が必要か考えてみよう。(3h)						
9	社会福祉の専門職：社会福祉専門職の専門性と倫理について考えよう。 〔課題・準備〕社会福祉の専門職としての資格はなぜ必要か考えてみよう。(3h)						
10	相談援助の意味と方法：ソーシャルワークの視点と展開過程について考えよう。 〔課題・準備〕保育士を含むソーシャルワークの実際について考えてみよう。(3~6h)						
11	福祉サービスの利用支援：契約制度と適切な利用支援について理解しておこう。 〔課題・準備〕その人にマッチした支援とは何かを考えてみよう。(3h)						
12	権利擁護と苦情解決：権利擁護の意味と苦情解決のしくみについて理解しておこう。 〔課題・準備〕権利擁護と苦情解決はなぜ必要になってきたのかを考えてみよう。(3h)						
13	地域福祉の推進：地域福祉の理念と推進の方法について考えよう。 〔課題・準備〕地域福祉が必要になってきた過程について考えてみよう。(3h)						
14	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題・準備〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)						
15	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題・準備〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)						
時間外での学修	社会福祉の専門職は保育士や介護福祉士等があります。共通点と相違点を考えてみよう。						
受講学生へのメッセージ	子育て環境は変化し、専門職として社会福祉の基礎的理解が大切です。一緒に考えていきましょう。オフィスアワーは毎週火曜日、教室にて12:10から12:30です。						

【MA】臨床における即興技法 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。						
授業方法	1人1台の電子ピアノに向かい、毎週呈示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾き（譜面を見ずに演奏）か、コード付けの課題が出されます。						
到達目標	知識・理解	知っている曲は譜面がなくても簡単なメロディーとコードをつけて演奏することができる。			◎		
	思考・判断・表現	演歌風、民謡風、軍歌風など、曲調にあったアレンジで伴奏をつけることができる。			◎		
	技能	知らない曲のメロディーに簡単なコードをつけて伴奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	対象者に合わせたテンポ、リズムパターン、音量に合わせた即興演奏ができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		10	10	20	-	40
	発表（グループ発表含む）		20	20	10	-	50
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生、課題の発表がない学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内で指示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	対象者に合わせるための練習1：対象者を見ながら演奏する、対象者に合わせて歌う練習、1度と5度のベルを使う、さぐり弾き課題 [準備・課題]学んだ内容の復習（歌いながら合図を出す）、さぐり弾き課題（p11）のコード付け（1H）						
2	対象者に合わせるための練習2：対象者に合わせる課題、短調の曲を1度と5度のベルを使い演奏する、さぐり弾き課題 [準備・課題]学んだ内容の復習（相手に合わせてテンポを変える）、さぐり弾き課題（p13）のコード付け（1H）						
3	ペンタトニック：自由に即興演奏をするための練習、F#ペンタトニックを使った作曲 [準備・課題]学んだ内容の復習（ペンタトニックで即興演奏する）、さぐり弾き課題（p16）のコード付け（1H）						
4	さまざまなペンタトニック：ペンタトニックの曲に和音をつける [準備・課題]学んだ内容の復習（音階に含まれる音のみで伴奏する）、さぐり弾き課題（p20）のコード付け（1H）						
5	主要三和音の伴奏づけ（長調） [準備・課題]学んだ内容の復習（p22）複数の調で演奏する課題（長調）を繰り返し弾き慣れておく（1H）						
6	主要三和音の伴奏づけ（短調） [準備・課題]学んだ内容の復習、複数の調で演奏する課題（短調）を繰り返し弾き慣れておく（1H）						
7	主要三和音の即興的な使い方 [準備・課題]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題のコード付け（1H）						
8	主要三和音と一緒に演奏を終わる練習 [準備・課題]リタルダンドを相手に合図しながら演奏する課題の復習、さぐり弾き課題（p27）のコード付け（1H）						
9	基本拍を促す演奏1：既成曲の基本拍 [準備・課題]既成曲に基本拍をつけ演奏する練習、さぐり弾き課題（p34）のコード付け（1H）						
10	基本拍を促す演奏2：太鼓とピアノの即興、基礎 [準備・課題]太鼓にピアノで即興の伴奏をつける練習、コード付け課題（p37）（1H）						
11	基本拍を促す演奏3：太鼓とピアノの即興、応用 [準備・課題]伴奏に変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題（p43）（1H）						
12	基本拍を促す演奏4：太鼓とピアノのテンポ変化 [準備・課題]テンポに変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題（p46）（1H）						
13	基本拍を促す演奏5：太鼓、シンバルとピアノの即興課題 [準備・課題]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題のコード付け（1H）						
14	さまざまな伴奏パターンを学ぶ①民謡 [準備・課題]民謡に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題（p49）のコード付け（1H）						
15	さまざまな伴奏パターンを学ぶ②軍歌 [準備・課題]軍歌に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題（p52）のコード付け（1H）						
時間外での学修	授業で呈示された課題が身につくまで、各自が練習してください。						
受講学生へのメッセージ	即興演奏はその場で演奏するものですが、蓄積が必要です。授業内で行った課題で不得手なものがあれば克服にむけて自主練習してください。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【MA】臨床における即興技法Ⅱ		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	菅田 文子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年					
授業内容	音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。幅広いジャンルの曲に親しみ、旋律や和声の構造を分析します。音楽療法の目的に沿った作曲も学びます。					
授業方法	1人1台の電子ピアノに向かい、毎週呈示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾きコード付けの課題があります。					
到達目標	知識・理解	既成曲を音楽療法の目的に合わせて編曲することができる。			◎	
	思考・判断・表現	音楽療法セッションで用いる体操や動きに即興で伴奏をつけることができる。			○	
	技能	セッションの目的に沿った簡単な曲を即興で作ることができる。相手に合わせた即興演奏の伴奏ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	障がいを持つ人がつくる詞に曲をつけることができる。対象者に合わせた演奏ができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	20	10	10	-	40
	課題提出	20	10	-	10	40
	受講態度	-	-	10	-	10
	発表(グループ発表含む)	-	-	10	-	10
	合計(点)	40	20	30	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生、課題の発表を行わなかった学生には単位を与えません。					
テキスト						
参考書・教材	授業内で配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	さまざまな伴奏パターンを学ぶ：演歌 [準備・課題]演歌の伴奏パターンに慣れるため繰り返し練習する、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
2	目的に合わせて作曲する1：リラックス体操の伴奏 [準備・課題]コード進行とリズムがあまり動かない伴奏を練習する、さぐり弾き課題(p58)のコード付け(1H)					
3	目的に合わせて作曲する2：タオル体操の伴奏 [準備・課題]音階と動きがマッチする伴奏を練習する、コード付け課題(p60)(1H)					
4	目的に合わせて作曲する3：嚙下体操の伴奏 [準備・課題]動きに合わせて伴奏をつける、さぐり弾き課題(p66)のコード付け(1H)					
5	目的に合わせて作曲する4：「待つ」ための曲を作る、ミュージックベルのアレンジ①曲の決定、移調 [準備・課題]ベル譜面(移調したメロディー)の清書、コード付け課題(p69)(1H)					
6	目的に合わせて作曲する5：動きを促す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ②和音づけ [準備・課題]ベル譜面(和音づけ)の清書、学んだ内容の復習、さぐり弾き課題(p71)のコード付け(1H)					
7	目的に合わせて作曲する6：気持ちを表す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ③パート分け [準備・課題]パート分けしたベル譜面にマーカーで色分けしてくる、さぐり弾き課題(p75)のコード付け(1H)					
8	目的に合わせて作曲する7：言葉や詩に曲をつける、ミュージックベルのアレンジ④、発表 [準備・課題]作ったメロディー譜の清書、残りのメロディーを考える					
9	目的に合わせて作曲する8：作った曲をCメロ譜にする [準備・課題]作曲した曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
10	1音のためのアレンジ、1音のための作曲 [準備・課題]作った曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
11	モード(旋法)と慣用的な表現1：ドリアンのスケール [準備・課題]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p88)のコード付け(1H)					
12	モード(旋法)と慣用的な表現2：リディアン、中近東のスケール [準備・課題]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p92)のコード付け(1H)					
13	モード(旋法)と慣用的な表現3：スペイン風音階 [準備・課題]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p94)のコード付け(1H)					
14	モード(旋法)と慣用的な表現4：民謡音階の即興 [準備・課題]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題(p97)のコード付け(1H)					
15	臨床における応用 [準備・課題]学んだ内容の復習、試験の準備(1H)					
時間外での学修	作曲や編曲の課題が宿題として出ますので、積極的に取り組んでください。 課題が時間内に終了しなかった学生には補講を行います。					
受講学生へのメッセージ	臨床実習や、音楽療法士として働くにあたって一番役に立ったといわれている授業です。面倒な課題も多いですが将来の自分のために取り組んでください。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。					

【MS】音楽療法・臨床		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	この授業では後期から始まる臨床実習に向けて、基礎となる力をつけることを目的とします。授業内容は大きくわけて2つに分かれます。ひとつめは音楽療法全般に関する理論と音楽療法を受ける対象となる人の病気、障害、心理特性などについての知識を学ぶことです。ふたつめはそれぞれの対象に向けた実践の内容について学びます。						
授業方法	講義形式ですが演習も含まれます。						
到達目標	知識・理解	音楽療法の臨床分野（児童・成人・高齢）それぞれについて、主要な目的と活動について理解、説明ができる。			◎		
	思考・判断・表現	音楽の治療的使い方について説明ができる。音楽療法に関連のある心理療法の概略について理解、説明ができる。			◎		
	技能	目標に沿った音楽活動を発表できる。			△		
	関心・意欲・態度	対象者に即した課題を相手にわかりやすく工夫した形で発表することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	レポート		10	10	-	-	20
	発表（グループ発表含む）		-	-	10	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		40	40	10	10	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。課題発表、提出物のない学生には単位を与えません。						
テキスト	授業内でプリントを配布します。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 心理学の理論、心理学の歴史概論 [準備・課題]学んだ内容を復習し、心理学理論の歴史について理解する (4H)						
2	理論1：精神分析 無意識、防衛機能について 精神分析理論を用いた音楽療法について 教材視聴 [準備・課題]学んだ内容を復習し、精神分析と音楽療法の関連について理解する (4H)						
3	理論2-1：行動療法 学習と強化について 臨床における行動療法の実際 [準備・課題]学んだ内容を復習し、行動療法と音楽療法の関連について理解する (4H)						
4	理論2-2：行動療法を用いた音楽療法 目標設定と般化について [準備・課題]学んだ内容を復習し、行動療法的音楽療法の目標設定について理解する (4H)						
5	理論3-1：人間主義 クライアント中心療法、カウンセリングについて 受容と共感 [準備・課題]学んだ内容を復習し、人間主義的関わりとこれまでの理論の違いを理解する (4H)						
6	理論3-2：人間主義的音楽療法 創造的音楽療法について 教材視聴 [準備・課題]学んだ内容を復習し、即興を用いる音楽療法の目的を理解する (4H)						
7	中間テスト（授業1～6回の内容）、移調課題 [準備・課題]学んだ内容を復習する (4H)						
8	中間テストの振り返り、精神科デイサービスにおける音楽活動1 岐阜県における精神障害者手帳の取得数、疾病の種類など [準備・課題]学んだ内容を復習し、精神疾患について理解する (4H)						
9	精神科デイサービスにおける音楽活動2 慢性化患者の特性、働きかけについて [準備・課題]学んだ内容を復習し、精神科リハビリテーションについてまとめる (4H)						
10	精神科デイサービスにおける音楽活動3 音楽活動の留意点、実際の活動体験 [準備・課題]学んだ内容を復習し、精神科で用いられる音楽についてまとめる (4H)						
11	グループプロセスについて、転移、逆転移について [準備・課題]学んだ内容を復習し、専門用語について理解する (4H)						
12	障害を持つ子どもを持つ保護者を招いて（ゲストスピーカー）親の想い、施設スタッフに期待すること、岐阜県の療育の実際と課題について [準備・課題]学んだ内容を復習し、話を聞いた感想をレポートにまとめる (4H)						
13	評価方法について [準備・課題]学んだ内容を復習する (4H)						
14	対象者に合わせた音楽の提供：移調、テンポ、選択する楽器など [準備・課題]学んだ内容の復習 (4H)						
15	他職種との連携と音楽療法活動 [準備・課題]学んだ内容の復習 (4H)						
時間外での学修	毎回宿題が出ますので準備をしてください。						
受講学生へのメッセージ	課題のレポート、練習問題の成績比率が成績評価に関係してきます。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【MA】音楽療法・技法		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽療法士として必要な音楽技法や心理的援助方法、集団をまとめる方法についての知識を学びます。臨床の現場で発生する問題や課題について解決方法をクラス内で討議し、問題解決能力の向上をはかります。						
授業方法	講義形式ですが演習も含まれます。						
到達目標	知識・理解	音楽療法の技法について基本的な知識を得ておりそれぞれの理解ができてい			◎		
	思考・判断・表現	音楽療法に関連する分野についての基本的な知識を持ち、どの分野にどの技法が適しているか判断できる。			◎		
	技能	対象者の立場を考えた計画ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	-	-	50
	レポート		20	10	10	-	40
	受講態度		-	-	10	-	10
	合計(点)		50	30	20	-	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。課題の発表を行わない学生には単位を与えません。						
テキスト	授業中にプリントを配布します。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	認知機能を測る標準化されたテストについて：かなひろいテスト、MMSE、長谷川式についてそれぞれの特徴を知り、長谷川式テストの練習を2人ひと組になって行う。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、自分でテストを実施する練習をする(4H)						
2	新版長谷川式テストを一人ずつ行い点数計算ができるようになる。それぞれの待ち時間には移調課題を行う。次週の回想法発表に向けて課題の説明 [準備・課題]学んだ内容を復習し、回想法課題の準備を行う(4H)						
3	回想法について：手順と方法について学ぶ。各自持参した回想法に使う道具を発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、回想法について理解する(4H)						
4	学習療法について：手順と方法について学ぶ。簡単なクイズの作成、発表を行う。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、学習療法について理解する(4H)						
5	倫理について：音楽療法士の職業倫理について事例から学ぶ。グループ討論 [準備・課題]学んだ内容を復習し、音楽療法士の倫理について理解する(4H)						
6	回想法と音楽療法の組み合わせ：対象者にとって重要な出来事や時期に合致する選曲を行い、どのように声かけを行うか発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者が懐かしく感じる曲についてまとめる(4H)						
7	学習療法と音楽療法の組み合わせ：歌唱や楽器演奏を取り入れることで言葉を記憶しやすくしたり、複数の活動を一度に行う方法について発表する。曲名を連想するクイズを作成する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、使用する曲を練習する(4H)						
8	矯正施設における音楽療法：日本ではあまり多く行われていないが欧米で実践されている手法について、音楽を用いたカウンセリングの目的や方法について学ぶ。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、矯正施設の特性と音楽活動の目的の関連についてまとめる(4H)						
9	NICUにおける音楽療法：刺激に過敏に反応する傾向にある低出生体重児に対して音楽が適度な刺激となるには様々な配慮を行う必要がある。実際のセッションの様子をビデオを見て学ぶ。 [準備・課題]学んだ内容の復習(4H)						
10	介護予防と音楽療法：障害や病気をもつ人だけでなく、高齢者社会が急速に進む日本において介護予防は喫緊の課題である。音楽療法士が勤務することの多い高齢者施設でも地域の人を対象とした介護予防に関する音楽活動に携わる機会がある。実際にゲストスピーカーを招き、介護予防と音楽療法の実際について学ぶ。 [準備・課題]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる(4H)						
11	緩和ケアにおける音楽療法：ホスピス、緩和ケアにおいて音楽療法士が働いている現場はまだ少ないが、対象者本人だけではなく家族も含めた働きかけが重要となる。日本と海外のビデオを見て学ぶ。教材視聴 [準備・課題]学んだ内容を復習し、自分の死生観について理解し、終末期ケアのニーズとの関連を考える(4H)						
12	地域における音楽療法：従来の、対象者の問題に対する治療目的が明確な伝統的な音楽療法に加えて近年コミュニティ音楽療法という概念が出てきている。地域を対象とした音楽活動について、実際に地域で活動している音楽療法士をゲストに招いて学ぶ。 [準備・課題]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる(4H)						
13	日本で発達した音楽療法1：欧米だけでなく、日本の実情に合わせて発達してきた音楽療法の手法について基本的な概念を学ぶ。ミュージックケア、ミュージックボランティアなど [準備・課題]学んだ内容を復習しまとめる(4H)						
14	日本で発達した音楽療法2：音楽運動療法、現在の音楽療法の課題など [準備・課題]学んだ内容を復習しまとめる(4H)						
15	音楽療法を現場で実践するにあたっての業務、予算、計画申請などについて。これまでの授業の振り返り [準備・課題]学んだ内容の復習(4H)						
時間外での学修	毎週移調課題が出されます。宿題として評価の対象になります。						
受講学生へのメッセージ	知識と、自分で考える能力の両方が現場では必要とされます。自分ならどうするのか、常に考えながら授業に臨んでください。オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。						

【MS】音楽療法実践Ⅲ		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	日比 あけみ					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	高齢者施設での実践を通して対象者への理解をより深めるとともに、好ましい接し方や適切な働きかけ方を身につけます。					
授業方法	学内での演習および学外での実践。					
到達目標	知識・理解	目標に沿って適切な活動の組み立てを考えることができる。			◎	
	思考・判断・表現	全体の活動の流れを見通しながら、自分の役割に責任を持つことができる。			○	
	技能	「高齢者から学ぶ」という謙虚な態度で実践に臨むことができる。			○	
	関心・意欲・態度	活動を振り返ることで、どのような働きかけが望ましいのか考えることができる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実践発表	20	20	20	-	60
	受講態度	-	-	-	10	10
	レポート	-	-	-	20	20
	期末試験	10	-	-	-	10
	合計(点)	30	20	20	30	100
評価の特記事項						
テキスト	『歌の宝宝箱 手あそび歌付』ドレミ楽譜出版社(2,160円)ISBN:978-4285142761					
参考書・教材	資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション(年間計画・課題の確認) [準備・課題]課題における目標設定(1~3h)					
2	アセスメントを目的とした施設訪問 [準備・課題]施設訪問における目標設定と振り返り(1~3h)					
3	高齢者施設での音楽活動①「高齢者理解」準備 [準備・課題]実践に向けての事前調査・個人練習(1~3h)					
4	高齢者施設での音楽活動①「高齢者理解」リハーサル [準備・課題]活動についての意見交換・見直し(1~3h)					
5	高齢者施設での音楽活動①「高齢者理解」実践 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)					
6	活動①の振り返り [準備・課題]実践記録のまとめ(1~3h)					
7	高齢者施設での音楽活動②「目標設定」準備 [準備・課題]実践に向けての事前調査・個人練習(1~3h)					
8	高齢者施設での音楽活動②「目標設定」リハーサル [準備・課題]活動についての意見交換・見直し(1~3h)					
9	高齢者施設での音楽活動②「目標設定」実践 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)					
10	活動②の振り返り [準備・課題]実践記録のまとめ(1~3h)					
11	高齢者施設での音楽活動③「働きかけ」準備 [準備・課題]実践に向けての事前調査・個人練習(1~3h)					
12	高齢者施設での音楽活動③「働きかけ」リハーサル [準備・課題]活動についての意見交換・見直し(1~3h)					
13	高齢者施設での音楽活動③「働きかけ」実践 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)					
14	活動③の振り返り [準備・課題]実践記録のまとめ(1~3h)					
15	援助的人間関係について [準備・課題]対象者の心情を汲みとる(1~3h)					
時間外での学修	自分の担当になった活動は責任をもって準備してください。					
受講学生へのメッセージ	人前に立つには、心身ともに良好であることが大事です。いつも健康管理に気を配って実践現場に臨んでください。 オフィスアワーは授業前後の休みに教室で実施。					

【MA】音楽療法実践IV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 あけみ						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	対象者のポジティブな部分を大切にしたい音楽活動を計画します。また、分野別・形態別に学ぶことで多様性のある働きかけ方を身につけます。						
授業方法	学内での演習。実践形式で行います。						
到達目標	知識・理解	対象者のニーズに合った目標と活動の組み立てを考慮することができる。			◎		
	思考・判断・表現	対象者の好みの歌を知り、弾き歌いができるようにする。			○		
	技能	対象者の心情を汲みとりながら、活動を進めることができる。			○		
	関心・意欲・態度	活動を振り返ることで、どのような働きかけ方が望ましいのか考えることができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実践発表		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	レポート		-	-	-	20	20
	期末試験		10	-	-	-	10
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項							
テキスト	『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』あおぞら音楽社(2,484円) ISBN: 978-4904437032 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』あおぞら音楽社(2,484円) ISBN: 978-4904437049 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』あおぞら音楽社(2,646円) ISBN: 978-4904437056 「音楽療法演習」履修者は購入済						
参考書・教材	資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(年間計画の確認) 個人セッション(高齢者)の活動準備 [準備・課題]事前調査、計画(1~3h)						
2	個人セッション(高齢者)の練習 [準備・課題]練習、見直し(1~3h)						
3	個人セッション(高齢者)の発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)						
4	活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)						
5	個人セッション(成人)の活動準備 [準備・課題]事前調査、計画(1~3h)						
6	個人セッション(成人)の練習 [準備・課題]練習、見直し(1~3h)						
7	個人セッション(成人)の発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)						
8	活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)						
9	個人セッション(児童)の活動準備 [準備・課題]事前調査、計画(1~3h)						
10	個人セッション(児童)の練習 [準備・課題]練習、見直し(1~3h)						
11	個人セッション(児童)の発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)						
12	活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)						
13	少人数グループセッションの活動準備および練習 [準備・課題]事前調査、計画、練習、見直し(1~3h)						
14	少人数グループセッションの発表 [準備・課題]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)						
15	活動の振り返り [準備・課題]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)						
時間外での学修	様々なボランティア活動に参加し、人と多く関わることで柔軟性を身につけてください。						
受講学生へのメッセージ	いろいろな立場になって活動を進めます。お互いに気付いたことを伝え合える関係づくりに努めてください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MA】臨床実習(事前・事後指導を含む)		音楽総合学科		2年後期		
		3単位	選択	実習	135時間	
教員	菅田 文子・日比 あけみ					
資格・制限等	既修得科目による制限有り					
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年					
授業内容	音楽療法士資格取得のための臨床実習に向けた事前準備および実習後の資格申請手続きまでをこの時間内に行います。 実習前はセッション記録の取り方の復習、実践計画と準備を行います。実習終了後は実習期間中の振り返りや実習中に起きた問題をクラス内で共有するなど。1年生の授業において実習成果を発表するので、その準備もこの時間でを行います。					
授業方法	講義形式、実習グループに分かれた計画の立案、練習、他グループの前での発表練習などを含みます。					
到達目標	知識・理解	対象者のアセスメントを行い目標を設定することができる。			◎	
	思考・判断・表現	自分の行った活動について目的や内容を説明することができる。			△	
	技能	目標に沿って計画したグループセッションと個人セッションを実施して記録を取ることができる。			△	
	関心・意欲・態度	施設実習において関連職種やスタッフと十分に連携を取り実践活動が行える。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	課題提出	30	10	-	-	40
	受講態度	-	-	-	50	50
	発表(グループ発表含む)	-	-	10	-	10
	合計(点)	30	10	10	50	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 実習を終了して所定のレポートを提出することが単位の要件となります。					
テキスト						
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション、各実習施設の説明、希望施設の調査 [準備・課題]学んだ内容の復習、実習計画の作成(2H)					
2	実習記録の配布、記入方法の説明、実習生個人目標の設定 [準備・課題]学んだ内容の復習、実習計画の作成(2H)					
3	音楽療法セッションの準備1 グループセッションのため予備も含めて10曲×3セッションを目標に準備を行う。 [準備・課題]セッションの準備、曲の練習(3H)					
4	音楽療法セッションの準備2 セッション計画を記入、担当教員と内容、治療目標との検討を個別に行う。 [準備・課題]セッションの準備、曲の練習(3H)					
5	音楽療法セッションの準備3 譜面、楽器、歌詞幕なども準備を行う。 [準備・課題]セッションの準備、曲の練習(3H)					
6	音楽療法セッションの準備4 先週に引き続きグループセッション3つ分の準備を行う。 個人セッションのアセスメントについて復習し、確認を行う。 [準備・課題]セッションの準備、曲の練習(3H)					
7	実習前の心構え：倫理、服装、態度について 実習直前の準備を行う。 [準備・課題]セッションの準備、曲の練習(3H)					
8	音楽療法コース臨床実習1週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [準備・課題]実習記録の記入(10H)					
9	音楽療法コース臨床実習2週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [準備・課題]実習記録の記入(10H)					
10	実習を終えて：振り返りと施設に向けてお礼状を作成する 実習記録ノートの整理 [準備・課題]学んだ内容の復習(1H)					
11	個人セッション報告書の作成 担当した個人セッションの報告書を作成し、提出する。 [準備・課題]学んだ内容の復習(1H)					
12	音楽療法士資格申請準備 これまでに取得した単位を計算して所定の用紙に下書きし、提出する。清書は担当教員が行う。 [準備・課題]学んだ内容の復習(1H)					
13	1年生に向けた発表準備と計画 実習施設と音楽活動について1年生の授業にて発表するための準備を行う。 [準備・課題]学んだ内容の復習(1H)					
14	実習のまとめ、振り返り [準備・課題]学んだ内容の復習(1H)					
15	レポート課題の作成、提出 [準備・課題]学んだ内容の復習(1H)					
時間外での学修	実習に向けて時間外も含めて準備を進めてください。					
受講学生へのメッセージ	各自課題を設定し、苦手なところを克服できるようにがんばりましょう。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。					

【MS】ウインドアンサンブル I C (2年次生)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵						
資格・制限等	W・Rコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。パート内交流。 [準備・課題] シラバスの熟読・自己の基礎力を確認 (2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座① (個人の基礎力チェック) パート内で確認し合う。 及び基礎力向上のための楽曲①配布・音だし [準備・課題] 楽曲①の研究及び練習、個々に基礎力をチェック (2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座③ (ロングトーン) 及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し [準備・課題] 楽曲②の研究及び練習、ロングトーンの実践 (2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座⑤ (チューニング①) 及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし [準備・課題] 楽曲③の研究及び練習、チューニング方法の確認 (2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座⑦ (長音階スケール) パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し [準備・課題] 楽曲④の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑨ (長音階スケール) 及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑤の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑪ (ユニゾン) 及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑥の研究及び練習、ユニゾンの合わせ方を復習 (2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑬ (3連符と12/8拍子での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑦配布・音だし [準備・課題] 楽曲⑦の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑮ (16分音符での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑧配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑧の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座⑰ (3度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑨配布・音だし [準備・課題] 楽曲⑨の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)						
11	基礎力向上の為の講座⑱ (4度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑩配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑩の研究及び練習、4度の練習 (2h~4h)						
12	基礎力向上の為の講座㉑ (5度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑪配布・音だし [準備・課題] 楽曲⑪の研究及び練習、5度の練習 (2h~4h)						
13	基礎力向上の為の講座㉓ (アルペジオ:長調) 及び音楽鑑賞用楽曲⑫配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑫の研究及び練習、アルペジオ:長調の練習 (2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	基礎力向上の為の講座㉔（3度・4度・5度・6度の練習） 及び音楽鑑賞用楽曲⑬配布・音出し [準備・課題]楽曲⑬の研究及び練習、3度・4度・5度・6度の練習（2h～4h）
15	基礎力向上の為の講座㉕（長3和音と属7の和音） 試験指定曲の合奏 [準備・課題]試験指定の研究及び練習、長3和音と属7の和音の練習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MA】 ウインドアンサンブル I D (2年次生)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵						
資格・制限等	W・Rコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほか各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セッションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セッション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座①(短音階スケール)及び音楽観賞用楽曲①配布・音だし [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、短音階スケールの練習 (2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座③(短音階スケール)パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、短音階スケールの練習 (2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座⑤(3連符と12/8拍子での音階)及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座⑦(16分音符での音階)及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座⑨(3度)及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑪(アルペジオ:短調)及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、アルペジオ:短調の練習 (2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑬(短3和音と減7の和音)及び定期演奏会選曲・音だし1 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、短3和音と減7の和音の練習 (2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑮(グルーピング)及び定期演奏会選曲・音だし3 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、グルーピングの復習 (2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑰(重心)及び定期演奏会に向けての練習1 楽曲1・2 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究及び楽曲1・2の練習、重心の復習 (2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座⑲(コントラスト)及び定期演奏会に向けての練習3 楽曲3・4 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究及び楽曲3・4の練習、コントラストの復習 (2h~4h)						
11	定期演奏会に向けての練習5 楽曲5~7 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究及び楽曲5~7の練習(2h~4h)						
12	定期演奏会に向けての練習7 楽曲8~10 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究及び楽曲8~10の練習(2h~4h)						
13	定期演奏会に向けての練習9 全曲 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究及び全曲の練習(2h~4h)						
14	定期演奏会に向けての練習11 全曲及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	定期演奏会に向けての練習 1 3 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MS】ウインドアンサンブルⅡC		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基						
資格・制限等	W・Rコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セッションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セッション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	入学前課題発表・鑑賞 [準備・課題]入学前課題の研究・練習・復習 (1h~2h)						
2	基礎力向上の為の講座②(個人の基礎力チェック) パート内で確認し合う。 及び基礎力向上のための楽曲①合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、個々に基礎力をチェック (1h~2h)						
3	基礎力向上の為の講座④(半音階) 及び音楽鑑賞用楽曲②合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、半音階の練習 (1h~2h)						
4	基礎力向上の為の講座⑥(チューニング②) 及び音楽鑑賞用楽曲③合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、チューニング方法の実践 (1h~2h)						
5	基礎力向上の為の講座⑧(長音階スケール) パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲④合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、長音階スケールの練習 (1h~2h)						
6	基礎力向上の為の講座⑩(ユニゾン) 及び音楽鑑賞用楽曲⑤合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、ユニゾンを合わせる練習 (1h~2h)						
7	基礎力向上の為の講座⑫(3連符と12/8拍子での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑥合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (1h~2h)						
8	基礎力向上の為の講座⑭(16分音符での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑦合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑦の研究及び練習、16分音符での音階練習 (1h~2h)						
9	基礎力向上の為の講座⑯(3度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑧合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑧の研究及び練習、3度の練習 (1h~2h)						
10	基礎力向上の為の講座⑰(4度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑨合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑨の研究及び練習、4度の練習 (1h~2h)						
11	基礎力向上の為の講座⑱(5度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑩合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑩の研究及び練習、5度の練習 (1h~2h)						
12	基礎力向上の為の講座㉒(アルペジオ:長調) 及び音楽鑑賞用楽曲⑪合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑪の研究及び練習、アルペジオ:長調の練習 (1h~2h)						
13	基礎力向上の為の講座㉔(3度・4度・5度・6度の練習) 及び音楽鑑賞用楽曲⑫合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑫の研究及び練習、3度・4度・5度・6度の練習 (1h~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	基礎力向上の為の講座㉔（長3和音と属7の和音） 及び音楽鑑賞用楽曲㉓合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲㉓の研究及び練習、長3和音と属7の和音の練習（1h～2h）
15	基礎力向上の為の講座まとめ 試験指定曲の合奏 [準備・課題]試験指定の研究及び練習（1h～2h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セッション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MA】 ウインドアンサンブルⅡD		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基						
資格・制限等	W・Rコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セッションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セッション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座②(短音階スケール)及び音楽鑑賞用楽曲①合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、短音階スケールの練習 (1h~2h)						
2	基礎力向上の為の講座④(短音階スケール)パートで確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲②合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、短音階スケールの練習 (1h~2h)						
3	基礎力向上の為の講座⑥(3連符と12/8拍子での音階)及び音楽鑑賞用楽曲③合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (1h~2h)						
4	基礎力向上の為の講座⑧(16分音符での音階)及び音楽鑑賞用楽曲④合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、16分音符での音階練習 (1h~2h)						
5	基礎力向上の為の講座⑩(3度)及び音楽鑑賞用楽曲⑤合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、3度の練習 (1h~2h)						
6	基礎力向上の為の講座⑫(アルペジオ:短調)及び音楽鑑賞用楽曲⑥合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、アルペジオ:短調の練習 (1h~2h)						
7	基礎力向上の為の講座⑭(短3和音と減7の和音)及び定期演奏会選曲・音だし2 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、短3和音と減7の和音の練習 (1h~2h)						
8	基礎力向上の為の講座⑯(フレーズ)及び定期演奏会選曲・音だし4 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、フレーズの復習 (1h~2h)						
9	基礎力向上の為の講座⑰(アゴーギグ)及び定期演奏会に向けての練習2 楽曲1・2 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲1・2の練習、アゴーギグの復習(1h~2h)						
10	基礎力向上の為の講座まとめ及び定期演奏会に向けての練習4 楽曲3・4 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲3・4の練習(1h~2h)						
11	定期演奏会に向けての練習6 楽曲5~7 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲5~7の練習(1h~2h)						
12	定期演奏会に向けての練習8 楽曲8~10 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲8~10の練習(1h~2h)						
13	定期演奏会に向けての練習10 全曲 [準備・課題]定期演奏会の研究及び練習(1h~2h)						
14	定期演奏会に向けての練習12 全曲及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (1h~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	定期演奏会に向けての練習 1 4 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (1h~2h)
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MS】吹奏楽指導法 I		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	長尾 洪基					
資格・制限等	Wコース必修					
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年					
授業内容	総合的な音楽知識を背景に、吹奏楽において使用される楽器の音色の特性・音域・機能性を理解するために、アンサンブル、吹奏楽譜の製作方法を学びながら、合奏やアンサンブル等の特性を理解し、楽譜を読み取る力を高め、自分の楽曲の解釈や音楽性をどのように相手に伝えるかを学習研究します。各楽器の特性や、基礎練習の方法など、具体的な指導内容の研究をします。					
授業方法	吹奏楽指導における必要な知識を講義によって学びます。 アンサンブル・吹奏楽曲を研究し、作品を実際に演奏、問題点を見直し作品を仕上げていきます。					
到達目標	知識・理解	吹奏楽、アンサンブル、各パートの指導を行う上での基本的な知識・技術を身につけ、計画立案ができる。			◎	
	思考・判断・表現	アンサンブル、吹奏楽譜のアレンジができ作譜ができる。			△	
	技能	基本的な指揮を振ることができる。			△	
	関心・意欲・態度	講義内容において自発的な問題提起・解決ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	-	-	10	50
	指揮実習	-	-	10	-	10
	課題提出	20	10	-	10	40
	合計(点)	60	10	10	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	なし					
参考書・教材	その都度配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容等 [準備・課題]音楽基礎知識（楽典）の予習(1～2h)					
2	吹奏楽の基礎知識 吹奏楽の歴史や成り立ち [準備・課題]音楽基礎知識（楽典・管打楽器について）の予習(1～2h)					
3	吹奏楽理論の復習1 音程 [準備・課題]本時学習内容（2音間の音程）の復習(1～2h)					
4	吹奏楽理論の復習2 移調 [準備・課題]本時学習内容（移調）の復習(1～2h)					
5	和声基礎の復習 [準備・課題]和声知識の予習(1～2h)					
6	和声演習1 [準備・課題]本時学習内容（3和音基本形和声演習課題）の復習(1～2h)					
7	和声演習2 [準備・課題]本時学習内容（3和音基本形短調和声演習課題）の復習(1～2h)					
8	和声演習3 [準備・課題]本時学習内容（7の和音和声演習課題）の復習(1～2h)					
9	和声演習4 [準備・課題]本時学習内容（転回形和声課題）の復習(1～2h)					
10	吹奏楽譜の編曲1 [準備・課題]本時学習内容（編成の検討決定）の確認(1～2h)					
11	吹奏楽譜の編曲2 [準備・課題]本時学習内容（構成の検討決定）の復習補充(1～2h)					
12	吹奏楽譜の編曲3 [準備・課題]本時学習内容（編曲実習）の復習補充(1～2h)					
13	吹奏楽譜の編曲4 [準備・課題]本時学習内容（編曲実習）の復習補充(1～2h)					
14	アレンジ作品の音だし1 編曲した楽曲を実際に音を出し、問題点を抽出 [準備・課題]本時学習内容（問題点の確認および改良）の実施(1～2h)					
15	アレンジ作品の音だし2 課題の完成・提出 [準備・課題]本時学習内容（編曲作品の総括）の実施(1～2h)					
時間外での学修	1年時の音楽理論等で学習した内容がとて重要になります。しっかり復習しましょう。楽譜の製作等、作業の多い科目ですので、作業の遅れ等がないよう注意しましょう。					
受講学生へのメッセージ	日ごろから音楽の仕組み、アンサンブルの音のブレンドや各楽器の音色や特徴に興味を持つ事により、吹奏楽への深い理解を養い、それが編曲、指導に役立ちます。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。					

【MA】吹奏楽指導法Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者(含 高等学校教員)・31年						
授業内容	総合的な音楽知識を背景に、吹奏楽において使用される楽器の音色の特性・音域・機能性を理解し、アンサンブル、吹奏楽譜の制作方法を学びます。 また合奏、アンサンブル等の特性を理解し、楽譜を読み取る力を高め、自分の考え、音楽性をどのように相手に伝えるかを学習します。 各楽器の特性や、基礎練習の方法など、具体的な指導内容の研究をします。						
授業方法	講義により楽曲分析、スコアリーディングを行い総譜の読み方を学びます。 指揮法、基礎合奏指導、楽曲指導などを指導計画を立案しながら学びます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽、アンサンブル、各パートの指導を行う上での基本的な知識、技術を身につける。			◎		
	思考・判断・表現	アンサンブル、吹奏楽譜のアレンジができ作譜ができる。			△		
	技能	基本的な指揮を振ることができる。			△		
	関心・意欲・態度	講義内容において自発的な問題提起・解決ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	10	50
	レポート		-	-	10	-	10
	課題発表		20	10	-	10	40
	合計(点)		60	10	10	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽作品の形式 [準備・課題]音楽形式の予習(1~2h)						
2	楽曲分析1 音楽作品の構造・主題・和声・旋律・楽器法・様式・技法等の分析 [準備・課題]本時学習内容の復習(1~2h)						
3	楽曲分析2 音楽作品の構造・主題・和声・旋律・楽器法・様式・技法等の分析 [準備・課題]本時学習内容の復習(1~2h)						
4	楽曲分析3 音楽作品の構造・主題・和声・旋律・楽器法・様式・技法等の分析 [準備・課題]本時学習内容の復習(1~2h)						
5	スコアリーディング1 複数のパートを含んだ楽譜の構造研究 [準備・課題]本時学習内容(課題曲における楽器法)の復習(1~2h)						
6	スコアリーディング2 複数のパートを含んだ楽譜の構造研究 [準備・課題]本時学習内容(課題曲における形式)の復習(1~2h)						
7	指揮法1 基本的な指揮の振り方を学ぶ [準備・課題]本時学習内容(指揮法)の復習(1~2h)						
8	指揮法2 実際に演奏者に対しての指揮 [準備・課題]本時学習内容(指揮法)の復習(1~2h)						
9	基礎練習の指導法1 ユニゾン練習、ハーモニー練習、スケール練習等の方法 [準備・課題]本時学習内容(基礎練習的な合奏方法1)の復習(1~2h)						
10	基礎練習の指導法2 ユニゾン練習、ハーモニー練習、スケール練習等の方法 [準備・課題]本時学習内容(基礎練習的な合奏方法2)の復習(1~2h)						
11	楽曲の指導法1 楽曲を合奏し指導内容を学ぶ: コラール [準備・課題]本時学習内容(コラール演奏法)の復習(1~2h)						
12	楽曲の指導法2 楽曲を合奏し指導内容を学ぶ: マーチ [準備・課題]本時学習内容(マーチ演奏法・テンゴ設定)の復習(1~2h)						
13	楽曲の指導法3 楽曲を合奏し指導内容を学ぶ: 様々な楽想 [準備・課題]本時学習内容(マーチ演奏法・表現の方法)の復習(1~2h)						
14	楽曲の分析研究 後日実際にその曲を題材に指導をする [準備・課題]本時学習内容(総合的な楽曲分析および指導計画)の確認補充(1~2h)						
15	合奏指導演習発表 [準備・課題]本時学習内容(実際の合奏指導)の総括(1~2h)						
時間外での学修	1年時の音楽理論で学習した内容がとても重要になります。しっかり復習しましょう。 楽譜の制作等、作業の多い科目ですので、作業の遅れ等がないよう注意しましょう。						
受講学生へのメッセージ	日ごろから音楽の仕組み、アンサンブルの音のブレンドや各楽器の音色や特徴に興味を持つ事により、吹奏楽への深い理解を養い、それが編曲、指導に役立ちます。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】リペア応用(木管Ⅰ)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺博夫：メーカー修理職・34年						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度な技能を身につけることで効率の良い作業方法を考える。また、卒業後を見据えて実践的な技能の習得 木管楽器全般知識の学修						
授業方法	実技が主となりますが、個々の改善点をクリアにし、ステップアップを重ね、学内認定合格に向けて学修して行きます。 また、各社メーカー比較等を取り入れ、セールスエンジニアに必要な知識なども学修します。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し的確なリペアが出来る。			△		
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、リペア箇所を見つけ解決法を判断する。			○		
	技能	各木管楽器の状態把握を行い、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学習することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・授業の進め方 [準備・課題] 今日説明した事を理解し次の授業に向けて準備をする (1h)						
2	クラリネット応用実習 タンボ交換、タンボ合わせ [準備・課題] 1年次時に行った内容を復習 (3h)						
3	クラリネット応用実習 全体バランス調整、軟物交換 [準備・課題] I年次時に学んだ内容を復習 (3h~5h)						
4	クラリネット応用実習 管体割れ修理、拇指音孔、レジスター管調整 [準備・課題] 息もれの原因につながる重要な作業であるため、学んだ内容の復習 (3h)						
5	クラリネット応用実習 学内認定プレ試験 [準備・課題] チェック項目の確認と時間配分についての復習 (3h)						
6	フルート応用実習 タンボ交換、タンボ合わせ [準備・課題] 1年次時に学んだ内容の復習 (3h)						
7	フルート応用実習 全体バランス調整、軟物交換 [準備・課題] 1年次時に学んだ内容を発展させた授業の復習 (3h~5h)						
8	フルート応用実習 全体調整 [準備・課題] 1年次時に学んだ内容を発展させた授業の復習 (3h~5h)						
9	サクソフォン応用実習 タンボ交換、タンボ合わせ [準備・課題] 作業の効率化をよく考える復習 (3h)						
10	サクソフォン応用実習 テーブルキー調整他 [準備・課題] キレイアウトや取り付け位置を十部に把握するための復習 (3h)						
11	サクソフォン応用実習 全体バランス調整、軟物交換 [準備・課題] キレイアウトや取り付け位置を十部に把握するための復習 (3h)						
12	主要管楽器メーカー講習 [準備・課題] 外部講師による商品研修や技術講義についての復習 (3h~5h)						
13	ヤマハ管楽器リペア技能試験希望者に対して学内プレ試験 希望者以外は木管楽器全般調整実習 [準備・課題] 受験者については、規定時間内での作業確認を行い。 また、木管楽器全般での苦手意識を克服する復習 (3h)						
14	各社メーカー別調整実習 [準備・課題] 構造や楽器に求めるものの違い等学んだ内容の復習 (3h)						
15	木管楽器応用実習 (スワブ詰まり、ノックピン抜き修正他) [準備・課題] リペア内容の広域化を理解しその復習 (3h)						
時間外での学修	技能の反復実習により、確実に身につけてください。 各社カタログ等を理解し、品番ロジックが説明出来るようにしてください。 また、楽器店を訪問することで、各店のディスプレイの違いや接客姿勢、商品の種類などを理解して楽器店実習の準備に取り掛かる。						
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべきことを十分に理解し、さらなる技能向上を目指して下さい。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後にF101教室で行います。						

【MA】リペア応用(木管Ⅰ)B		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺博夫：メーカー修理職・34年						
授業内容	前期で学修した技能を更に発展させ、より高度な技術力を身につけ、作業時間の効率化を図るために手順の見直しや改善を考える。 また、卒業後を見据えたより実践的な技能の習得、木管楽器全般知識の習得。 *学内認定試験を随時実施します。 *ヤマハ(株)管楽器技能評価試験受験者は、合格を目指します。						
授業方法	実技中心とし、各自が苦手意識や不得意分野を克服するよう反復練習の時間を増やします。 インターン実習の機会を設け、より多くの現場を観て、キャリア形成を考える。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアができる。			△		
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。			○		
	技能	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生へは単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15,120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各楽器カタログ、資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	木管楽器応用実習 音孔修正他 [準備・課題]タンゴ調整以外での内容の復習(3h)						
2	木管楽器応用実習 フルートリングキイ他 [準備・課題]実習用カバードキイ以外の学んだ内容の復習(3h)						
3	木管楽器応用実習 ピッコロ、ハーモニークラリネット [準備・課題]幅広い楽器群を説明した内容の復習(3h)						
4	主要管楽器メーカー講習 [準備・課題]構造やメカニカル部分の違いなど、学んだ内容の復習(3h~5h)						
5	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]受験に対してのチェックポイントの説明を行い、学んだ内容の復習(3h~5h)						
6	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]規定時間等、学んだ内容の復習(3h~5h)						
7	木管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]規定時間、クオリティー等、学んだ内容の復習(3h~5h)						
8	木管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]規定時間、クオリティー等、学んだ内容の復習(3h~5h)						
9	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]出来上がり品に対してチェックを行い、クリアに向けての復習(3h~5h)						
10	木管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようする [準備・課題]出来上がり品に対してチェックを行い、クリアに向けての復習(3h~5h)						
11	木管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]出来上がり品に対してチェックを行い、クリアに向けての復習(3h~5h)						
12	主要楽器メーカー講習 [準備・課題]構造やタンゴ交換作業も異なる事を理解し、自己にとって効率の良い方法を復習(3h~5h)						
13	木管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]それぞれ異なった楽器にどう向き合って試験に臨むのか、学んだ内容の復習(3h~5h)						
14	木管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]苦手意識を持たないで、どうすれば合格に到達できるか、学んだ内容の復習(3h~5h)						
15	木管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格点に達するようにする [準備・課題]それぞれ異なった楽器にどう向き合って試験に臨むのか、学んだ内容の復習(3h~5h)						
時間外での学修	苦手意識を無くし、確実に身につける。多くの技術者の手法(リペア技能)を理解することで、到達点への過程の違いを見出し、自分のスタイルを確立させる。						
受講学生へのメッセージ	技術以外にセールスエンジニアとして必要なマナーを身につけ、人間性を向上させて下さい。 オフィスアワーは毎週火曜日授業終了後F101教室で行います。						

【MS】リペア応用(木管Ⅱ)A		音楽総合学科		2年前期		
		2単位	必修	実技	90時間	
教員	松永 幸宏					
資格・制限等	Rコース必修					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年					
授業内容	1年次で学んだ基礎技術を発展させ、より高度な技術力を身につけ、作業時間短縮を図るために、効率の良い作業法を考える。 また、卒業後を見据えて実践的な技術の習得、木管楽器全般の商品知識の習得					
授業方法	全体での実技中心とし、講義、DVD、小テスト等を入れながら、より専門性の高い木管楽器のリペア技能、知識が身につく授業にしていきます。 また、各社メーカー比較などを取り入れながら、セールスエンジニアとして必要な知識なども身につけます。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し的確なリペアができる。			△	
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。			○	
	技能	各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	20	50	-	70
	受講態度	-	-	-	20	20
合計(点)	10	20	50	20	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15,120円) 1年次に購入したものを使用します。					
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の進め方 [準備・課題]1年次に学んだ内容の復習 (1h)					
2	クラリネット応用実習 全体バランス調整、軟物交換 [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h)					
3	クラリネット応用実習 全体調整(ガタ、セリ、バネ圧、キイ位置他) [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h~5h)					
4	クラリネット応用実習 全体調整(ガタ、セリ、バネ圧、キイ位置他) [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h~5h)					
5	フルート応用実習 タンポ交換、タンポ合わせ [準備・課題]タンポ交換、総合的な修理の復習 (3h)					
6	フルート応用実習 全体バランス調整、軟物交換 [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h~5h)					
7	フルート応用実習 ヘッドコルク交換、反射板位置出し、ジョイント調整 [準備・課題]頭部管の総合的な修理の復習 (3h)					
8	フルート応用実習 学内認定試験準備 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習 (3h)					
9	サクソフォン応用実習 タンポ交換、タンポ合わせ [準備・課題]タンポ交換の復習 (3h)					
10	サクソフォン応用実習 全体バランス調整、軟物交換、鍵管変形修正 [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h~5h)					
11	サクソフォン応用実習 全体調整、ベル1番管=2番管分解組み立て [準備・課題]分解・組立の復習 (3h)					
12	サクソフォン応用実習 学内認定試験準備 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習 (3h)					
13	木管楽器総合応用 それぞれの楽器について学内認定試験に向け合格レベルの確認作業 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習 (3h)					
14	木管楽器総合応用 それぞれの楽器について学内認定試験に向け合格レベルの確認作業 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習 (3h)					
15	木管楽器総合応用 それぞれの楽器について学内認定試験に向け合格レベルの確認作業 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の(3h)					
時間外での学修	技能の反復練習で確実に身につける。 各社カタログ等をしっかり読み、商品知識を身につけ、楽器店訪問することで各店の展示の仕方や接客姿勢、商品の種類などを理解し、楽器店実習の準備に取り組む。					
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべき事をしっかり理解し、更なる技能向上を目指して下さい。 オフィスアワーは毎週火曜日授業終了後F101教室で行います。					

【MA】リペア応用(木管Ⅱ)B		音楽総合学科		2年後期		
		2単位	必修	実技	90時間	
教員	松永 幸宏					
資格・制限等	Rコース必修					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年					
授業内容	前期で学修した技能を発展させ、より高度な技術力を身につけ、作業時間を短縮する効率の良い作業方法を考える。また、卒業後を見据えたより実践的なリペア技術の習得、木管楽器全般の知識の習得。 *学内認定試験を随時行います。 *ヤマハ(株)管楽器リペア技術評価試験受験者は合格を目指します。					
授業方法	実技中心とし、各自が不得意としている内容を克服するよう反復練習の時間を増やします。インターン実習の機会を設け、より多くの現場を観てもらおうようにします。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し的確なリペア対応ができる。			△	
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。			○	
	技能	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に、興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	20	50	-	70
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) 1年次に購入したものを使用します。					
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	木管楽器応用実習 管体割れ、音孔修正他 [準備・課題]管体割れ修正の復習(3h)					
2	木管楽器応用実習 フルートメカニズム他 [準備・課題]フルートメカニズムの風習(3h)					
3	木管楽器応用実習 ハーモニークラリネット他 [準備・課題]ハーモニークラリネットの復習(3h)					
4	木管楽器応用実習 ピッコロ、フルート(リングキイ)他 [準備・課題]ピッコロの復習(3h)					
5	木管楽器総合実習 各社メーカーによるメカニズム等の違い他 [準備・課題]各社メーカーの復習(3h)					
6	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
7	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
8	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
9	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
10	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
11	木管楽器総合実習 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
12	木管楽器総合実習 学校備品等、現在使用品のリペア対応力強化 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
13	木管楽器総合実習 学校備品等、現在使用品のリペア対応力強化 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
14	木管楽器総合実習 学校備品等、現在使用品のリペア対応力強化 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
15	木管楽器総合実習 学校備品等、現在使用品のリペア対応力強化 学内認定取得に向けて、規定時間内に作業を終了し、完了品の状態が合格レベルに達するようにする。 [準備・課題]全体修理の時間短縮及び、苦手な修理の復習(3h)					
時間外での学修	苦手なリペア(楽器ごと)を無くし、確実な対応力を身につけてください。多くの技術者の異なる手法を身につけることで、到達点へのプロセスの違い理解し、自分のスタイルを確立してください。					
受講学生へのメッセージ	リペア技術以外にセールスエンジニアとして必要なマナー、知識等を身につけ人間性を向上させてください。オフィスアワーは毎週火曜日授業終了後F101教室で行います。					

【MS】リペア応用(金管Ⅰ)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	木村 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	楽器店修理販売職・10年						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度なりペア技能を身につけ、作業時間短縮に向けて、効率の良い作業法を考える。 また、卒業後を見据えたより実践的なりペア技能の習得、金管楽器全般についての知識向上を図る。						
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなど入れながら、より専門性の高い金管楽器についての知識、リペア技能が身につく授業にしています。 また、各社メーカー比較などを取り入れ、セールスエンジニアに必要な知識なども身につけます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、的確なりペア技能対応ができる。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。			○		
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持って、自らが率先して学修する。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方 [準備・課題]1年次に学んだ内容の復習 (1h)						
2	ハンダ付け応用実習 [準備・課題]ハンダ付けの復習 (3h)						
3	トランペット応用実習 ビストン、抜き差し管調整 [準備・課題]ビストン、抜き差し管調整の復習 (3h)						
4	トランペット応用実習 ベル、ベル胴等ヘコミ修正 [準備・課題]凹み修正方法の復習 (3h)						
5	トランペット応用実習 マウスピースシャンク修正他 [準備・課題]各部修正方法の復習 (3h)						
6	トランペット応用実習 全体調整 [準備・課題]全体的な修理の復習 (3h~5h)						
7	ホルン応用実習 ロータリー調整、ロータリー糸(紐)交換 [準備・課題]ロータリー調整、ロータリー紐交換の復習 (3h)						
8	ホルン応用実習 レバー曲がり修正、レバー位置 [準備・課題]各部修正方法の復習 (3h)						
9	ホルン応用実習 ヘコミ修正他 [準備・課題]凹み修正方法の復習 (3h)						
10	ホルン応用実習 学内認定プレ試験 [準備・課題]時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h)						
11	トロンボーン応用実習 スライド調整 [準備・課題]スライド調整の復習 (3h)						
12	トロンボーン応用実習 全体調整 [準備・課題]全体的な修理の復習 (3h~5h)						
13	金管楽器応用実習 ブッシュ使用品の縦ガタ修正他 ヤマハグレード受験希望者に対して学内プレ試験 [準備・課題]時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h)						
14	各社メーカー別調整修理 [準備・課題]各社メーカー別調整の復習 (3h)						
15	金管楽器応用実習 ロー付け他 [準備・課題]ロー付け方法の復習 (3h)						
時間外での学修	技術の反復実習により、確実にリペア技能を身につける。 各社カタログ等をしっかり読み、商品知識を身につけ、楽器店訪問する事で、各店のディスプレイの仕方、接客姿勢、商品の種類等を理解し楽器店実習の準備に取りかかる。						
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据え、今やるべきことを理解し、更なるリペア技能向上を目指してください。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後にF101教室で行います。						

【MA】リペア応用(金管I)B		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	木村 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	楽器店修理販売職・10年						
授業内容	前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なりペア技能を身につけ、作業時間短縮に向けて効率の良い作業法を考える。また、卒業後を見据えたより実践的な技能の習得、金管楽器全般知識の習得。 *学内認定試験を随時行います。 ヤマハ(株)管楽器リペア技術評価試験受験者は合格を目指します。						
授業方法	実技中心とし、各自が不得意としている内容を克服するように反復練習の時間を増加します。インターン実習の機会を設け、より多くの現場を観てもらいます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し的確なりペア技能ができる。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。			○		
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決できる。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	金管楽器応用実習 ピストン固着、調整 抜き差し管固着他 [準備・課題] 固着修正方法の復習 (3h)						
2	金管楽器応用実習 ピストン曲がり修正他 [準備・課題] ピストン曲がり修正の復習 (3h)						
3	金管楽器応用実習 スライド調整他 [準備・課題] スライド調整の復習 (3h)						
4	金管楽器応用実習 ローター調整他 [準備・課題] ローター調整の復習 (3h)						
5	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
6	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
7	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
8	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
9	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
10	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
11	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
12	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
13	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
14	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
15	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 時間短縮及び苦手な修理の復習 (3h~5h)						
時間外での学修	苦手なりペア技能を無くし確実に身につけてください。多くの技術者の手法を理解することで、到達点へのプロセスの違いを見出し、自分の技術スタイルを確立してください。						
受講学生へのメッセージ	リペア技能以外に、セールスエンジニアとして必要なマナーを身につけ人間性を向上させてください。オフィスアワーは毎週火曜日授業終了後F101教室で行います。						

【MS】リペア応用(金管Ⅱ)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	メーカー修理職・34年						
授業内容	1年次で学修した基礎技術を発展させ、より高度なりペア技能を身につけ、作業時間短縮の為に効率の良い作業法を考える。 また、卒業後を見据えたより実践的なりペア技能の習得。金管楽器全般知識の習得。						
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなど入れながら、より専門的な金管楽器の知識、リペア技能が身につく授業にします。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し的確な修理、調整ができる。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断する。			○		
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修する事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席の学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方 [準備・課題]1年次時の復習になるが、しっかり学んだ内容の復習 (1h)						
2	ハンダ付け応用実習 [準備・課題]1年次時の復習になるが、しっかり学んだ内容の復習 (1h)						
3	トランペット応用実習 ビストン横押し修正、抜き差し管固着修正他 [準備・課題]症状よっての対応を考える授業であり、学んだ内容の復習 (3h)						
4	トランペット応用実習 ベルフレア部、ベル胴部へコミ修正他 [準備・課題]作業で手直しが効かない事を十分に理解し、作業の復習を行う (3h)						
5	トランペット応用実習 ネジ部修正他 [準備・課題]作業で手直しが効かない事を十分に理解し、作業の復習を行う (3h)						
6	トランペット応用実習 学内プレ試験 [準備・課題]受験するに当たってチェックポイントを十分に理解しその復習をする (3h)						
7	ホルン応用実習 ロータリー調整、ロータリー糸(紐)交換、ベアリングスタイル調整 [準備・課題]効率化をよく考えて学んだ内容の復習 (3h)						
8	ホルン応用実習 ロータリー調整、ロータリー糸(紐)交換、ベアリングスタイル調整 [準備・課題]効率化をよく考えて学んだ内容の復習 (3h)						
9	ホルン応用実習 学内プレ試験 [準備・課題]受験するに当たってチェックポイントを十分に理解し内容の復習 (3h)						
10	トロンボーン応用実習 スライド調整 [準備・課題]1年次時に学んだ内容を復習 (3h)						
11	トロンボーン応用実習 スライド調整 [準備・課題]楽器の特性を十分に理解し学んだ内容の復習 (3h)						
12	トロンボーン応用実習 学内プレ試験 [準備・課題]受験するためのチェックポイントを理解し、学んだ内容の復習 (3h)						
13	金管楽器応用実習 ヤマハグレード取得希望者については学内プレ試験 [準備・課題]受験するためのチェックポイントを理解し、学んだ内容の復習 (3h) 苦手意識を持っているのはどこなのかを理解し、改善に向けて作業を復習する。						
14	各社メーカー別調整修理 [準備・課題]仕様の違い等で沢山の種類がある事を理解し、学んだ内容の復習 (3h)						
15	金管楽器応用実習 支柱ハンダ付け、ロー付け他 [準備・課題]作業で手直しが効かない事を十分に理解し、作業の復習を行う (3h)						
時間外での学修	技術の反復実習により確実に身につける。 各社カタログ等をしっかり読み、商品知識を身につけ、楽器店訪問する事で各店のディスプレイの仕方や接客姿勢、商品の種類等を理解し、楽器店実習の準備にとりかかる。						
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべきことを理解して、更なるリペア技能向上を目指して下さい。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後F101教室で行います。						

【MA】リペア応用(金管Ⅱ)B		音楽総合学科		2年後期		
		2単位	必修	実技	90時間	
教員	渡辺 博夫					
資格・制限等	Rコース必修					
実務家教員	メーカー修理職・34年					
授業内容	前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なりペア技術力を付け、作業時間短縮に向け効率の良い作業法を考える。 また、卒業後を見据えたより実践的なりペア技能の習得 金管楽器全般の知識習得 *学内認定試験を随時行います ヤマハ(株)管楽器リペア評価試験受験者は合格を目指します。					
授業方法	実技中心とし、各自が不得意としている内容を克服するよう、反復練習の時間を増加します。 インターン実習の機会を設け、より多くの現場を観てもらいます。					
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し的確な修理、調整ができる。			△	
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断する。			○	
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修する。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	20	50	-	70
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ1年次に購入したものを使用します。					
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	金管楽器応用実習 ピストン固着修正、抜き差し管固着修正他 [準備・課題] 固着の原因を解明し、どう修復するのがベストなのか内容の復習(3h)					
2	金管楽器応用実習 ピストン固着修正、ピストン曲がり修正、抜き差し管固着修正他 [準備・課題] 固着の原因を解明し、どう修復するのがベストなのか内容の復習(3h)					
3	金管楽器応用実習 トランペット、ホルン、トロンボーン以外の金管楽器 [準備・課題] 金管楽器として分類されている管楽器はどのくらい存在するのかの復習(3h)					
4	金管楽器応用実習 トランペット、ホルン、トロンボーン以外の金管楽器 [準備・課題] 金管楽器として分類されている管楽器はどのくらい存在するのかの復習(3h)					
5	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 受験するに対してチェックポイントの確認内容の復習(3h~5h)					
6	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 自己の結果をみて、どう克服するのかの復習(3h~5h)					
7	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 自己の結果をみて、どう克服するのかの復習(3h~5h)					
8	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 自己の結果をみて、どう克服するのかの復習(3h~5h)					
9	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。 [準備・課題] 学んだ内容の復習(3h~5h)					
10	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。 [準備・課題] 楽器診断正確さの復習(3h~5h)					
11	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。 [準備・課題] 自己の持つ技術で対応可否の見極めがしっかり出来るかの復習(3h~5h)					
12	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。 [準備・課題] 自己の持つ技術で対応可否の見極めがしっかり出来るかの復習(3h~5h)					
13	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 苦手意識の克服するにはどうしたら良いのか復習する(3h~5h)					
14	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 苦手意識の克服するにはどうしたら良いのか復習する(3h~5h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。 [準備・課題] 苦手意識の克服するにはどうしたら良いのか復習する (3h~5h)
時間外での学修	苦手意識を克服し、確実に身につける。 多くの技術者の手法を理解することで、到達点へのプロセスの違いを見出し、自分のリペア技能スタイルを確立させて下さい。
受講学生へのメッセージ	技術以外にセールスエンジニアとして必要なマナーを身につけ人間性を向上させて下さい。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後F101教室で行います。

【MA】打楽器リペア演習		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	メーカー修理職・34年						
授業内容	打楽器類より、主にティンパニーを取り上げ、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技術や知識を学修し、膜楽器、音板打楽器類の起こりやすいトラブルに対処できるリペア技能を学習します。安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学習し、リペア技術に必要な基本動作、取扱い法を身につけ、基礎的な知識やリペア技能の習得を目指す。正確性、効率性、商品知識等の現場で必要とする内容も学修します。						
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、小テスト、演奏法等を入れながら、打楽器の基礎的な知識や技能が身につく様、授業を進めていきます。						
到達目標	知識・理解	各楽器の仕組みや構造を理解し、基本的な楽器の状態を把握する事ができる。			△		
	思考・判断・表現	各楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断する。			○		
	技能	各楽器の状態把握後、リペア箇所を自らのリペア技能で問題解決する。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修する事が出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15,120円)1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	打楽器概論 [準備・課題]打楽器類概論で学んだ内容の復習 (1h)						
2	ティンパニーの形態と構造、演奏方法 [準備・課題]ティンパニーの形態や演奏法を学んだ内容の復習 (1h)						
3	ティンパニー基礎実習① 分解構造理解 [準備・課題]ティンパニー構造や分解手順等、学んだ内容の復習 (3h~5h)						
4	ティンパニー基礎実習② 分解構造理解 [準備・課題]ティンパニー構造や分解手順等、学んだ内容の復習 (3h~5h)						
5	ティンパニー基礎実習③ 分解構造理解 [準備・課題]ヘッド交換時における諸注意等、学んだ内容の復習 (3h~5h)						
6	ティンパニー基礎実習④ バランステンションロッド、テンションロッド調整他 [準備・課題]ベース部の分解でパーツ名称も含み、学んだ内容の復習 (3h~5h)						
7	ティンパニー基礎実習④ バランステンションロッド、テンションロッド調整他 [準備・課題]ベース部の分解でパーツ名称も含み、学んだ内容の復習 (3h~5h)						
8	ティンパニー基礎実習④ バランステンションロッド、テンションロッド調整、チューニング [準備・課題]テンションロッド高さ調整を理解し組み立てに進むが、学んだ内容の復習 (3h~5h)						
9	ティンパニー基礎実習④ バランステンションロッド、テンションロッド調整、チューニング [準備・課題]テンションロッド高さ調整を理解し組み立てに進むが、学んだ内容の復習 (3h~5h)						
10	膜楽器の形態と構造、分解調整他① [準備・課題]コンサートバスドラム、マーチングバスドラムの構造や演奏法等、学んだ内容の復習 (2h)						
11	膜楽器の形態と構造、分解調整他① [準備・課題]コンサートスネアドラム、マーチングスネア等、学んだ内容の復習 (2h)						
12	音板打楽器の形態と構造、よくあるトラブル対処法① [準備・課題]コンサートマリンバで学んだ内容の復習 (2h)						
13	音板打楽器の形態と構造、よくあるトラブル対処法② [準備・課題]コンサートシロフォンで学んだ内容の復習 (2h)						
14	ヴィブラフォン、チャイムの形態と構造、演奏方法とトラブル対処法 [準備・課題]ヴィブラフォン、チャイムの形態や構造で学んだ内容の復習 (2h)						
15	打楽器総合基礎演習 [準備・課題]打楽器全般での復習 (3h~5h)						
時間外での学修	ティンパニーの作業については、教員立会いを原則とします。(怪我防止の観点から)各社カタログ等をしっかり読み、構造の違いやセールスポイントをしっかりと理解して下さい。						
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につければ、学校訪問等の作業も順調に進む事をよく考えて授業に臨んで下さい。オフィスアワーは毎週金曜日授業終了後にB107実習室で行います。						

【MS】奏法研究 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者(含 高等学校教員)・31年						
授業内容	楽曲を深く理解し高度な演奏に仕上げていく上で必要な方法論を身につけます。 世の中に溢れている様々なスタイルの音楽に対し柔軟に対応していけるように知識や技術を身につけます。 自分の考え方や音楽性をどのように演奏に結びつけるか実際に演奏を通して研究します。						
授業方法	講義、ディスカッション、個人レッスン、グループレッスン、レッスン聴講、など多彩な活動を通して研鑽します						
到達目標	知識・理解	その音楽が要求する内容を楽譜から読み取ることが出来る。			◎		
	思考・判断・表現	読み取った内容を演奏に活かすことが出来る。			◎		
	技能	思い通りの演奏が出来る。			◎		
	関心・意欲・態度	演奏を聴いてその内容を深く探求することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験		30	20	-	-	50
	レポート提出		-	10	-	-	10
	演奏課題		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	随時プリント配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等 [準備・課題] 本時学習内容の復習(1~2h)						
2	音楽の音とその由来【12個の音(音階の仕組み)】 [準備・課題] 本時学習内容(音階の構成および正確なイントネーション)の復習(1~2h)						
3	音と音の繋がり(1)【点と線(対位法的処理について)】 [準備・課題] 本時学習内容(連続的な音の処理方法)の復習(1~2h)						
4	音と音の繋がり(2)【線の行方(歌うということ)】 [準備・課題] 本時学習内容(有機的なダイナミックおよびアゴーギグ)の復習(1~2h)						
5	和声の力(1)【ハモる】 [準備・課題] 本時学習内容(和声観および正確な音程観)の復習(1~2h)						
6	和声の力(2)【機能と声について】 [準備・課題] 本時学習内容(ドミナント-トニックのダイナミズム)の復習(1~2h)						
7	和声の力(3)【非和声音と呼ばれる音達】 [準備・課題] 本時学習内容(各種非和声音の実践)の復習(1~2h)						
8	転調【どこでも転調】 [準備・課題] 本時学習内容(転調における属7、減7などの和音)の復習(1~2h)						
9	テンションコード【複雑な和声】 [準備・課題] 本時学習内容(9th, 11th, 13thの実践)の復習(1~2h)						
10	リズムの力【拍子とリズム】 [準備・課題] 本時学習内容(反復とそのパターンおよびグループ)の復習(1~2h)						
11	音符の付属品(1)【音符に直接付いている小さな印】 [準備・課題] 本時学習内容(アーテュレーション)の復習(1~2h)						
12	音符の付属品(2)【音符の近くにある小さな印】 [準備・課題] 本時学習内容(ダイナミックや速度変化など)の復習(1~2h)						
13	楽譜の付属品(1)【楽譜に書かれている様々な指示】 [準備・課題] 本時学習内容(発想標語や演奏指示)の復習(1~2h)						
14	楽譜の付属品(2)【楽譜に書くまでもない重要な事】 [準備・課題] 本時学習内容(楽譜という記号からその意味を見いだすこと)の復習(1~2h)						
15	前期まとめ 試験対策 [準備・課題] 本時学習内容(1回から14回までの内容全て)の復習(1~2h)						
時間外での学修	机上の理論だけでなく実際の楽器演奏も必須ですから授業時間外で楽器の練習や修練が必要です。 気を抜かず取り組んでください。						
受講学生へのメッセージ	日ごろから偏向することなく様々な音楽を聴き感じ考える習慣を身につけ、感じ考えたことを演奏に活かすためにどのような技術を身につけると良いか模索し続けましょう。そのことが音楽への深い理解を養い自分自身の演奏向上に役に立ちます。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MA】奏法研究Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者(含 高等学校教員)・31年						
授業内容	楽曲を深く理解し高度な演奏に仕上げていく上で必要な方法論を身につけます。 世の中に溢れている様々なスタイルの音楽に対し柔軟に対応していけるように知識や技術を身につけます。 自分の考え方や音楽性をどのように演奏に結びつけるか実際に演奏を通して研究します。						
授業方法	講義、ディスカッション、個人レッスン、グループレッスン、レッスン聴講、など多彩な活動を通して研鑽します						
到達目標	知識・理解	その音楽が要求する内容を楽譜から読み取ることが出来る。			◎		
	思考・判断・表現	読み取った内容を演奏に活かすことが出来る。			◎		
	技能	思い通りの演奏が出来る。			◎		
	関心・意欲・態度	演奏を聴いてその内容を深く探求することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		30	20	-	-	50
	レポート提出		-	10	-	-	10
	演奏課題		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
合計(点)		30	30	30	10	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	随時プリント配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンスおよび前期の復習・総括 [準備・課題]本時学習内容の復習(1~2h)						
2	音楽の構造(復習)【形式・様式】 [準備・課題]本時学習内容(楽曲の形式・様式)の復習(1~2h)						
3	グルーピングという考え方【文章の成り立ちとの比較】 [準備・課題]本時学習内容(演奏解釈法の基本)の復習(1~2h)						
4	フレーズ解釈(1)【フレーズのピーク(重心)】 [準備・課題]本時学習内容(演奏解釈法の実践)の復習(1~2h)						
5	フレーズ解釈(2)【フレーズ解析の定石(バウンド・加速と減速)】 [準備・課題]本時学習内容(演奏解釈法の応用)の復習(1~2h)						
6	フレーズ解釈(3)【非和声音(刺繍音・掛留音、倚音、逸音、経過音、先取音、保続音)】 [準備・課題]本時学習内容(和声解釈からの演奏法応用)の復習(1~2h)						
7	アゴーギグ(1)【正確さと錯覚】 [準備・課題]本時学習内容(アゴーギグの基礎)の復習(1~2h)						
8	アゴーギグ(2)【揺れる必然】 [準備・課題]本時学習内容(アゴーギグの応用)の復習(1~2h)						
9	コントラスト【重要な対比】 [準備・課題]本時学習内容(対比演奏法)の復習(1~2h)						
10	楽譜に書けない指示【作曲家の想い】 [準備・課題]本時学習内容(全体を通して見えてくる楽曲の解釈)の復習(1~2h)						
11	音楽の多様性(1)【現代におけるスタイルの多様性】 [準備・課題]本時学習内容(特殊な記譜法・奏法について)の復習(1~2h)						
12	音楽の多様性(2)【正確さと不正確さの狭間】 [準備・課題]本時学習内容(機械的な正確さと人間的な曖昧さの演奏法)の復習(1~2h)						
13	音楽は流れる【動き続ける音楽】 [準備・課題]本時学習内容(生き生きと進んでいく音楽の為の演奏法)の復習(1~2h)						
14	良い演奏とは?【何が伝わるのか】 [準備・課題]本時学習内容(作曲者の意図とそれを具現化する演奏者の意図)の復習(1~2h)						
15	後期まとめ 試験対策 [準備・課題]本時学習内容(第1回~第14回までのおさらい)の復習確認(1~2h)						
時間外での学修	机上の理論だけでなく実際の楽器演奏も必須ですから授業時間外で楽器の練習や修練が必要です。 気を抜かず取り組んでください。						
受講学生へのメッセージ	日ごろから偏向することなく様々な音楽を聴き感じ考える習慣を身につけ、感じ考えたことを演奏に活かすためにどのような技術を身につけると良いか模索し続けましょう。そのことが音楽への深い理解を養い自分自身の演奏向上に役に立ちます。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】楽器奏法Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	佐溝 佳奈						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員							
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用する代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を習得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。						
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△		
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△		
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。			◎		
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験	-	-	60	-	60	
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20	
	受講態度	-	-	-	20	20	
	合計(点)	10	10	60	20	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
2	楽器1レッスン1:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
3	楽器1レッスン2:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
4	楽器1レッスン3:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
5	楽器1レッスン4:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
6	楽器2レッスン1:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
7	楽器2レッスン2:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
8	楽器2レッスン3:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
9	楽器2レッスン4:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の復習(1～2h)						
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。						
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MA】楽器奏法Ⅳ		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	佐溝 佳奈					
資格・制限等	Rコース必修					
実務家教員						
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△	
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△	
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、基本奏法の他に簡単な楽曲の演奏ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器の扱い方、初歩の演奏指導ができ、初級者への楽曲の指導ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	楽器レッスン1レッスン1：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
2	楽器レッスン1レッスン2：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
3	楽器レッスン1レッスン3：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]課題曲の練習(1～2h)					
4	楽器レッスン1レッスン4：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]次回レッスン楽器の練習(1～2h)					
5	楽器レッスン2レッスン1：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
6	楽器レッスン2レッスン2：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
7	楽器レッスン2レッスン3：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]課題曲の練習(1～2h)					
8	楽器レッスン2レッスン4：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]次回レッスン楽器の練習(1～2h)					
9	楽器レッスン3レッスン1：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
10	楽器レッスン3レッスン2：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
11	楽器レッスン3レッスン3：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]課題曲の練習(1～2h)					
12	楽器レッスン3レッスン4：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]次回レッスン楽器の練習(1～2h)					
13	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
14	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
15	不得意楽器のレッスン3 学期末実技試験対策 [準備・課題]レッスン楽器の練習(1～2h)					
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。					
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【MS】楽器別演習Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基						
資格・制限等	W・Rコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	各専攻楽器の基礎力、演奏技術、表現力向上のためのレッスン及び、該当パートのレッスンを行います。状況により、ウインドアンサンブルの授業と連携します。						
授業方法	個人及びパートの進捗状況に応じてレッスンを行う。						
到達目標	知識・理解	楽器の情報について理解している。各専攻楽器の奏法上の知識を得ている。			△		
	思考・判断・表現	楽譜から得られる情報をもとに、自身の思いを演奏に表現することができる。パート内で他の奏者と精密に合わせることができる。			△		
	技能	各専攻楽器の演奏に必要とされる音域が演奏でき、精密な指回しが修得されている。			◎		
	関心・意欲・態度	演奏曲について、自身で積極的に調べたり、指導者へ自発的な質問ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、スケジュール確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習 (1~2h)						
2	基礎の確認 個々の奏法チェック、スケール、チューニング [準備・課題]配布課題に沿って演習及び個々の奏法のチェックをする。(1~2h)						
3	基礎の確認 個々の奏法チェック、スケール、チューニング [準備・課題]配布課題に沿って演習及び半音階をマスターする。(1~2h)						
4	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び正しいチューニングの方法をマスターする。(1~2h)						
5	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び長音階スケールを全調できるようにする。(1~2h)						
6	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及びユニゾンの合わせ方をマスターする。(1~2h)						
7	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び12/8拍子での音階(長音階)を全調できるようにする。(1~2h)						
8	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び16分音符での音階(長音階)を全調できるようにする。(1~2h)						
9	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び3度の音程感覚を身につける。(1~2h)						
10	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び4度の音程感覚を身につける。(1~2h)						
11	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び5度の音程感覚を身につける。(1~2h)						
12	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び長調のアルペジオをマスターする。(1~2h)						
13	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び3度、4度、5度、6度の響きをマスターする。(1~2h)						
14	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び長三和音と属七の和音をマスターする。(1~2h)						
15	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]前期のまとめ・総復習を行う(1~2h)						
時間外での学修	レッスンで学んだことを各自で確立させるために必要に応じて、個人練習を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	個人の奏法に余裕が持てることは合奏でも余裕が生まれ、良いアンサンブルを生み出すことができます。日頃より、基礎練習等を積み上げておきましょう。オフィスアワーは授業終了後教室にて。						

【MA】楽器別演習Ⅳ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基						
資格・制限等	W・Rコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	各専攻楽器の基礎力、演奏技術、表現力向上のためのレッスン及び、該当パートのレッスンを行います。状況により、ウインドアンサンブルの授業と連携します。						
授業方法	個人及びパートの進捗状況に応じてレッスンを行う。						
到達目標	知識・理解	楽器の情報について理解している。各専攻楽器の奏法上の知識を得ている。			△		
	思考・判断・表現	楽譜から得られる情報をもとに、自身の思いを演奏に表現することができる。パート内で他の奏者と精密に合わせることができる。			△		
	技能	各専攻楽器の演奏に必要とされる音域が演奏でき、精密な指回しが修得されている。			◎		
	関心・意欲・態度	演奏曲について、自身で積極的に調べたり、指導者へ自発的な質問ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験	-	-	60	-	60	
	受講態度	-	-	-	20	20	
	小テスト	10	10	-	-	20	
	合計(点)	10	10	60	20	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び短音階スケールを練習する。(1~2h)						
2	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び短音階スケールを全調できるようにする。(1~2h)						
3	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び12/8拍子での音階(短音階)を全調できるようにする(1~2h)						
4	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び16分音符での音階(短音階)を全調できるようにする。(1~2h)						
5	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び3度(短調)の音程感覚を身につける。(1~2h)						
6	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び短調のアルペジオをマスターする。(1~2h)						
7	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及び短三和音と減七の和音をマスターする。(1~2h)						
8	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及びフレーズについて研究する。(1~2h)						
9	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]配布課題に沿って演習及びアゴギグについて理解する。(1~2h)						
10	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]定期演奏会の曲について状況によりレッスンを行う(1~2h)						
11	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]定期演奏会の曲について状況によりレッスンを行う(1~2h)						
12	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]定期演奏会の曲について状況によりレッスンを行う(1~2h)						
13	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]定期演奏会の曲について状況によりレッスンを行う(1~2h)						
14	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]定期演奏会の曲について状況によりレッスンを行う(1~2h)						
15	演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題]定期演奏会の曲について状況によりレッスンを行う(1~2h)						
時間外での学修	レッスンで学んだことを各自で確立させるために必要に応じて、個人練習を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	個人の奏法に余裕が持てることは合奏でも余裕が生まれ、良いアンサンブルを生み出すことができます。日頃より、基礎練習等を積み上げておきましょう。オフィスアワーは授業終了後教室にて。						

【MS】楽器業界ビジネス I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業内容	楽器業界で即戦力として通用する幅広い知識を修得します。楽器業界の過去から現在を知り将来を展望します。温故知新は重要なテーマです。楽器業界の製・配・販（製造業、卸業、小売業）の流通の仕組みを学び、又、業務を遂行する上での必要な関連知識（中古楽器販売、楽譜出版、著作権）について学びます。楽器店に就職すると担当する可能性の高い「学校販売業務（学販）」「店頭販売業務」の実際について学びます。楽器業界人の基本は豊かな感性と人間性及びコミュニケーション能力です。それらを実例から学びます。						
授業方法	講義形式で行います。						
到達目標	知識・理解	楽器業界で即戦力として通用する幅広く豊富な知識を理解できる。楽器業界の流通、関連業務、小売業の業態を知ることが出来、卒業後の就職に生かせる。			◎		
	思考・判断・表現	ブレインゲセールスエンジニアとしての優れた感受性と判断力、表現力を持っている。			△		
	関心・意欲・態度	学校教育や吹奏楽活動の現状に関心を持ち、学校から信頼される人間性豊かな人材を目指す。営業やリペアを実施する際、意欲的にお客様と良好な関係を築くことが出来る。コミュニケーションを築こうとする意欲がある。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		80	5	-	5	90
	レポート		3	4	-	3	10
	合計(点)		83	9	-	8	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『楽器研究 I・II』で使用した『管・打楽器価格一覧表』、『楽器別カタログ』を使用します。楽器研究 I を受講していない学生は購入が必要です。申し出てください。売店での購入になります。『楽器別カタログ』は配布します。						
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業のガイダンス、「管打楽器業界の歴史」 [準備・課題] 学習内容を復習し、年間の授業の内容と流れを確認すること。(2h)						
2	製造業(1) 楽器の歴史と楽器製造業の歴史。楽器製造業の業態 [準備・課題] 学習内容を復習。管打楽器価格一覧表で国内外のメーカーを確認しておくこと(3h)						
3	製造業(2) 楽器メーカーの業務及び楽器製造の方向性。国内外のスクールバンドで売れているメーカー [準備・課題] 学習内容の復習。国内外の楽器メーカーを覚えること(3h)						
4	卸業 卸業の業態、業務内容(6つの機能) 日本の主要楽器関連卸商社研究 [準備・課題] 学習内容の復習。日本の主要楽器関連卸商社一覧表を作成する(提出課題)(10h)						
5	小売業(1) 小売業の業態(楽器小売商としての楽器店の業態) 人間中心型小売店とは [準備・課題] 学習内容の復習。楽器店から楽器業界の第一線としての業務を学ぶ。機会を見つけ楽器店を訪問する。(3h)						
6	小売業(2) 楽器店業務”伸びる楽器専門店とは” 店頭(店舗)業務、コンプライアンスについて [準備・課題] 学習内容の復習。楽器店で活躍する自分の姿をイメージすること(3h)						
7	中古楽器販売 古物営業法と古物商、中古楽器の査定項目 [準備・課題] 学習内容の復習。中古楽器販売の現状を楽器店、インターネット等で確認すること(4h)						
8	音楽著作権(1) 音楽著作権とは。音楽著作権法、著作隣接権、二次的著作物 [準備・課題] 学習内容の復習。音楽業界では必須の知識である。研究を深めること(3h)						
9	音楽著作権(2) 著作権の保護、JASRACの業務と著作物使用許可申請 [準備・課題] 学習内容の復習。コンサート企画案を作成し、使用許可申請書を作成する(6h)						
10	楽譜出版業と楽譜の知識(楽譜出版業の業態。管打楽器関連楽譜、楽譜関連の知識、コンサートプログラミング) [準備・課題] 学習内容の復習。高校吹奏楽定期演奏会のプログラミングをする(5h)						
11	学校販売(1) 学校販売(学販)の業態及びその意義と本質 [準備・課題] 学習内容の復習。小・中・高校で吹奏楽を経験した人は学販担当者の存在と仕事を思い出し確認しておくこと。(3h)						
12	学校販売(2) 学校及び関連組織 [準備・課題] 学習内容の復習。小・中学校の年間行事、活動について自身の体験をまとめておくこと(3h)						
13	学校販売(3) 学校の年間活動と営業の実際。①教育楽器 [準備・課題] 学習内容の復習。学校の年間活動と学販との関連の理解を深める事。(3h)						
14	学校販売(4) 学販営業の実際。②管打楽器 [準備・課題] 学習内容の復習。学販における普及業務の重要性を確認すること(3h)						
15	前期のまとめ及び夏期休暇課題提示 「中学校における吹奏楽活動の活性化を考える」 [準備・課題] 課題の意図を十分に理解すること。これまで学んだことを復習しまとめを行う事。(10h)						
時間外での学修	可能な限り現場を見てください。(楽器メーカー、楽器フェア、各種コンサート、各種講習会、コンクール等を楽器業界を学ぶ姿勢で観察しましょう。楽器店以外の店舗からも多くを学べます。管打楽器関連専門誌、楽器関連業界誌、インターネット等で最新情報を学び、自分だけの資料として記録しましょう。”将来に必ず活かされます”。						
受講学生へのメッセージ	楽器演奏及び指導力を持ったブレインゲ・セールス・エンジニアに興味を持ってください。この能力は楽器業界で仕事をする上で大きな力になります。復習は必ず行ってください。 オフィスアワー：質問等は授業前後に教室で対応します。						

【MA】楽器業界ビジネスⅡ		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	木下 紘治郎					
資格・制限等	Rコース必修					
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年					
授業内容	<p>これまでに学んだ知識を生かす「営業力」を学びます。お客様への提案、説得には営業技術とともに人間としての優秀さ及びコミュニケーション能力が重要です。次の3つの課題から修得します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 営業の基本 2. ロールプレイング 3. グループ学修活動「楽器店における管楽器フェア企画及びプレゼンテーション」をこれまでの授業のまとめとして行う。 					
授業方法	講義形式及びグループ学修活動(6~7名のグループ)で行います。					
到達目標	知識・理解	一般的な営業活動の基礎的な知識を修得し、楽器業界を幅広く知り、そこで働く仕事を予測、想像できる。(シュミレーションができる)			◎	
	思考・判断・表現	ブレイングセールスエンジニアとしての臨機応変な思考、判断力、感受性及び表現力を有する。			○	
	関心・意欲・態度	新情報収集(業界、学校、音楽活動)に敏感である。会社、学校現場から信頼される人間性を身につける努力ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	5	-	5	70
	グループ活動	5	5	-	5	15
	レポート	5	5	-	5	15
	合計(点)	70	15	-	15	100
評価の特記事項	グループ活動は個々の参画意識が重要です。責任を持って授業に出席してください。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	楽器研究Ⅰ、Ⅱで使用した、管打楽器価格一覧表、楽器別カタログを使用します。					
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	営業の基本(1) 会社から信頼される営業担当者について具体的に学び理想的な担当者像を理解する [準備・課題]学習内容の復習(4h)					
2	営業の基本(2) 社会人としての基本姿勢 「学生と社会人の違い」「会社組織とは」 [準備・課題]学習内容の復習。社会人となった時に生かせるよう「今の自分を考える」(4h)					
3	営業の基本(3) 基本的営業マナー 小売店等での営業の実際のシュミレーションができる [準備・課題]学習内容の復習。様々な営業現場で学ぶこと。観察力を高める(4h)					
4	営業の基本(4) 電話対応、名刺交換、メモの重要性 コミュニケーション能力を高める基本を理解する [準備・課題]学習内容の復習。今のうちに身につける課題として取り組むこと。自分の専門楽器のカタログを熟読しておくこと。(4h)					
5	営業の基本(5) 接客の基本①知識と営業活動の実際を知り、実践力の基本としてロープレを行う。併せてこれまで学んだ知識を確認する [準備・課題]学習内容の復習。ロープレ課題(管楽器店頭販売のストーリーを作成する)、カタログの熟読、楽器準備(8h)					
6	営業の基本(6) 接客の基本②ロープレ実習 知識を実践に生かす基本を学ぶ [準備・課題]学習内容の復習。今後も機会を見つけ学生同士でロープレをすること(2h)					
7	企画(1) 企画とは…販売促進企画① 営業効果を上げるための工夫を学ぶ [準備・課題]学習内容の確認。様々な業種の興味深いと感じたチラシを収集すること(4h)					
8	企画(2) 販促企画② 4つのプロモーションについて。宣材物について…チラシ、POP、DMの研究と催事動員について [準備・課題]学習内容の復習。様々な店舗を観察し、学ぶ習慣をつけること(4h)					
9	企画(3) 楽器店における”春の管楽器フェア”について グループで活動する(グループ分けする) ※討議内容の提示 [準備・課題]学習内容の復習。春の管楽器フェアの概要を十分に理解する事(4h)					
10	企画(4) グループ討議①(催事概要についての討議:5W3Hで考える) [準備・課題]学習内容の復習。グループで討議された内容の確認と、次回への取り組み、まとめ。個人企画書を作成する(5h)					
11	企画(5) グループ討議②(催事の具体的な内容決定、企画書作成)実施日時、会場、対象、展示規模、会場レイアウト、動員、イベント、宣材物、POP、DMなどの内容決定 [準備・課題]学習内容の復習。具体的な内容を確認し、メンバー個々の役割分担を明確にする。(4h)					
12	企画(6) グループ討議③(企画書提出、資料作成)会場レイアウト、催事会場等、宣材物作成の作業をする。 [準備・課題]授業内では時間が不足する。作業役割を決め時間外でも対応すること。(6h)					
13	企画(7) 最終まとめ及び発表(プレゼンテーション) グループ発表①(質疑応答と評価) [準備・課題]学習内容の復習。他グループ発表、自グループ評価を 検証する事。自分の夏期課題を読み、次週持参すること(3h)					
14	企画(8) グループ発表②(企画プレゼンテーション)(質疑応答と評価) 普及業務について「夏期課題」中学校における吹奏楽活動を考える」のまとめを行う [準備・課題]学習内容の復習。他グループ発表、自グループ評価を 検証する事。普及業務の重要性に気づき、さらに考える事(2h)					
15	「これまでの授業について」のまとめ プレイング・セールス・エンジニアとしての能力を確認する。これからの仕事への取り組み及び生き方の目標について [準備・課題]楽器研究、楽器業界ビジネスで学んだことを確認すること。知識を生かせる知恵を身につけること。(10h)					

時間外での学修	グループ企画の参考としてチラシを収集してください。(楽器業界、コンサート、他業界のユニークで説得力のあるチラシを集め、内容、デザイン、レイアウト、キャッチコピー等の工夫を学んでください。お客様への動員、誘店企画内容から成功への思いをかき取ってください。POPやチラシの作成は授業内では不十分です。時間外でも積極的に取り組んでください。
受講学生へのメッセージ	学生ではありますが、業界人としての視点をもって多くの現場を見てください。楽器業界に就職した際のシミュレーションができると良いと思います。復習は必ず行ってください。グループ活動では個人の参画意識が重要です。やむを得ない場合を除き、授業は休まないよう個人の責任感を強く意識してください。オフィスアワー：質問等は授業前後に教室で対応します。

【MS】マーチング指導法 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	日本マーチングバンド協会公認指導員・39年						
授業内容	マーチング指導者としての知識修得や実技演習を通して、幅広い年齢層に対応できるマーチング総合指導者としての基本を学びます。実技と併行してそれぞれの年齢層に合わせた指導法の研究を行います。						
授業方法	実技実習及び講義形式で行います。理解を深めるためDVDを、音楽と動きの調和のためCDを活用します。個人課題及び3～4人のグループ学修活動を行います。						
到達目標	知識・理解	マーチング知識、実技修得のみでなく、幼児、小学生、中学生、高校生を指導する際に必要な教育的意義を理解し、学校教育としてのマーチング活動の指導ができる。			◎		
	思考・判断・表現	優秀な指導者としての在り方を常に思考し、的確な判断力と学習者の興味を引き出し効果的な指導ができる人間性を有する。			△		
	技能	率先垂範出来る実技を身につけることが出来る。指導に当たって模範を示す技能のみならず、学修者が陥りやすい動作等を的確に示すことが出来る。			◎		
	関心・意欲・態度	マーチング全般に興味を持ち、意欲的に研究しオールマイティーな指導者として自信を持って指導できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		42	3	-	5	50
	実技検定		2	2	30	6	40
	課題作成		3	3	-	4	10
	合計(点)		47	8	30	15	100
評価の特記事項	グループ活動は個の存在が重要です。責任感を強く持ち、欠席しないようにしましょう。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『カラーガード・マーチングパーカッション基本テクニック』日本マーチングバンド協会(旧日本マーチングバンド指導者協会)(2,160円)						
参考書・教材	自作資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス 実技I 基本動作(停止間の動作、専門用語一覧表による専門用語の確認) [準備・課題]学習内容の復習。専門用語は常に携帯できるカードにしましょう(3h)						
2	行進間の動作(行進しながらの方向転換の方法) [準備・課題]学習内容の復習。リズムカルな曲に合わせて動いてみましょう(3h)						
3	L字課題(1) 個人動作を総合的に実施する課題(基本動作を一連の動きに集約し連続して行う内容)基本動作として重要。 [準備・課題]学習内容を復習する。反復練習しましょう(4h)						
4	L字課題(2) CDを使用し「音楽と動きの調和」の基本を修得する T字課題(1)(2)L字をさらに発展させた課題。CDを使用する(左右方向に連続動作する) [準備・課題]学習内容を復習する。反復練習しましょう(4h)						
5	T字課題及びL字課題のまとめ L字、T字とも個人の動きの完成度を高める意識を高くする [準備・課題]学習内容を復習。個人の動きの完成が基本。時間を見つけ反復練習しましょう(3h)						
6	実技II ドリルパターン実習、図表の書き方(グループでパターンを動きながらそれぞれの動きを図表化する) [準備・課題]学習内容を復習。ドリルパターンを繰り返し書くことで確実になります。(5h)						
7	コンビネーション(1) 3～4人一組のグループ(スコード)の動き「デイリートレーニングI」 [準備・課題]学習内容を復習。略号で示される動きを想像できるようにしましょう(3h)						
8	コンビネーション(2) デイリートレーニングI、パターン① [準備・課題]学習内容を復習。自分のデイリートレーニングを作成しましょう(4h)						
9	コンビネーション(3)パターン①、パターン②、個人作成課題提示(128拍)提出課題。実技試験課題提示(T字、コンビネーション課題) [準備・課題]学習内容を復習。個人作成課題を作成してください(6h)						
10	コンビネーション(4) 個人作成課題をグループで動く(作成者が指導する。(伝達力、指導力を身につける) [準備・課題]学習内容を復習。発表作品の全ポジションを動けるようにしてください(3h)						
11	コンビネーション(5) グループ練習。グループ発表及び評価。L字、T字、コンビネーションのまとめ [準備・課題]学習内容を復習。次週実技テストを行います。完成度を高めてください(10h)						
12	実技テスト T字課題(個人の評価)、コンビネーション(グループ内での個人の評価) ※テスト実施前に練習時間を設ける。 [準備・課題]テスト結果を検証し課題を見つける。スネアドラム・スティックを用意してください(1h)						
13	実技III マーチングパーカッションの基本(1) 楽器の種類とチューニング及び奏法(スネアドラム、マルチタム、バスドラム) [準備・課題]学習内容を復習。可能なら練習台、不可能ならゴム版、雑巾を準備してください(1h)						
14	マーチングパーカッションの基本(2) スネアドラムの基本奏法 [準備・課題]学習内容を復習。スネアドラム奏法はマーチングバンド指導者必須の技術です。反復練習しましょう(4h)						
15	マーチングパーカッションの基本(3) ドラムマーチの演奏(SD, QD, BD, Cym bのアンサンブル) ・夏期休暇課題提示「ドラムマーチの作曲又は編曲」1作品作成 [準備・課題]学習内容を復習。書法を確認してください。できる限り多くの作品を書きましょう。提出は1作品です(3h)						

時間外での学修	実技の修得は授業中だけでなく時間外でも個人練習、グループでの練習を行ってください。マーチングのコンクール、コンテストを視察しましょう。多くのDVD、CDが販売されています。そこから多くの実践例を学んでください。
受講学生へのメッセージ	マーチングに興味を持ってください。個人のレベルアップとともにグループでの活動が重要です。グループの中の個人を強く意識して責任をもって授業に参加してください。上履き、動きやすい服装で参加してください。 オフィスアワー：授業時間の前後に体育館、教室で質問、指導、グループ指導に対応します。積極的な姿勢を歓迎します。

【MA】マーチング指導法Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	日本マーチングバンド協会公認指導員・39年						
授業内容	マーチング総合指導者として必要なドラムメジャー、カラーガードの実技及び指導法、バンド全体指導としてデイリートレーニング、パレーディング（全日本吹連パレードコンテスト対応）の実技及び指導法を学びます。これから普及すると思われるステージドリルの研究を行います。コンテ作成の基本（書法の研究）舞台関連知識（舞台、幕、照明やスタッフの仕事を含む）やステージドリルのコンテ作成及び構成・演出の基本を学びます。						
授業方法	実技実習及び講義形式で行います。より理解を深めるためDVD、CDを活用します。						
到達目標	知識・理解	幅広い年齢層に対応できるマーチング総合指導者としての知識を持っている。ドリルフォーメーションを作成できる。			◎		
	思考・判断・表現	指導対象となる幅広い年齢層に相応しい指導法を常に思考し、適切に判断し指導ができる。誠実で好感を持たれる指導者である。			△		
	技能	率先垂範できる技能を持っている。マーチングパーカッション、ドラムメジャー、カラーガードの基本技能を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	マーチング指導者としての幅広い能力を身につける強い意志を持ち、現状に対応でき、新情報に敏感でありマーチング指導者としてのスキルを高める姿勢を持つ。指導者、教育者、音楽家として信頼される。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		42	3	-	5	50
	実技試験		2	2	30	6	40
	提出課題		3	3	-	4	10
	合計(点)		47	8	30	15	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	前期の『カラーガーズ・マーチングパーカッション基本テクニック』を使用します。						
参考書・教材	自作資料等を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	実技Ⅳ ドラムメジャー(1) 役割及び指揮杖について。停止間の動作と操法 [準備・課題]学習内容の復習。DVD等でドラムメジャーの演技、指揮を確認してください。(4h)						
2	ドラムメジャー(2) 行進間の動作と操法 [準備・課題]学習内容の復習。指揮杖がない時は代用品を工夫しましょう。学校備品があります。学内で使用してください。(4h)						
3	ドラムメジャー(3) パレーディング操法(実技試験課題提示) [準備・課題]学習内容の復習。姿勢、タイミング等に留意して正確なサインが出せる様にしましょう。(4h)						
4	実技Ⅴカラーガード(1) 特性、名称、4つのコントロール 基本奏法(オーダーアーム、ライトショルダーアーム、ランス、プレゼントアーム) [準備・課題]学習内容の復習。個人持ちの用具がない時は代用品を工夫しましょう。学校備品があります。学内で使用してください(5h)						
5	カラーガード(2) ランスとプレゼントアーム、ドロップ、セカンドテクニック①スピン [準備・課題]学習内容の復習。機会を見つけ練習しましょう。正確なリズム感が重要です。(5h)						
6	カラーガード(3) セカンドテクニック①及び②スワイプ。個人作成課題提示(128拍の振り付け) ※実技試験課題提示。(ドラムメジャー及びカラーガード) [準備・課題]学習内容の復習。振付課題の作成と実技試験内容の確認をしましょう(6h)						
7	カラーガード(4) セカンドテクニック②、個人作成課題を練習(作成者が指導、グループ1作品選ぶ) [準備・課題]学習内容の復習。グループ作品を確認し個人練習しましょう(4h)						
8	カラーガード(5) グループ練習と発表。カラーガード実技のまとめ [準備・課題]学習内容の復習。引き続き色々な様式の音楽を選び振付を作成しましょう(6h)						
9	実技Ⅵパレーディング(全日本吹奏楽連盟パレードコンテスト課題)指揮杖、カラーガード活用 [準備・課題]学習内容の復習。各コーナーの90度方向転換に注目し、方法を考えてください。DVDが参考になります。(3h)						
10	実技試験(ドラムメジャー、カラーガード)練習後実施 [準備・課題]学習内容の復習。個人評価を必ず行ってください(1h)						
11	マーチングの種類、編成及び演奏・演技形態(DVD鑑賞)、ドリルコンテ作成(書法の研究) [準備・課題]学習内容の復習。書法の確認をし、書けるようにしましょう(4h)						
12	ステージドリル作成(1) (舞台関連知識…舞台、幕、照明、スタッフの仕事)使用曲についての解説(スコア) オープニングの動きと演出。“音楽と動きの調和”。演出プラン、ストーリーボード、コンテ作成 [準備・課題]学習内容の復習。使用曲をアナライズし、オープニングコンテを作成しましょう(10h)						
13	ステージドリル作成(2) オープニングコンテ作成及び中間部のコンテ作成:カラーガード、マーチングパーカッションの活用 [準備・課題]学習内容の復習。中間部のコンテ作成をしましょう(6h)						
14	ステージドリル作成(3) 中間部及びエンディングの動きと演出。 コンテ作成 [準備・課題]学習内容の復習。コンテ作成をしましょう(6h)						
15	ステージドリル作成(4) コンテ作成のまとめ。全曲のコンテを作成。 ※作成コンテを提出。 [準備・課題]学習内容の復習。引き続き時間を見つけてコンテを作成しましょう。後期授業内容の確認をしましょう。(10h)						

時間外での学修	マーチングの上位大会（東海、北陸、関東大会等及び全国大会を可能な限り視察、鑑賞しましょう。 編成、ドリルフォーメーション、使用曲、構成・演出、使用楽器（打楽器はメーカー）を学びましょう。 学校備品のメジャーバトン、フラッグを使用し、授業前後で復習しましょう。
受講学生へのメッセージ	幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校のマーチングを指導する際、園や学校を訪問します。教育の一環として活動していることを念頭におき、信頼される指導が出来るよう学んでください。マーチング指導者は清潔な身だしなみ、言動の正しさ、誠実さが求められます。疑問はその場で解決しましょう。 オフィスアワー：質問は体育館、教室で授業前後に対応します。

【MS】楽器店実習		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	服部 篤典・渡辺 博夫・鈴木 孝育						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業内容	主に愛知県、岐阜県内の楽器店（管楽器専門店、総合楽器店）にインターン実習で出向き、店頭での楽器等販売や日頃の楽器店業務を理解する。事前に実習での心構え等を学修したのち実習へ向かいます。実際の楽器店業務に携わることで、楽器店従業員、リペア技術者としての基礎を学び、就職した際、スムーズに業務への対応ができるようにする。						
授業方法	講義において心構え等を学修したあと、各楽器店へ出向き、実際の楽器店業務を行います。実習後は、実習内容、反省点をレポート提出します。						
到達目標	知識・理解	各楽器店担当者のアドバイスを理解し、的確な業務遂行ができる。			○		
	思考・判断・表現	楽器店の業務内容について十分に理解をすることによって、楽器店就職意識をより明確にする。			○		
	技能	各楽器の構造や演奏技術に関する知識を持ってお客様と接する事が出来る。また、楽器店担当者からの依頼業務について、自身で考え解決ができる。			○		
	関心・意欲・態度	楽器店上司や店頭スタッフとのコミュニケーション作りが円滑にできる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	言語挨拶・整頓美化		20	-	-	-	20
	迅速性		-	20	-	-	20
	接客態度		-	-	20	-	20
	総合所見		-	-	-	40	40
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	実習評価用紙に基づいて算出しますが、総合所見コメントも加味します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽器店担当者から必要資料は配布されます。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	受け入れ可能について各楽器店へ打診、人数、日程調整他 本人の意向についても確認 ネット等で情報収集 [準備・課題] 楽器店実習の意味について理解する (1h)						
2	実施内容等を楽器店社長、マネージャー経由でご担当者で説明し了解を得る [準備・課題] 楽器店のスタイルはそれぞれ異なる職種を理解させる (1h)						
3	将来の就職先と言う意味合いも検討し、愛知、岐阜県内及び、出身県内楽器店への人選を行う [準備・課題] 学んだ内容の復習 (1h)						
4	スケジュールについて個々の学生と調整を行う [準備・課題] 訪問先の楽器事情を理解させる (1h)						
5	決定後、楽器店社長、マネージャー経由でご担当者あてに実施内容詳細及び参加学生名等ご連絡 [準備・課題] 学んだ内容の復習 (1h)						
6	実習前日までに学生に対して服装及び臨む姿勢等説明 [準備・課題] 前日までに、訪問者が直接楽器店に連絡をし確認しておく (1h)						
7	実習開始 終了後レポート作成及びご担当者からヒアリング [準備・課題] 業務等レポート作成 (1h)						
8	実習開始 終了後レポート作成及びご担当者からヒアリング [準備・課題] 業務レポート作成 (1h)						
9	実習開始 終了後レポート作成及びご担当者からヒアリング [準備・課題] 業務レポート作成 (1h)						
10	実習開始 終了後レポート作成及びご担当者からヒアリング [準備・課題] 業務レポート作成させ、楽器店に出向きヒアリングを行う (1h)						
11	実習開始 終了後レポート作成及びご担当者からヒアリング [準備・課題] 業務レポート作成させ、楽器店に出向きヒアリングを行う (1h)						
12	楽器店実習評価用紙回収し、現状分析実施 [準備・課題] 業務レポート作成させ、楽器店に出向きヒアリングを行う (1h)						
13	個々のレポートを見ながら状況把握。また求人情報についても確認する [準備・課題] 社会人マナーでの礼状書き方を指導し投函 (1h)						
14	個々のレポートを見ながら状況把握。また求人情報についても確認する [準備・課題] 社会人マナーでの礼状書き方を指導し投函 (1h)						
15	個々のレポートを見ながら状況把握。また求人情報についても確認する [準備・課題] 楽器店評価を訪問者に説明し、指摘部については、細かく説明する。						
時間外での学修	各楽器店のホームページを見る事で、店舗の独自性や主力商品等を理解して、単なる実習経験ではなく、楽器店の様々な業務内容を理解して下さい。						
受講学生へのメッセージ	初めて会うスタッフの方々や環境の違いなどで緊張の連続になるかもしれませんが、いろんな事を吸収して下さい。 挨拶は、元気にはっきりと。第一印象で決まってしまうので。 オフィスアワーは毎週水曜日授業終了後F101教室で行います。						

【MS】楽器講師資格対策		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者(含 高等学校教員)・31年						
授業内容	楽器店、楽器メーカーが展開する音楽教室の講師資格取得のための講座です。ここでは管楽器の講師を目指す学生に対して講師試験の対策や、実際のレッスンで生徒から何を求められ何を指導していくかを学びます。卒業後講師としての確かな指導ができ、生徒から信頼される講師を目指します。						
授業方法	ポピュラー音楽史、ポピュラー音楽理論などの講義と並行し、ポピュラーミュージックに必要な実技、またクラシック課題のレッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	基本的なコードが理解でき簡単なアドリブ演奏ができる。			◎		
	思考・判断・表現	ジャズ、ポピュラーでのリズム、アーティキュレーションが演奏できる。			○		
	関心・意欲・態度	楽器の扱い方、初歩の演奏指導ができ、中級者への楽曲の指導ができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		50	-	-	-	50
	課題		20	10	-	-	30
	受講態度		-	10	-	10	20
	合計(点)		70	20	-	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容等 [準備・課題]音楽基礎知識の予習(1~2h)						
2	筆記試験対策1 楽典一般：音程、音階ほか [準備・課題]音楽基礎知識(楽典一般)の予習(1~2h)						
3	ポピュラー奏法対策1 ポピュラーミュージックの基本的な奏法1 [準備・課題]本時学習内容(基本的なポップス奏法：ロックポップス系)の復習・練習(1~2h)						
4	筆記試験対策2 楽典一般：音階、コードネームほか、小テスト [準備・課題]本時学習内容(音階・コードネームの基本)の復習(1~2h)						
5	ポピュラー奏法対策2 ポピュラーミュージックの基本的な奏法2 [準備・課題]本時学習内容(基本的なポップス奏法：ジャズスウィング形)の復習・練習(1~2h)						
6	筆記試験対策3 コードネームに関する知識1 [準備・課題]本時学習内容(コードネーム)の復習(1~2h)						
7	ポピュラー奏法対策3 簡単なアドリブ1 [準備・課題]課題曲テーマ部分およびアドリブ部分の練習(1~2h)						
8	筆記試験対策4 コードネームに関する知識2、小テスト [準備・課題]本時学習内容(コードワーク)の復習(1~2h)						
9	ポピュラー奏法対策4 簡単なアドリブ2：アドリブフレーズ課題提出 [準備・課題]PMS課題曲の練習(1~2h)						
10	各個人レッスン1 課題曲のレッスン：クラシック課題1 [準備・課題]PMSクラシック課題1の練習(1~2h)						
11	各個人レッスン2 課題曲のレッスン：クラシック課題2 [準備・課題]PMSクラシック課題2の練習(1~2h)						
12	各個人レッスン3 課題曲のレッスン：ポピュラー課題1 [準備・課題]PMSポピュラー課題曲1の練習(1~2h)						
13	各個人レッスン4 課題曲のレッスン：ポピュラー課題2 [準備・課題]PMSポピュラー課題曲2の練習(1~2h)						
14	試験対策1 実技 [準備・課題]試験曲(オーディション課題曲)の練習(1~2h)						
15	試験対策2 理論編 [準備・課題]本時学習内容(オーディション理論筆記試験対策)の復習(1~2h)						
時間外での学修	音楽理論の理解と、楽器技術の向上が共に求められるので、授業以外での学習、修練が必要となります。						
受講学生へのメッセージ	基本的な音楽理論を理解した上で受講してください。一般的にポピュラーな楽器(具体的にはフルート、サクソ、クラリネット、トランペット等)を専攻する学生を対象としています。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】卒業演奏 I (ピアノ)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	各々の希望する楽曲を1～2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。						
授業方法	演習を中心として、音楽的知識や技術・表現力修得に向け、一人ずつ演奏・指導しながら授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を十分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。			△		
	思考・判断・表現	作品に対するイメージや考えのもと、演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	卒業演奏にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	40	-	80
	レポート		10	-	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		10	40	40	10	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方 レッスン(1) 選曲した曲のレッスン (課題の確認) [準備・課題] レッスンができるように準備しておく (2～3h)						
2	レッスン(2) 譜読みの確認 (課題の確認) [準備・課題] 譜読みが正確か確認をする (2～3h)						
3	レッスン(3) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] スムーズに弾けるようにする (2～3h)						
4	レッスン(4) テクニックの向上 (課題の確認) [準備・課題] 反復練習をしてテクニックを向上する (2～3h)						
5	レッスン(5) 強弱・曲想 (課題の確認) [準備・課題] 強弱、音楽用語などを理解して弾く (2～3h)						
6	レッスン(6) テンポアップ (課題の確認) [準備・課題] 徐々にテンポを上げて弾けるようにする (2～3h)						
7	レッスン(7) バランス (課題の確認) [準備・課題] 響きのバランスを考える (2～3h)						
8	レッスン(8) 音色 (課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい音色を研究する (2～3h)						
9	レッスン(9) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい音楽表現をする (2～3h)						
10	レッスン(10) 部分練習 (課題の確認) [準備・課題] 演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏力を向上する (2～3h)						
11	レッスン(11) 表現力 (課題の確認) [準備・課題] 表現力豊かな演奏ができるようにする (2～3h)						
12	レッスン(12) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] 暗譜に取り組む (2～3h)						
13	レッスン(13) 確実な暗譜 (課題の確認) [準備・課題] 確実に暗譜演奏ができるようにする (2～3h)						
14	レッスン(14) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] 弾き込んで演奏力を高める (2～3h)						
15	レッスン(15) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] 音楽性を高め仕上げる (2～3h)						
時間外での学修	楽曲演奏の練習はもちろん、演奏会等に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を十分に表現できるよう幅広い学修を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	心と頭と身体を使い、一音一音に気持ちを込めた演奏を心掛けましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MA】卒業演奏Ⅱ(ピアノ)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	各々の希望する楽曲を1～2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。						
授業方法	演習を中心として、音楽的知識や技術・表現力修得に向け、一人ずつ演奏・指導しながら授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を十分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。			△		
	思考・判断・表現	作品に対するイメージや考えのもと、演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	卒業演奏にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	40	-	80
	レポート		10	-	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		10	40	40	10	100
評価の特記事項	実技試験は卒業演奏会(大垣市サイトピアセンター音楽堂)として行います。受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方 レッスン(1) 選曲した曲のレッスン (課題の確認) [準備・課題] レッスンができるように準備しておく (2～3h)						
2	レッスン(2) 譜読みの確認 (課題の確認) [準備・課題] 譜読みが正確か確認をする (2～3h)						
3	レッスン(3) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] スムーズに弾けるようにする (2～3h)						
4	レッスン(4) テクニックの向上 (課題の確認) [準備・課題] 反復練習をしてテクニックを向上する (2～3h)						
5	レッスン(5) 強弱・曲想 (課題の確認) [準備・課題] 強弱、音楽用語などを理解して弾く (2～3h)						
6	レッスン(6) テンポアップ (課題の確認) [準備・課題] 徐々にテンポを上げて弾けるようにする (2～3h)						
7	レッスン(7) バランス (課題の確認) [準備・課題] 響きのバランスを考える (2～3h)						
8	レッスン(8) 音色 (課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい音色を研究する (2～3h)						
9	レッスン(9) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい音楽表現をする (2～3h)						
10	レッスン(10) 部分練習 (課題の確認) [準備・課題] 演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏力を向上する (2～3h)						
11	レッスン(11) 表現力 (課題の確認) [準備・課題] 表現力豊かな演奏ができるようにする (2～3h)						
12	レッスン(12) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] 暗譜に取り組む (2～3h)						
13	レッスン(13) 確実な暗譜 (課題の確認) [準備・課題] 確実に暗譜演奏ができるようにする (2～3h)						
14	レッスン(14) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] 弾き込んで演奏力を高める (2～3h)						
15	レッスン(15) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] 音楽性を高め仕上げる (2～3h)						
時間外での学修	楽曲演奏の練習はもちろん、演奏会等に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を十分に表現できるよう幅広い学修を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	2年間の集大成となります。自分の学んだものが存分に発揮できるよう取り組みましょう。オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MS】卒業演奏 I (電子オルガン)		音楽総合学科		2年前期		
		2単位	必修	演習	30時間	
教員	松井 宏行・上園 弥生					
資格・制限等	Orコース必修					
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年 上園： 音楽講師・30年					
授業内容	卒業演奏に向けた、自編曲の制作と演奏に取り組みます。制作面を中心に進めながら、それに伴う演奏にも取り組みます。制作・演奏ともに、卒業に向けた高いクオリティを追求していきます。					
授業方法	個人レッスン					
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。			○	
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に編曲・演奏に取り入れて表現することができる。			◎	
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って編曲・演奏することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	各曲を編曲・演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	20	25	25	-	70
	準備・課題	5	5	5	-	15
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、本授業で取り組んだ曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。					
テキスト	授業開始後、必要に応じて案内します。					
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	選曲 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題] 曲の前期に取り組む範囲の冒頭1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習してくる。(2～3h)					
2	編曲と制作(1) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の1/5程度まで [準備・課題] 1/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
3	編曲と制作(2) 前回と同範囲 [準備・課題] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
4	編曲と制作(3) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の2/5程度まで [準備・課題] 2/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
5	編曲と制作(4) 前回と同範囲 [準備・課題] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
6	編曲と制作(5) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の3/5程度まで [準備・課題] 3/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
7	編曲と制作(6) 前回と同範囲 [準備・課題] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
8	編曲と制作(7) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の4/5程度まで [準備・課題] 4/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
9	編曲と制作(8) 前回と同範囲 [準備・課題] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
10	編曲と制作(9) 前期に取り組む範囲全体 [準備・課題] 前期に取り組む範囲全体のアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)					
11	編曲と制作(10) 前回と同範囲 [準備・課題] 前期の範囲全体を通した演奏を練習。(2～3h)					
12	演奏追究(1) 例. 細部に特化したレッスン [準備・課題] アドバイスされた箇所(例. 細部)を練習し、演奏に反映する。(2～3h)					
13	演奏追究(2) 例. 構成の軸となる箇所に特化したレッスン [準備・課題] アドバイスされた箇所(例. 構成の軸)を練習し、演奏に反映する。(2～3h)					
14	演奏追究(3) 例. 演奏に伴う体全体の動きを意識したレッスン [準備・課題] アドバイスされた箇所(例. 体全体の動き)を練習し、演奏に反映する。(2～3h)					
15	前期の範囲の仕上げ～最終確認 [準備・課題] 試験に向けた演奏仕上げをする。(2～3h)					
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> 各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 選曲に時間を要する場合があります。休暇中に予め、広い範囲から複数の曲をピックアップしておいてください。 演奏面のレッスンは主に第12週以降で取り組みますが、それ以前の編曲過程でもある程度の演奏ができる必要があります。第11週以前の準備・課題においても、演奏の練習を進めるようにしましょう。 					
受講学生へのメッセージ	<p>いよいよ卒業演奏への着手です。 これまで学んだことをたくさん活かして、また新たに学ぶことも加えて、自分ならではの編曲に精一杯取り組みましょう。 [オフィスアワー] 当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度</p>					

【MA】卒業演奏Ⅱ(電子オルガン)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年 上園： 音楽講師・30年						
授業内容	前期の同授業に引き続き、自編曲の制作と演奏に取り組みます。前半では制作面の仕上げを行い、後半では演奏面により深く取り組みます。制作・演奏ともに、卒業に向けた高いクオリティを追求していきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。			○		
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に編曲・演奏に取り入れて表現することができる。			◎		
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って編曲・演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	各曲を編曲・演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、本授業で取り組んだ曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	前期で使用したものがあ場合は、それを持参すること。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期終了後からの制作進捗状況の確認 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]前期の制作のつづきから、残りの1/3程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習してくる。(2～3h)						
2	編曲と制作(1) 前期のつづき～残りの1/3程度まで [準備・課題]残り1/3程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
3	編曲と制作(2) 前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～次の1/3程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
4	編曲と制作(3) 前期のつづき～残りの2/3程度まで [準備・課題]残りの2/3程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
5	編曲と制作(4) 前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～最後まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
6	編曲と制作(5) 前期のつづき～最後まで [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
7	演奏追究(1) 細部に特化したレッスン [準備・課題]ここまで一通り編曲を終えた楽曲の冒頭1/3程度まで、演奏を練習してくる。(2～3h)						
8	演奏追究(2) 前回からのクオリティーアップ [準備・課題]楽曲の冒頭1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
9	演奏追究(3) 構成の軸となる箇所に特化したレッスン [準備・課題]曲のつづき～2/3程度まで、演奏を練習してくる。(2～3h)						
10	演奏追究(4) 前回からのクオリティーアップ [準備・課題]楽曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
11	演奏追究(5) 全体の流れを意識したレッスン [準備・課題]曲のつづき～最後まで、演奏を練習してくる。(2～3h)						
12	演奏追究(6) 前回からのクオリティーアップ [準備・課題]楽曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
13	編曲と制作(6) 編曲の総合的な確認 [準備・課題]卒業演奏に向けて、最終的な制作面の調整をする。(2～3h)						
14	演奏追究(7) 演奏の総合的な確認 [準備・課題]卒業演奏に向けて、最終的な演奏仕上げをする。(2～3h)						
15	リハーサルと最終確認 [準備・課題]卒業演奏本番を意識した演奏準備をする。(2～3h)						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・後期授業第1週の時点で、前期の最終授業よりも編曲制作の進捗状況が進んでいることを期待します。また、演奏面でも前期以上のクオリティに達していることを前提としますので、休暇中も前期の内容を維持～向上できるように積極的に練習に取り組みましょう。 ・演奏面のレッスンは主に後半(第7週以降)で取り組みますが、それ以前の編曲過程でもある程度の演奏ができる必要があります。前半の準備・課題においても、演奏の練習を進めるようにしましょう。 						
受講学生へのメッセージ	<p>いよいよ卒業演奏に向けた仕上げの授業です。自分ならではの編曲に、自分ならではの演奏を重ね、最高の演奏が披露できることと思います。これまで学んだことをたくさん活かして、精一杯取り組みましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度</p>						

【MS】卒業演奏 I (ウインドアンサンブル)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	服部 篤典・鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	卒業演奏に向け基礎応用力、演奏技術、表現力の向上を図るためのレッスンをを行います。各々のレベルに合わせた希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解して演奏に臨みます。						
授業方法	演奏曲目の個人レッスンを各々のレベル進捗状況に応じて行います。ピアノ伴奏の入るものに関しては後半ピアノ伴奏付きのレッスンとなります。						
到達目標	知識・理解	楽曲の背景にあるものについて理解している。			△		
	思考・判断・表現	楽譜を深く理解し音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。			○		
	技能	確実な音程とアーティキュレーションで、楽曲に合った演奏表現ができ、ピアニストとの意思伝達ができ安定したアンサンブルの演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的な演奏技術の向上と質の高い演奏を目指す努力ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	20	40	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	成長度		10	-	10	-	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	取り組む楽曲は各自で購入。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方/楽曲選曲 各々のレベルに合わせた楽曲を担当教員と相談の上選曲します。 [準備・課題] 楽曲選択のための研究 (2h~3h)						
2	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [正確な譜読みをする] (2h~3h)						
3	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [正確な譜読みをする] (2h~3h)						
4	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [アーティキュレーションに留意する] (2h~3h)						
5	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [アーティキュレーションに留意する] (2h~3h)						
6	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2h~3h)						
7	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2h~3h)						
8	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2h~3h)						
9	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2h~3h)						
10	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2h~3h)						
11	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2h~3h)						
12	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2h~3h)						
13	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2h~3h)						
14	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [仕上げ] (2h~3h)						
15	最終確認 試験会場でのリハーサル [準備・課題] リハーサルの復習と確認 (2h~3h)						
時間外での学修	日ごろから練習時間を確保し計画的に練習を進めてください。より高いレベルの演奏ができるように努力しましょう。						
受講学生へのメッセージ	2年間の成果を発表する卒業演奏の場です。自分の力が最大限に発揮できるように頑張りましょう。オフィスアワーはB104にて水曜日16:40~。						

【MA】卒業演奏Ⅱ(ウインドアンサンブル)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	服部 篤典・鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	卒業演奏に向け基礎応用力、演奏技術、表現力の向上を図るためのレッスンをを行います。各々のレベルに合わせた希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解して演奏に臨みます。						
授業方法	演奏曲目の個人レッスンを各々のレベル進捗状況に応じて行います。ピアノ伴奏の入るものに関しては後半ピアノ伴奏付きのレッスンとなります。						
到達目標	知識・理解	楽曲の背景にあるものについて理解している。			△		
	思考・判断・表現	楽譜を深く理解し音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。			○		
	技能	確実な音程とアーティキュレーションで、楽曲に合った演奏表現ができ、ピアニストとの意思伝達ができ安定したアンサンブルの演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的な演奏技術の向上と質の高い演奏を目指す努力ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	20	40	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	成長度		10	-	10	-	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。実技試験は卒業演奏会として、サイトピアセンター音楽堂にて行います。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	取り組む楽曲は各自で購入。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方/楽曲選曲 各々のレベルに合わせた楽曲を担当教員と相談の上選曲します。 [準備・課題] 楽曲選択のための研究 (2h~3h)						
2	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [正確な譜読みをする] (2h~3h)						
3	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [正確な譜読みをする] (2h~3h)						
4	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [アーティキュレーションに留意する] (2h~3h)						
5	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [アーティキュレーションに留意する] (2h~3h)						
6	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2h~3h)						
7	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2h~3h)						
8	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2h~3h)						
9	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2h~3h)						
10	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2h~3h)						
11	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2h~3h)						
12	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2h~3h)						
13	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2h~3h)						
14	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択曲の研究及び練習 [仕上げ] (2h~3h)						
15	最終確認・試験会場を想定しての発表 [準備・課題] リハーサルの復習と確認 (2h~3h)						
時間外での学修	日ごろから練習時間を確保し計画的に練習を進めてください。より高いレベルの演奏ができるように努力しましょう。						
受講学生へのメッセージ	2年間の成果を発表する卒業演奏の場です。自分の力が最大限に発揮できるように頑張りましょう。オフィスアワーはB104にて水曜日16:40~。						

【MS】卒業研究 I		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫・松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 松永：楽器店修理販売職・19年						
授業内容	1年次に学修した、基礎技術から応用的な高度なりペア技能を身につけるとともに、技術力だけではなく、管楽器類のハード、ソフト両面の幅広い知識を更に深める。これらからテーマを決めていって下さい。						
授業方法	前期の授業については、基礎力から応用力を身につける事をまず行います。リペア技能についても、一つの手法だけではなく、多くのプロセスがある事を理解し、自分にとってやりやすい手法を早くに確立する事。管楽器文献、ネット検索での情報収集等幅広い分野から取り入れ、知識向上を図る。また、疑問点等が発生した場合、授業内で取り上げ、クラスでの討議の場を設ける事もあります。						
到達目標	知識・理解	仕組み、構造の理解を基本として、より高度なりペア技能や今日に至るまでの管楽器仕様の変遷を理解する。			△		
	思考・判断・表現	管楽器の構造等を理解し、自身の考えるテーマに沿った考え方や表現が出来る。			○		
	技能	プレゼンテーションを十分に理解して、伝達法や資料のまとめがしっかり出来る。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器全般に関する関心や興味を日頃から持ち、自らが率先してリペア技能、知識を向上する事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』ヤマハ株式会社(上・下巻)1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	管楽器文献・各社カタログ・ネット検索等						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方 [準備・課題] リペア応用の授業と並行して行う意味を理解させる (1h)						
2	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] 現在の自己作業をよく考える復習 (2h~3h)						
3	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] 現在の自己作業をよく考える復習 (2h~3h)						
4	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] 作業を通しながら、疑問点を抽出させる (2h~3h)						
5	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] 疑問点に対して、対全員なのか個人なのか説明の時間を設ける (2h~3h)						
6	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] 疑問点に対して、対全員なのか個人なのか説明の時間を設ける (2h~3h)						
7	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] テーマを決めるにあたっての諸注意を行う (2h)						
8	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] 先輩達が行った発表を参考に説明する。(2h)						
9	木管楽器、金管楽器応用実習 [準備・課題] テーマに対する相談を行う、卒業研究という重要性についても (2h~3h)						
10	木管楽器、金管楽器応用実習 情報収集 [準備・課題] テーマに対する相談を行う。卒業研究という重要性についても (2h~3h)						
11	木管楽器、金管楽器応用実習 情報収集 [準備・課題] テーマに対する相談を行う。卒業研究という重要性についても (2h~3h)						
12	木管楽器、金管楽器応用実習 情報収集 [準備・課題] ネット検索等幅広い分野から情報収集を行う (2h~3h)						
13	木管楽器、金管楽器応用実習 情報整理 [準備・課題] ネット検索等幅広い分野から情報収集を行う (2h~3h)						
14	木管楽器、金管楽器応用実習 情報整理 [準備・課題] ネット検索等幅広い分野から情報収集を行う (2h~3h)						
15	木管楽器、金管楽器応用実習 情報整理 [準備・課題] ネット検索等幅広い分野から情報収集を行う (2h~3h)						
時間外での学修	学生間での問題解決していく事も必要になってきますから、問題点等を必ずメモ等で残すようにしてください。解決策が見出されれば、必ず追記しておく事。情報収集については、パソコンの使用頻度が高くなってきますから、学内で使用する場合は、空き時間を効率よく利用して下さい。						
受講学生へのメッセージ	幅広い視野からの発表は1年次生にとっても大変参考になります。人前での発表(プレゼンテーション)は、相手に(聞く側)しっかり伝達する難しさを十分に理解して発表に臨んで下さい。オフィスアワーは毎週火曜日授業終了後f号館101教室で行います。						

【MA】卒業研究Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫・松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 松永：楽器店修理販売職・19年						
授業内容	2年間の集大成としての意識を高く持って、管楽器（打楽器類については原則としてテーマにしない）を幅広い角度から掘り下げる。また、既存に囚われない豊かな発想を持ち臨んでほしい。						
授業方法	実習発表では、プレゼンテーションの進行をよく考えて、準備物（管楽器他）に漏れの無いようにしてください。パワーポイントを使用する場合、説明文すべてを画像に入れず、要点のみをまとめる事も必要です。限られた時間内で説明をするにあたって、よく整理して下さい。						
到達目標	知識・理解	仕組み、構造の理解を基本として、より高度な技能や、今日に至る管楽器の変遷を理解する。			◎		
	思考・判断・表現	管楽器の変遷を理解し、テーマに沿った考えや表現ができる。			◎		
	技能	パワーポイント等、しっかりと纏める事ができ、相手に対してしっかり理解させることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器全般に興味や関心を持ち、自らが率先して技能、知識を向上することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	受講態度		-	-	-	10	10
	発表（グループ発表含む）		30	30	30	-	90
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	実技発表、論文発表の区分はありますが、プロセスから発表までの達成度について評価します。欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15, 120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	管楽器文献、専門誌、各社カタログ等、木管楽器、金管楽器						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	発表テーマの決定 情報収集、準備物用意 [準備・課題]テーマを決定するために学んだ内容の復習（2h～3h）						
2	テーマに基づいた 情報収集、準備物用意 [準備・課題]決定テーマに基づいて学んだ内容の復習（2h～3h）						
3	情報収集、準備物用意 [準備・課題]決定テーマに基づいて学んだ内容の復習（2h～3h）						
4	情報収集、準備物用意 [準備・課題]決定テーマに基づいて学んだ内容の復習（2h～3h）						
5	情報整理、準備物用意 [準備・課題]決定テーマに基づいて学んだ内容の復習（2h～3h）						
6	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意 [準備・課題]発表に向けて準備物の復習（2h～3h）						
7	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意 [準備・課題]発表に向けて準備物の復習（2h～3h）						
8	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意 [準備・課題]発表に向けて準備物の復習（2h～3h）						
9	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意 [準備・課題]データを整理し、プレゼンの効果的をよく考えて復習する（2h～3h）						
10	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意 [準備・課題]データを整理し、プレゼンの効果的をよく考えて復習する（2h～3h）						
11	リハーサルに向け内容、時間配分修正 [準備・課題]まず、行ってみて内容や時間変更に着手する（2h～3h）						
12	リハーサルに向け内容、時間配分修正 [準備・課題]規定時間内に収まり、内容的に問題が無いか確認する（2h～3h）						
13	プレゼンテーションリハーサル 時間、内容、準備物等確認し、終了後修正を行い本番に臨む。 [準備・課題]学んだ内容の復習（2h～3h）						
14	プレゼンテーションリハーサル 時間、内容、準備物等確認し、終了後修正を行い本番に臨む。 [準備・課題]学んだ内容の復習（2h～3h）						
15	卒業研究発表 1年次生聴講で実施 [準備・課題]プレゼンは、社会人になっても必須であるため、意識改革をするには等の反省を行う（2h～3h）						
時間外での学修	パワーポイント作成は、PC台数を考慮し、個人持ちPCでの作成も取り入れてください。楽器の改造等は、実習楽器を除く廃棄品等を活用して行うようにしてください。						
受講学生へのメッセージ	人前での発表は誰もが緊張をするものですが、1年次生の聴講態度に負けないようしっかり伝えて下さい。オフィスアワーは毎週火曜日授業後F101教室で行います。						

【MS】卒業論文 I		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	自分で決めたテーマについて調べ、一年かけて論文形式に仕上げます。前半2回は講義形式、それ以降は面談（個人、グループ）でテーマの進み具合を担当教員と話し合います。						
授業方法	演習形式						
到達目標	知識・理解	論文にふさわしいテーマを決定する。			○		
	思考・判断・表現	過去の文献を探し、正しく記載する。			○		
	技能	論文に適した正しい文体でまとめることができる。			○		
	関心・意欲・態度	継続的にテーマに対する関心を持ち、担当教員と話し合いながら論文作成を進めることができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表（グループ発表含む）		-	-	-	20	20
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。中間発表を行い、途中経過の論文を提出することが単位の要件となります。						
テキスト	授業内でプリントを配布します。						
参考書・教材	各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	論文とはどのようなものか。構成、文体、引用の基礎知識 興味のあるテーマを複数探し提出する。 [準備・課題]学んだ内容の復習、テーマ候補を複数考える（2H）						
2	興味のあるテーマについて担当教員と個別で面談を行う。 過去の卒業論文、抄録を読み参考にする。 [準備・課題]論文テーマを絞り、類似するテーマの論文を読む（2H）						
3	テーマに関連する文献の検索（J-Stageなど） Web上の文章の引用について注意点 [準備・課題]学んだ内容の復習、自分のUSBに文献用ファイルを作成する（2H）						
4	担当教員と話し合いながら文献検索を行う。 [準備・課題]調べた文献の内容をまとめてファイルに整理する（2H）						
5	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。なぜ自分がこのテーマを選んだか書き始める。 [準備・課題]作成した「なぜ自分がこのテーマを選んだか」を完成させる（2H）						
6	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]論文の形式にのっとった文書設定を行う、文献を読み込みまとめる（2H）						
7	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]ページ番号をファイルに入れる。文献を読み込みまとめる（2H）						
8	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]見出しの形式を整える。文献を読み込みまとめる（2H）						
9	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]図書館に行き関連する本を借り、資料としてまとめる（2H）						
10	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]Webから得た資料を文献として形式を整えて使用する（2H）						
11	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]文献のまとめを論文に正しい形で引用する（2H）						
12	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]図、表の正しい使い方、タイトルを入れる（2H）						
13	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [準備・課題]論文の全体を考えるために見出しと流れを書き出す（2H）						
14	中間報告の準備を行う。報告は一人10分以内で、①研究のテーマ②現在どこまで進めたか③後期はどのように進めるか、を口頭で報告する。ここまで進んだ論文をプリントアウトして提出する。 [準備・課題]中間報告の準備、読む練習（2H）						
15	中間報告を行う。先週提出した論文を返却するのでコメントを確認、後期の予定を確認する。 [準備・課題]返却されたコメントに基づき論文を訂正する（2H）						
時間外での学修	各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要です。						
受講学生へのメッセージ	音楽に関わるものでしたらどんなテーマでも論文となります。 自分の興味があるものとことん追求しましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【MA】卒業論文Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	前期に行った中間報告を踏まえて、さらに実験や考察を重ねて1本の論文を完成させる。						
授業方法	演習形式						
到達目標	知識・理解	正しく先行研究論文の引用ができる。			○		
	思考・判断・表現	考察に自分の考えを正しい方法でまとめることができる。			○		
	技能	心理学論文の形式で卒業論文を提出する。(30字×40行、10枚以上) 発表用の抄録をまとめることができる。			○		
	関心・意欲・態度	関心を持ったテーマに継続的に取り組み、指導教員と話し合いながら作成することができる。初めて聞く人を対象としてわかりやすいプレゼンテーションができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表(グループ発表含む)		-	-	-	20	20
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。発表および論文の期日内での提出が単位の要件となります。						
テキスト	各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること。						
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]コメントに応じて訂正した論文を教員と共有し今後の方針を決定する(2H)						
2	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]論文の全体像がわかるように目次の作成を始める(2H)						
3	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]これまで調べた内容を基に考察を書き始める(2H)						
4	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]考察の方向性について教員の指導を受ける(2H)						
5	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]全体の論旨の流れが不自然でないか確認する(2H)						
6	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]結語部分を作成する(2H)						
7	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]テーマと考察が関連しているか、「はじめに」で述べた部分がすべて検討されているかを確認する(2H)						
8	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]教員あるいは他の学生に読んでもらいわかりにくい箇所がないか確認する(2H)						
9	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]英数字を半角にする、通して文献番号をつける(2H)						
10	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]論文タイトル、各章タイトルの形式を整える(2H)						
11	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [準備・課題]図と表の形式をチェックし、通し番号をつける(2H)						
12	本文提出第一次締切日(30字×40行、10枚以上。表紙と目次は本文に含まない。文献リストを含む) [準備・課題]文献リストを完成させる(2H)						
13	抄録締切日 (A4サイズで1~4枚以内、電子データも提出する) [準備・課題]抄録をまとめる。誤字脱字をチェックし、文献リストをつける(2H)						
14	卒業論文発表会リハーサル。各自抄録を読み(筆者→私、である→ですますに口語体に変えて読む)、より効果的なプレゼンテーションの工夫を行う。 [準備・課題]抄録を読む練習を行う(2H)						
15	卒業論文発表会。各自が行った研究について1人10分の発表を行う。卒業論文最終締切。 [準備・課題]他の学生の発表にコメントする。表紙、目次も含む完成した論文を提出する(2H)						
時間外での学修	各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要です。						
受講学生へのメッセージ	短大で卒業論文を課すところは多くありませんが、卒業後に、文書で音楽療法の成果をまとめる機会は意外と多いものです。将来の自分のために頑張りましょう。オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。						